2019 年度　学位論文（博士）

『都林泉名勝図会』における庭園描写の特徴

Characteristics of the Description at the *Miyako-rinsenn-meishou-zue*

（3/3）

京都造形芸術大学 大学院
芸術研究科 芸術専攻
白木朝乃

資料

『都林泉名勝図会』林泉図調査票

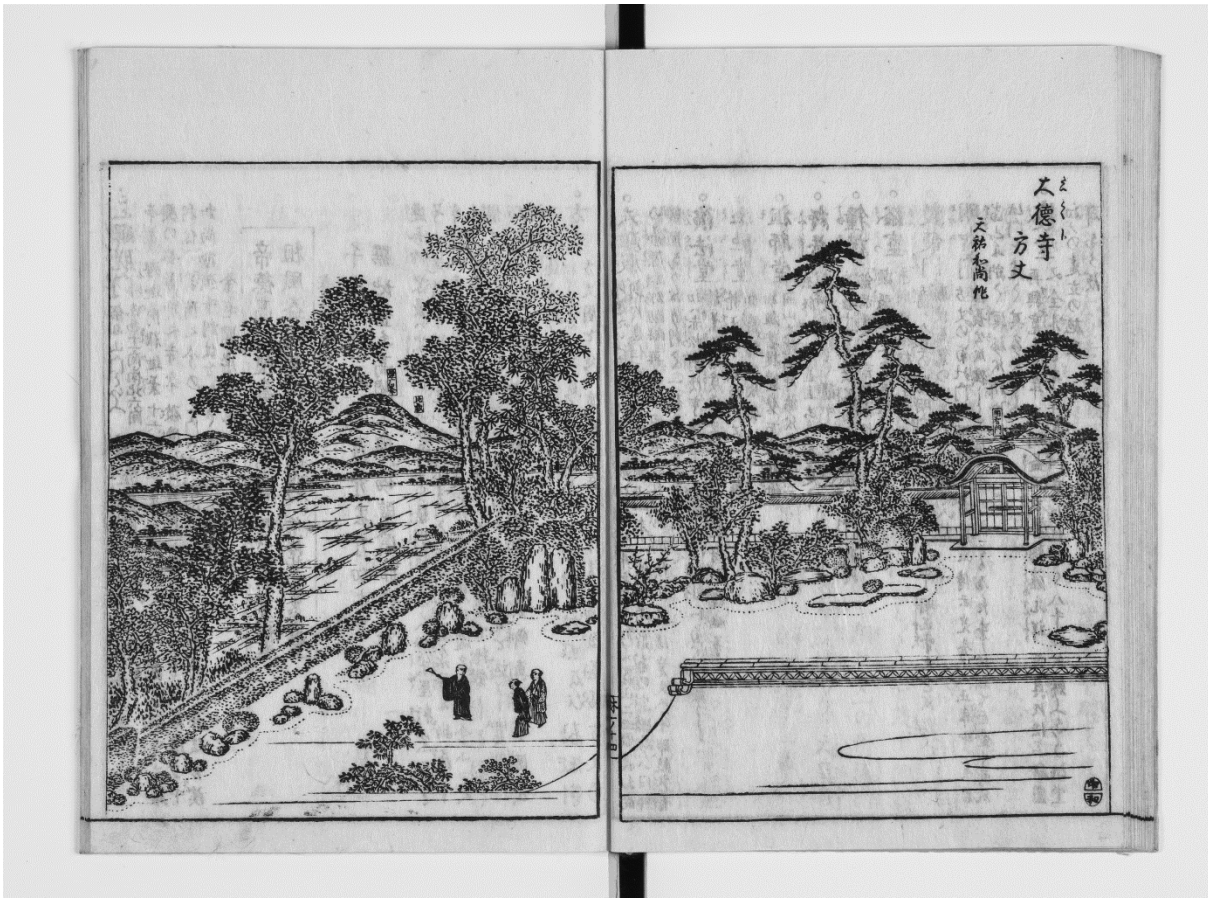
目次

調査票No. 1　大徳寺方丈 …… 1
調査票No. 2　大徳寺塔頭　寸松庵 …… 2
調査票No. 3　其貳 …… 3
調査票No. 4　大徳寺塔頭　芳春院 …… 4
調査票No. 5　大徳塔頭　碧玉庵　紫式部碑 …… 5
調査票No. 6　本法寺 …… 6
調査票No. 7　建仁寺　正伝院 …… 7
調査票No. 8　建仁塔頭　正伝院　織田有楽齋茶亭 …… 8
調査票No. 9　建仁塔頭　霊洞院 …… 9
調査票No. 10　本圀寺中　真如院 …… 10
調査票No. 11　真如院　烏帽子掛石 …… 11
調査票No. 12　西六條本願寺　對面所林泉 …… 12
調査票No. 13　〔枳殻馬場〕 …… 13
調査票No. 14　八條　遍照心院方丈　其一 …… 14
調査票No. 15　其貳 …… 15
調査票No. 16　大通寺中　實法院 …… 16
調査票No. 17　其貳 …… 17
調査票No. 18　大通寺　東林院 …… 18
調査票No. 19　東林院　其貳　南谷師書齋　幻華庵 …… 19
調査票No. 20　東寺　寶輪院 …… 20
調査票No. 21　宝輪院　茶亭庭 …… 21
調査票No. 22　東寺山吹　岡本氏林泉 …… 22
調査票No. 23　赤山社 …… 23
調査票No. 24　銀閣寺　林泉 …… 24
調査票No. 25　〔銀閣寺　林泉　其二〕 …… 25
調査票No. 26　銀閣　慈照寺　集芳軒 …… 26
調査票No. 27　黒谷西翁院　反古菴 …… 27
調査票No. 28　光雲寺 …… 28
調査票No. 29　南禅寺　方丈 …… 29
調査票No. 30　南禅寺　亀山法皇古墟 …… 30
調査票No. 31　南禅塔中　聴松院 …… 31
調査票No. 32　南禅塔中　歸雲院 …… 32
調査票No. 33　南禅塔中　牧護菴 …… 33
調査票No. 34　南禅　金地院　其一 …… 34
調査票No. 35　其貳 …… 35
調査票No. 36　知恩教院　方丈林泉　其一 …… 36
調査票No. 37　其貳 …… 37
調査票No. 38　圓山　多蔵庵　春阿弥 …… 38
調査票No. 39　圓山　延寿庵　連阿弥　其一 …… 39
調査票No. 40　連阿弥　其貳 …… 40

調査票No. 41　圓山　端之寮　玄関 …… 41
調査票No. 42　端之寮　其貳 …… 42
調査票No. 43　圓山　多福菴　也阿弥　其一 …… 43
調査票No. 44　多福菴　其貳 …… 44
調査票No. 45　圓山　長寿院　左阿弥 …… 45
調査票No. 46　圓山　勝興庵　正阿弥　書会 …… 46
調査票No. 47　圓山　正阿弥　其二 …… 47
調査票No. 48　高臺寺　傘亭 …… 48
調査票No. 49　高臺寺　方丈林泉　其一 …… 49
調査票No. 50　高臺寺　小方丈 …… 50
調査票No. 51　雙林寺　長喜菴 …… 51
調査票No. 52　雙林寺　文阿弥 …… 52
調査票No. 53　霊山　叔阿弥 …… 53
調査票No. 54　霊山厳阿弥　長嘯梅 …… 54
調査票No. 55　清水　成就院　其一 …… 55
調査票No. 56　成就院　其二 …… 56
調査票No. 57　清水　寶生院 …… 57
調査票No. 58　清水　延命院 …… 58
調査票No. 59　清水　圓養院 …… 59
調査票No. 60　歌中山　清閑寺 …… 60
調査票No. 61　智積院 …… 61
調査票No. 62　蓮華王院　燕子花 …… 62
調査票No. 63　養源院　其一 …… 63
調査票No. 64　養源院　其貳 …… 64
調査票No. 65　恵日塔頭　靈源院 …… 65
調査票No. 66　不二菴　遺愛石 …… 66
調査票No. 67　恵日塔頭　即宗院　自然居士墳 …… 67
調査票No. 68　東福塔頭　荘厳院 …… 68
調査票No. 69　恵日塔頭　南昌院 …… 69
調査票No. 70　東福寺　南明院 …… 70
調査票No. 71　伏水　龍徳菴 …… 71
調査票No. 72　高雄　地蔵院 …… 72
調査票No. 73　栂尾高山寺　三尊院 …… 73
調査票No. 74　等持院 …… 74
調査票No. 75　龍安寺　方丈　林泉 …… 75
調査票No. 76　龍安塔頭　西源院 …… 76
調査票No. 77　龍安塔頭　大珠院 …… 77
調査票No. 78　妙心寺　玉鳳院 …… 78
調査票No. 79　妙心塔頭　大通院 …… 79
調査票No. 80　大通院　其二 …… 80
調査票No. 81　妙心塔頭　靈雲院 …… 81

調査票№. 82　妙心塔頭　雑華院 …… 82
調査票№. 83　妙心塔頭　蟠桃院 …… 83
調査票№. 84　妙心塔頭　大嶺院 …… 84
調査票№. 85　妙心塔頭　退蔵院 …… 85
調査票№. 86　妙心塔頭　春浦院 …… 86
調査票№. 87　金閣寺 …… 87
調査票№. 88　其二 …… 88
調査票№. 89　天龍寺　方丈　林泉　其一 …… 89
調査票№. 90　其二 …… 90
調査票№. 91　天龍寺　雲居菴 …… 91
調査票№. 92　天龍寺塔頭　妙智院　林泉 …… 92
調査票№. 93　天竜塔頭　真乗院　林泉 …… 93
調査票№. 94　八幡泉坊 …… 94
調査票№. 95　松花堂全圖 …… 95
調査票№. 96　妙憙菴　茶室　袖摺松 …… 96
調査票№. 97　吉祥院村中　陽泉亭 …… 97
調査票№. 98　同所　京屋　弥生興 …… 98
調査票№. 99　同所　藤屋　月興 …… 99
調査票№.100　同所　角屋　雪興 …… 100

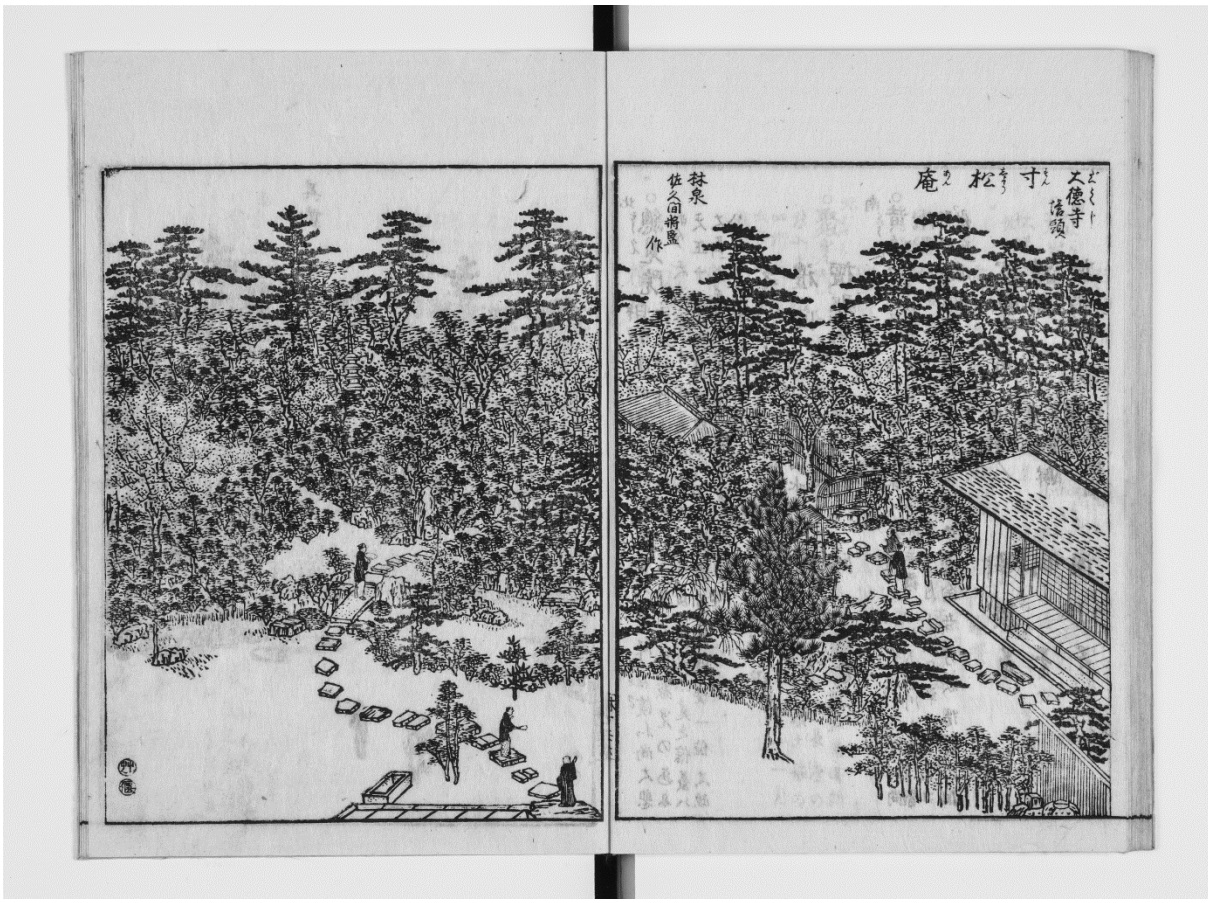
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.1



巻数	一　乾	頁数	林一ノ十四裏、林一ノ十五表	挿図番号	№6
挿図名	大徳寺方丈				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	天祐和尚作				
本文における庭園記述	古巌松（旧松すでに枯れてその所を失す、今方丈南庭の松もつとも秀可なり、故にこの名をもつて呼ぶ）				
現在の状況	文化財指定状況	大徳寺方丈庭園（国指定史跡、特別名勝）			
	現況	第1期工事が昭和30年（1955）10月15日から11月15日、第2期工事が翌年6月18日から7月18日の2期に分けて修理工事が行われた。修理計画は中根金作が行った。			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	天祐和尚				

庭園構成要素	地割	方丈に面した庭園であり、かぎ状に折れ曲がった敷地を持つ。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	南東隅に石組があり、それぞれ西と東に塀や生垣に沿って石組が延びる。
	植栽	高木は少なく、眺望を邪魔しない配置。松、梅、刈込が見られる。
	構造物	描写なし。
	建造物	画面手前の建物は図題から方丈と推測できる。明智門。
	周辺景観	庭園の外には農村の風景が描かれている。図の左中央には山並みが描かれ「達磨峰」と「比叡」と書き記されている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　**冬**　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、武士：2 人）
	行動	図中には比叡山と達磨峰が描かれ、庭園からその景色が見えることが分かる。庭中の外に注目するのであれば比叡山の方向を向いているのが自然であるが、人物は図中の比叡山がある方向を見ずに東を向いている。矛盾を解消するために人物を比叡山が本来ある方向に向けさせたのではないか。
動物	描写なし。	

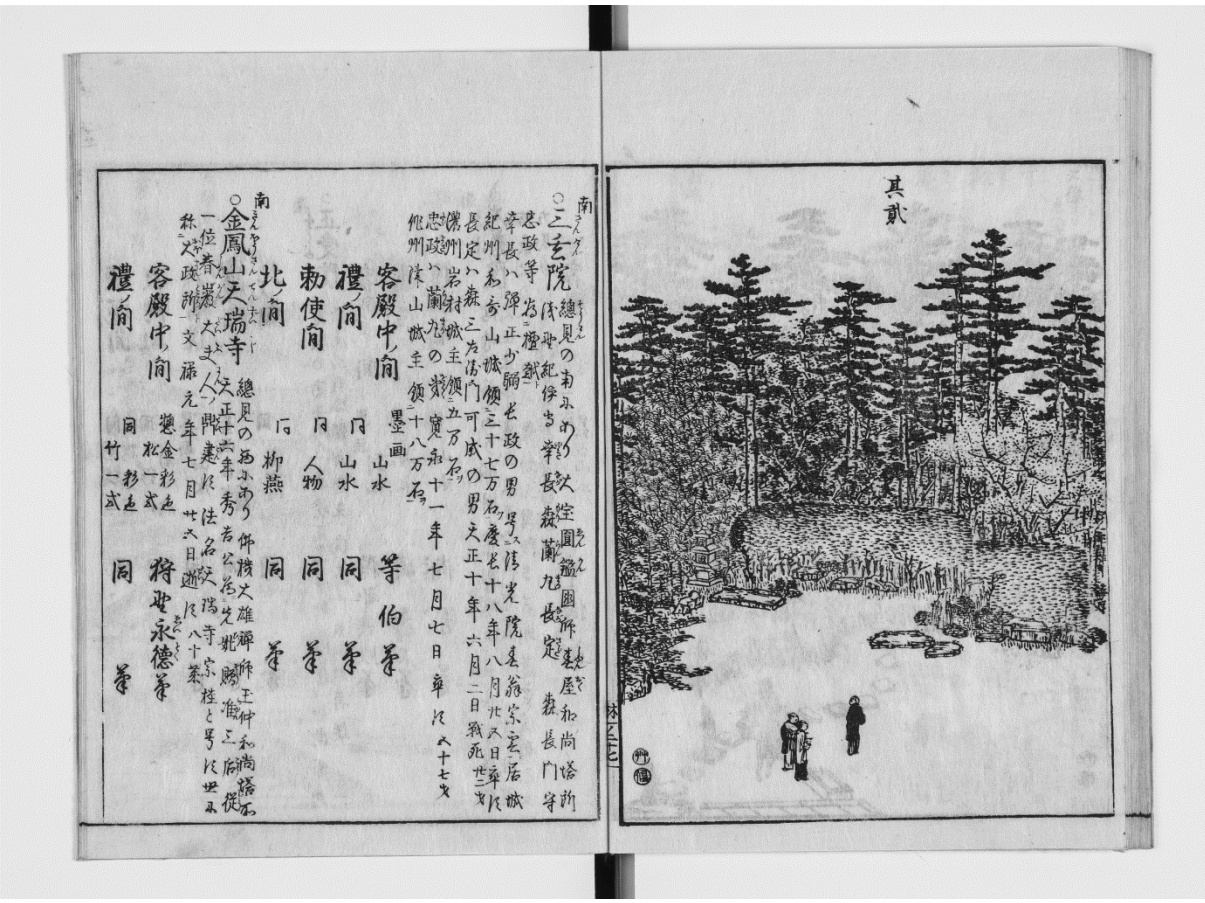
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.2



巻数	一　乾	頁数	林一ノ二十六裏、林一ノ二十七表	挿図番号	No.8
挿図名	大徳寺塔頭　寸松庵				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	林泉佐久間将監作				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　**露地**　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	佐久間将監				

庭園構成要素	地割	枯流れを主体とする庭園と露地。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	枯流れの上流部分に立石、茶室脇の竹垣の側の景石、護岸石組、飛石が見られる。
	植栽	庭園の奥は高木類が多く、やや鬱蒼とした雰囲気、枯流れを囲むように地被類が見られる、松、柳、杉が見られる。
	構造物	枯流れに架かる切石橋、その奥に層塔、図手前にある建物の前には加工石の手水鉢？と自然石の沓脱石が、右端には自然石の丸い手水鉢が見られる。露地には屋根があるが井戸だと思われる。
	建造物	図の右部に建造物、中央奥には茶室と思われる建造物がある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（僧侶：1 人、男性：4 人）
	行動	僧侶が沓脱石の上で茶室方向を指しながら、すぐそばの飛石上に立つ男性と会話しているような描写が見られる。石橋の上に立つ男性はそこが鑑賞位置であることを示し、露地の飛石上を歩く2人の人物は茶室の見学に行くところか。いずれの人物も飛石や石橋など園路の上を歩いていることから、散策できる庭園であったことがうかがえる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.3



巻数	一　乾	頁数	林一ノ二十七裏	挿図番号	No.9
挿図名	其貳　（「大徳寺塔頭寸松庵」(No.9)に連続する挿図）				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	佐久間将監				

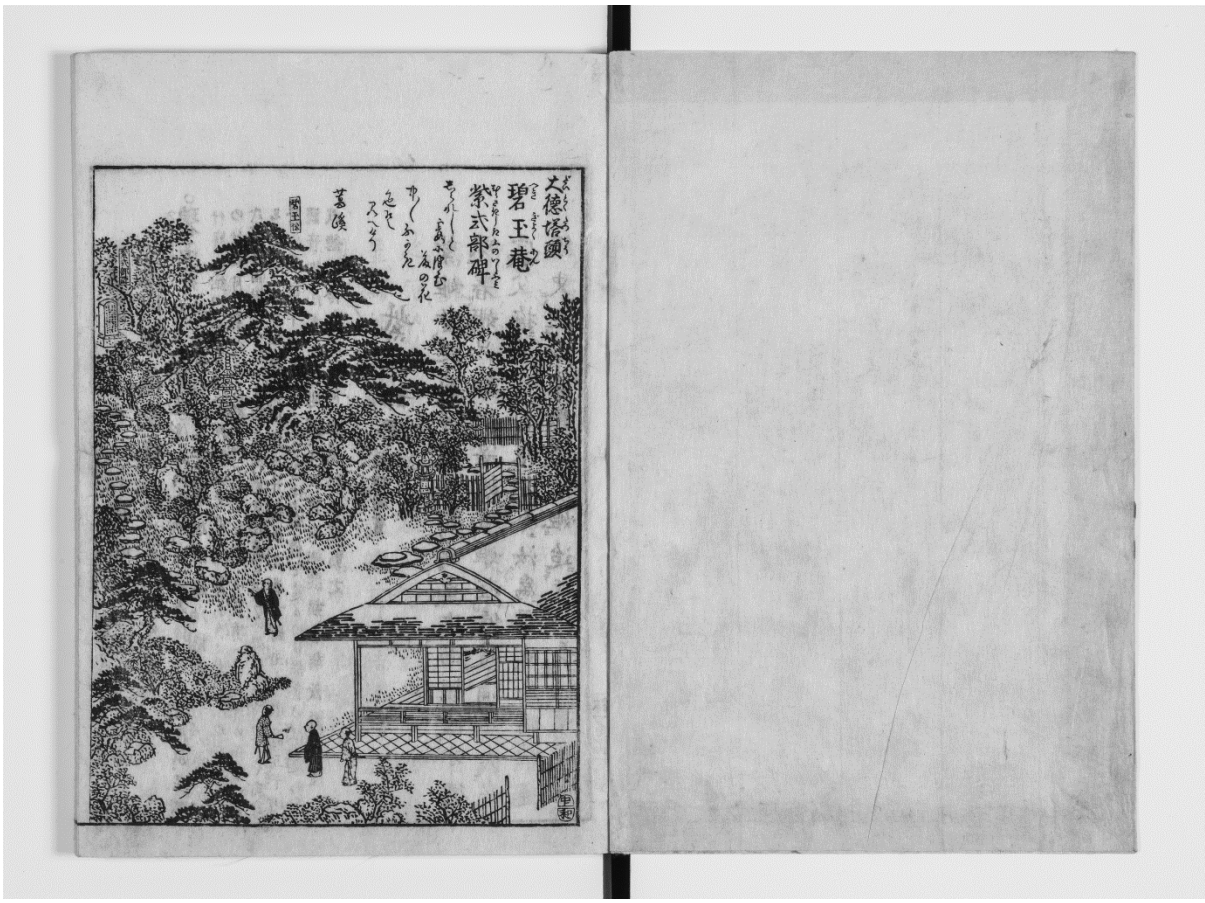
庭園構成要素	地割	挿図No.8に連続する挿図であり、庭園の左部が描かれている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	刈込の前に石組が見られ、多くは伏石である。
	植栽	マツなどの高木類が多く、その手前に刈込があり、その下には地被類も見られる。
	構造物	図左部に層塔が見られる。
	建造物	描写なし。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、男性：2 人）
	行動	僧侶がこれから2人の男性を案内しようかという様子がうかがえる。
動物	描写なし	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.4

巻数	一　乾	頁数	林一ノ二十九表	挿図番号	№.10
挿図名	大徳寺塔頭　芳春院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	現存			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他(　　)				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他(　　)				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	図に庭園の全貌は描かれていないが、池の中には島があり、対岸には呑湖閣があり、その奥は高低差の大きい築山が描かれている。
	水系	池の護岸は入り組み、図奥部から手前に広がり左方向に広がった形。しかし現況では、北岸は緩やかな護岸を形成しているのみで、ほかは直線の護岸となっている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	築山の中腹に瀧石組、池の護岸は土留めと石組によって形成され、中島の南側や呑湖閣前には立石が景石として配置されている様子がうかがえる。
	植栽	高木が多く植えられている、池の対岸に植えられているカエデが特徴的、庭園奥にのみ松が植えられている。
	構造物	中島に六角型の燈籠、中島には木製の欄干付き反り橋が2本架かっているが、中島から対岸に架かる橋には橋脚が見られる。方丈から中島に架かる橋より中島から池の北岸に架かる橋の方が高く、勾配も急になっている。欄干の意匠はともに同じ作りである、現況では方丈側は切石の反り橋、呑湖閣側はコンクリート橋に架け替えられている。
	建造物	図の手前に屋根が見られ、建物があることが分かる。対岸には呑湖閣があり、鮑雲亭打月橋も描かれている。どちらも本文に登場する。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地(庭造の法則ある)**　・　建物・風景(法則麁なる)　・　風景(遠景をとる庭中)	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他(　　)	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他(　　)	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計:　2　人(武士:　2　人)
	行動	1人が呑湖閣を指し、会話しているように見られる。また、庭内を散策する様子は見られていないため鑑賞庭園として秋里は考えていたと思われる。よって人物が描かれた位置が、呑湖閣を含む庭園の景を楽しむ鑑賞位置である。
動物	描写なし	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.5



巻数	一　乾	頁数	林一ノ三十四表	挿図番号	No.11
挿図名	大徳塔頭　碧玉庵　紫式部碑				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	林泉藤村慵軒作				
現在の状況	文化財指定状況	現存せず			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	藤村慵軒				

庭園構成要素	地割	高低差の大きい築山が庭園の半分を占めており、石組は築山に重点的に配されている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	多くの石組は築山部分に配され、築山上部まで飛石が据えられている、門外から延びる飛石は建物へ続くか。
	植栽	特徴的な樹形の「碧玉松」が目立ち、この庭園の見どころであることが分かる。
	構造物	築山頂上に紫式部碑、中腹に層塔、門の側には六角型燈籠が描かれている、建物の隙間から沓脱石が見える、庭園の敷地は竹垣で区切られている。
	建造物	図の右下に建物があり、付書院が見られる。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	しられじと霞に煙らむ藤の花 中々ふかき色そ見へけり 蒿蹊	意味：紫式部にちなんでの歌か。
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：4 人（武士：3 人、僧侶：1 人）
	行動	僧の案内のもと、見学に訪れたか。庭園中央の男性が紫式部碑を指さして注目していることからも、この庭園の見どころであることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.6

巻数	一　乾	頁数	林一ノ三十七裏、林一ノ三十八表	挿図番号	№.12
挿図名	本法寺				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	巴の庭　本阿弥光悦作				
本文における庭園記述	林泉は光悦の作にして、世に三巴の庭と賞ず。その形築山泉石ともに浪の紋を模す				
現在の状況	文化財指定状況	本法寺庭園（国指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	本阿弥光悦				

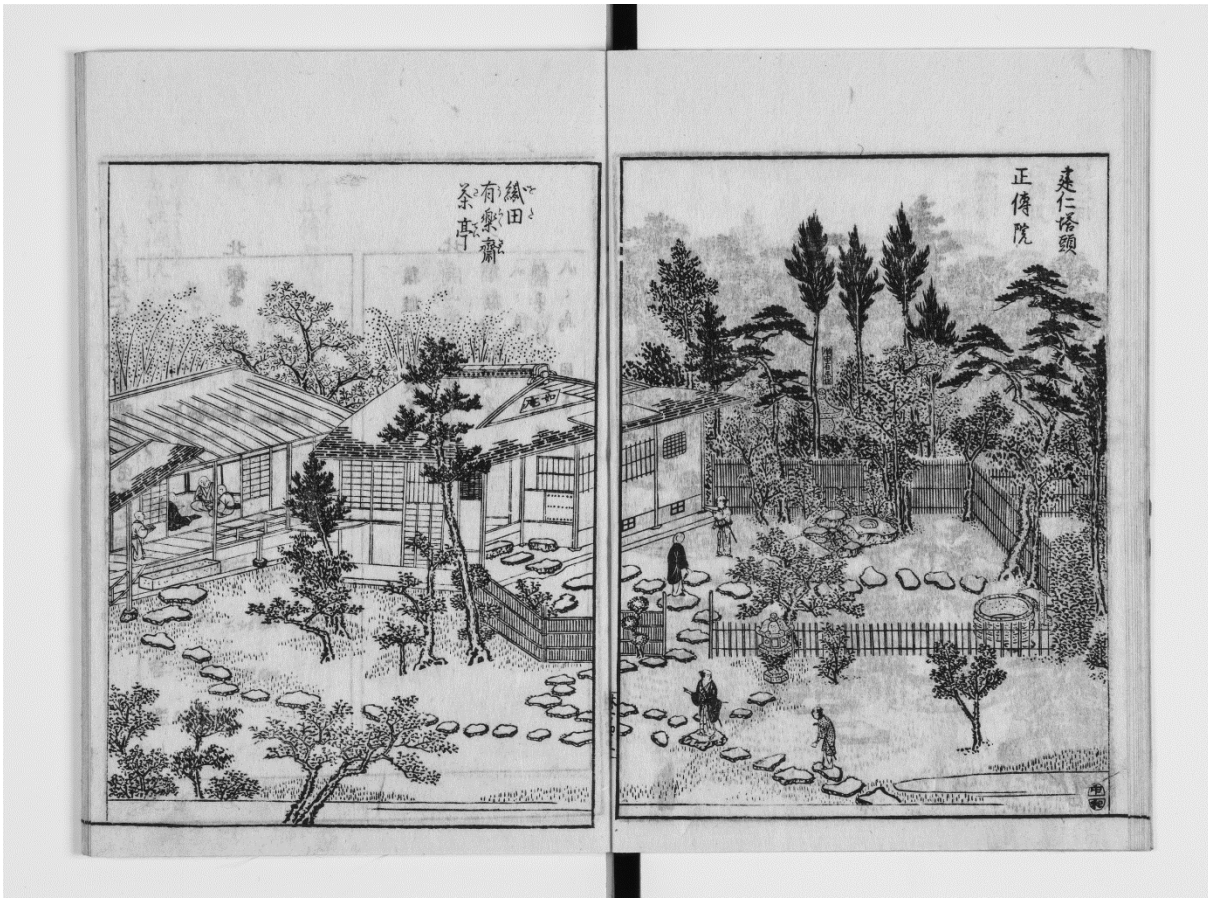
庭園構成要素	地割	方丈に面し、かぎ状に折れた地割、庭園中央には蓮池があり、三方に築山がある。
	水系	図の手前に8石の切石で囲まれた蓮池があり、蓮の葉が茂っている。この池は現在、やや姿を変えて現存している。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組は中央の築山に集中し、築山の形に沿って護岸石のように配置されている。その奥に枯滝石組があり、枯滝石組は中央の石が倒されている。現在でも挿図と同じ姿を見ることができ、現況では東の築山に五右衛門腰掛石と呼ばれる景石がある。
	植栽	図右の築山に刈込が多くある、蓮があるが葉のみであり、季節を誇張するものではない。
	構造物	各築山に1基ずつ石燈籠が置かれ、中央の築山には層塔と切石橋が架けられている。中央の築山の石燈籠は四角型であり、現在のものは六角型であるが、据えられている位置は同じ。右の築山に据えられた燈籠も同じく四角型であるが現在は同位置に型の違う燈籠が据えられている。左の築山の燈籠も同様に四角型であるが、現在は築山の更に北側に六角型燈籠が据えられている。縁先には蓮華を象った手水鉢が置かれ、側には井筒と石塔がある。しかし現況では渡廊下が増築されたため南庭が分断され、渡廊の西側に図に描かれている物と似た手水鉢が据えられている。中央の築山には切橋が架けられているが、現況では自然石の橋が架かっている。
	建造物	建造物は描かれていないが、建物の軒先が図の右下に描かれている。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	すずしさや水はなくとも浪の紋 雨龍	意味：築山や石の紋様に波の紋を見ることができ、涼しさを感じることができるとする歌であるが、これは秋里が本文中で本庭園を説明する「築山泉石共に浪の紋を摸す」という文章に呼応するものである。この歌と秋里の本文について重森完途は「籬島軒と共に、文学的解釈にすぎるといわねばならない」と述べている。
季節	春　・　**夏**　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（武士：1 人、僧侶：2 人）
	行動	枯滝石組の前に男性が僧と描かれ、縁先にも僧が描かれている。石組の前の人物たちは石組に注目していることから、秋里は枯滝石組をこの庭園のひとつの見どころとしていることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.7

巻数	一　乾	頁数	林一ノ四十二裏、林一ノ四十三表	挿図番号	№.16
挿図名	建仁寺　正伝院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	織田有楽作				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず（跡は歌舞練場か）			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	織田有楽				

庭園構成要素	地割	敷地に大きく池があり、中島と大きな出島がある。
	水系	庭園内に池が大きく広がる。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組のほとんどは護岸にあり、特に出島に多く見られる。
	植栽	高木が多く、低木類は玉物になっている。園路を作るように地被類が描かれている。個性的な松も多く、出島にある松は枝が池へ張り出している。
	構造物	島に橋が2本架かり、欄干付きの反り橋と出島へ架かる切石橋がある。出島には五重と見られる層塔と四角型燈籠が描かれている。
	建造物	図の左部に瓦葺の建物が見られる。図の奥には塀が見られる。
	周辺景観	敷地外の樹木が描かれているが、そのほかの描写はない。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（武士：3 人、僧侶：2 人）
	行動	図の右の人物らが立ち止まり、出島の方を指さしながら鑑賞している。よって、見どころのを提示している。
動物	描写なし。	

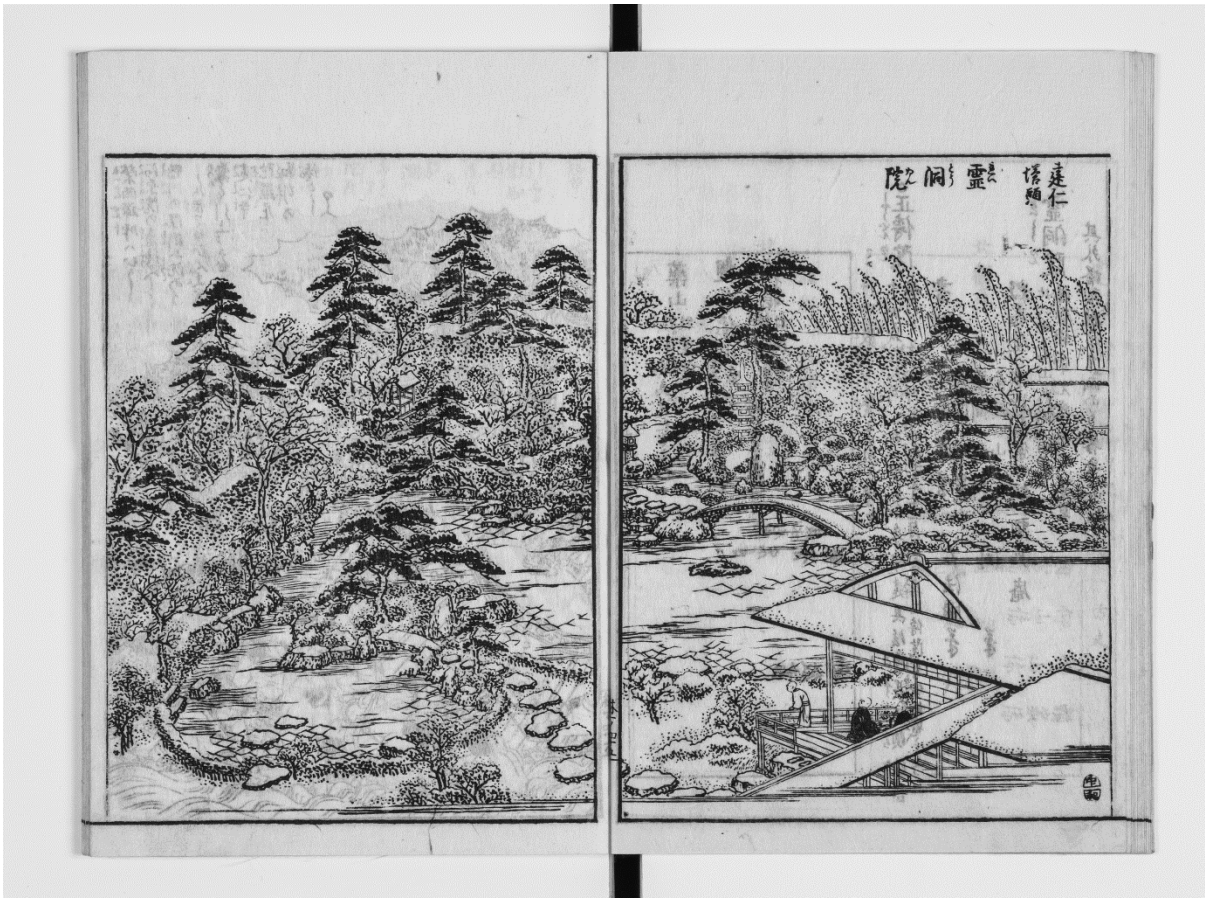
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.8



巻数	一　乾	頁数	林一ノ四十三裏、林一ノ四十四表	挿図番号	No.17
挿図名	建仁塔頭　正伝院　織田有楽齋茶亭				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	如庵（国宝）			
	現況	移築復原されたものが愛知県犬山市に存在し、永源正伝院に一部復元されている			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　枯山水　・　**露地**　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者					

庭園構成要素	地割	内露地と外露地があり、竹柵で仕切られている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	景石はなく、鉢前の石組があるのみである。図の左下から飛石が打たれており、茶室とその背後の建物に向かって続いている。
	植栽	庭内の植栽は少なく、庭外の植栽を取り込んだように描かれている
	構造物	茶室前に手水鉢があり、内露地隅には井筒がある。
	建造物	茶室は「如庵」と扁額が掛かっていることから有楽斎の如庵であることが分かる。その後ろには茶室へつながっている建物と渡廊下が描かれている。
	周辺景観	庭外の樹木のみ描かれ、マツ、タケ、カエデが見られる。樹木に隠れて織田有楽塚が描かれ、文字でも書き記されていることからこの庭園の見どころの一つであることが分かる。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：8 人（武士：3 人、僧侶：5 人）
	行動	外露地に今から見学に向かう様子で描かれた男性2人が描かれ、内露地には如庵に注目する人物が描かれている。また、茶室後ろの建物内に僧が4人描かれている。
動物	描写なし。	

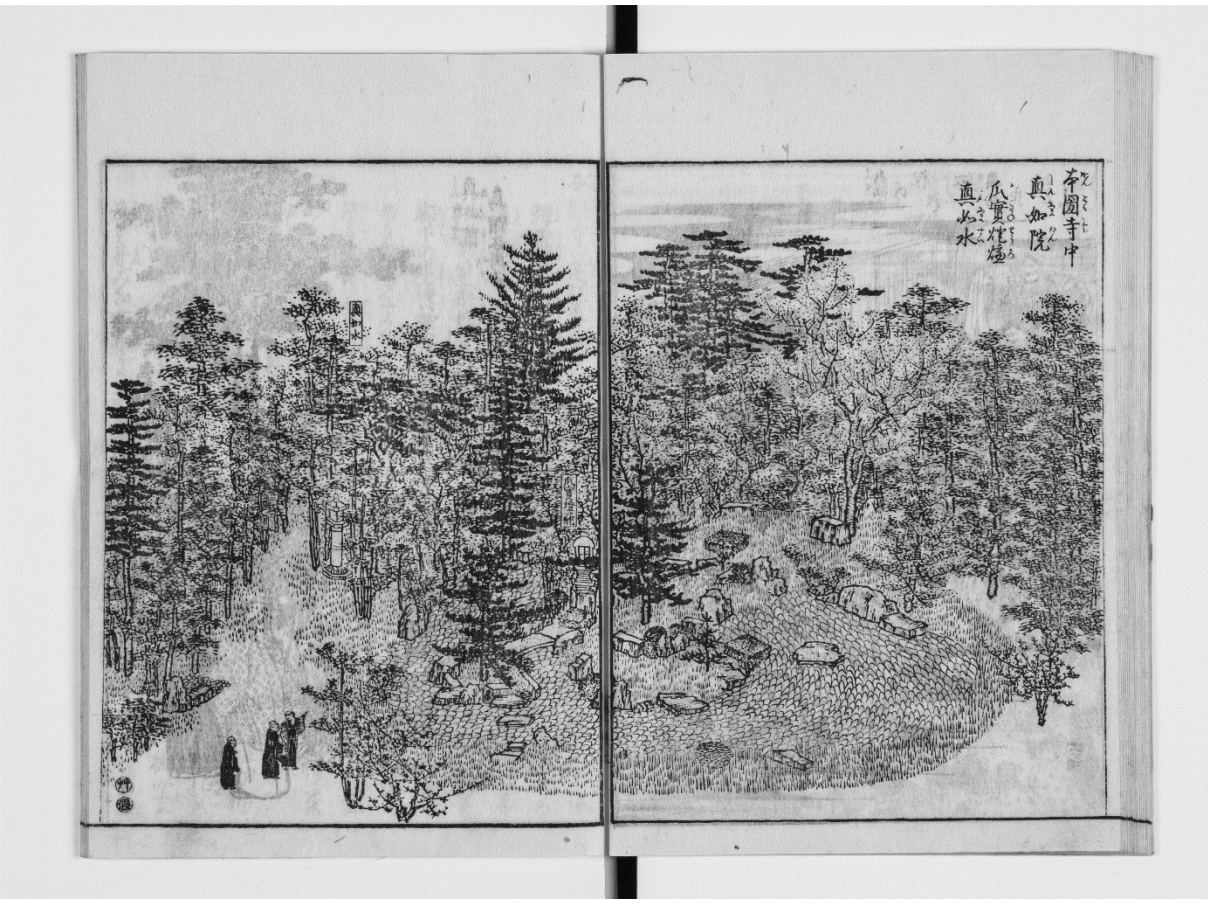
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.9



巻数	一　乾	頁数	林一ノ四十五裏、林一ノ四十六表	挿図番号	No.18
挿図名	建仁塔頭　霊洞院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	霊洞院庭園（国指定名勝）			
	現況	昭和14年（1939）重森三玲氏によって、建仁寺塔頭霊洞院が『都林泉名勝図会』に則って復元修復された			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	建物を囲むように池があり、池中には中島がある。
	水系	敷地を大きく占める池があり、対岸には出島が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	建物側には石組は少なく、対岸の出島や反り橋の向こうに多く据えられている。建物から中島まで飛石が打たれている。図左手前に池中へ続く飛石、土橋の中腹付近の池中に景石が見られる。
	植栽	松と刈込が多く、池の左部は低い生垣によって護岸が形成されている。また敷地は生垣によって区切られている。
	構造物	島に架かる橋は雪に覆われているため種類は分からない。出島には土橋が架かり、橋脚が描かれている。土橋を渡った先には活け込み型燈籠、石塔が描かれている。
	建造物	図右手前に建物があり、渡廊下が繋がっていることが分かる。図の中央やや左には社が見られ、図右奥には塀が見える。
	周辺景観	塀の向こうにタケが描かれているが、それ以外の描写はない。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　**冬**　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：3 人）
	行動	室内に3人の人物が見られ、皆庭園の方を向いている。うち1人は欄干から身を乗り出すように庭園を鑑賞している。視線の先には島があることから、島が見どころのひとつであったと考えられる。以上のことから屋内からの鑑賞を推奨しているように考えられるが、沓脱石に草履または足跡があることから、庭園に降り立つことも可能であったかもしれないが、庭内に人物が描かれていないため回遊はできなかったものと思われる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.10



巻数	一　乾	頁数	林一ノ五十一裏、林一ノ五十二表	挿図番号	№.24
挿図名	本圓寺中　真如院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	瓜実燈爐　真如水				
本文における庭園記述	真如院の庭に瓜実灯炉あり（足利将軍義昭公の銘なり）、烏帽子石は義昭公烏帽子を掛置たまひしとなり。ここに真如水といふ名泉あり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現在は移築復原された同庭園がある			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	平坦な地形の中央に枯池を配置し、庭の奥側は高木が植えられ庭外を区切っている。枯池は中央がくぼみ、出島状に張り出している。
	水系	図の左側に「真如水」と書き示されているが、その存在は木々に隠れて見えない。
	石組・景石・敷石・敷砂利	枯池の底に石を敷き並べている。この表現は本図にのみ見られる。中島に向かって沢飛石の様に飛石が打たれている
	植栽	図の中央部や島に松が植えられており、そのほか樹種が分かる物として図の中央部に槙、図の中央下部に梅が描かれている。さらに、枯池を囲むように地被類があり、奥の築山へと続いている。
	構造物	図の中央部の出島部分に燈籠が描かれており、図内に「瓜実燈籠」と書き記されているため、この庭園の見どころの一つであることが分かる。その左手前には切石橋が島に架かっている。図の左中央部には四角型燈籠である。
	建造物	描写なし。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味：
季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：2 人、男性：1 人）
	行動	庭内を散策せず、3人が一カ所に描かれていることから、回遊せず人物が描き示された場所を鑑賞位置としていることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票

調査票No.11

巻数	一　乾	頁数	林一ノ五十二裏	挿図番号	№25
挿図名	真如院　烏帽子掛石				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	真如院の庭に瓜実灯炉あり（足利将軍義昭公の銘なり）、烏帽子石は義昭公烏帽子を掛置たまひしとなり。ここに真如水といふ名泉あり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	真如院庭園の一部を描いた挿図であり、平庭部分が描かれている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	烏帽子掛石のみ。
	植栽	烏帽子掛石がやや埋もれるほど繁茂している様子がうかがえるが、樹種の特定は難しいが樹木や地被類の描き分けが細かくされている。
	構造物	描写なし。
	建造物	描写なし。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味：
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：　2　人（僧侶：　1　人、男性：　1　人）
	行動	どちらの人物も烏帽子掛石に注目していることから、見どころの協調の役割を果たしていることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.12

巻数	一　乾	頁数	林一ノ五十四裏、林一ノ五十五表	挿図番号	№27
挿図名	西六條本願寺　對面所林泉				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	本願寺大書院庭園（国指定特別名勝、史跡）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	枯池に島が二つあり、図左辺から切石の反り橋でつながっている。さらに図中央やや左に枯滝石組があり、石組の前には自然石の橋が架かっている。庭園の奥部はマツなどの高木や刈込が植えられている。図では庭園が対面所に対して平行ではないが、表現の加減上わざとそうしているのか。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	大きな景石が多く、図中央には枯滝石組がある。島や護岸付近の池底には石が敷かれている。
	植栽	図左部の枯池へ伸びる松、島の蘇鉄、庭園背後の刈込が特徴的である。
	構造物	図中央部の二つの島に架かる切石の石橋が2本、枯滝石組の前に自然石の橋が架かる。現在は図と同様に島に切石の橋が2本架かっているが、枯滝前の橋は見られず、また現在は南の中島から東南の対岸へ自然石の橋が架かっているが、図では島に植えられているソテツの陰となっており、確認できない。
	建造物	図手前に「對面所」と書き示された建物が描かれている。現在は本庭から御影堂を望むことができるが本図では描かれていない。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味：
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：　2　人（武士：　1　人、女性：　1　人）
	行動	図手前に2人の人物が描かれている。人物は延段もしくは三和土の上を歩いているのか判別できないが、庭内に人物が描かれていないことから回遊する庭園ではないとしていることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.13

巻数	一　乾	頁数	林一ノ五十八裏	挿図番号	№30
挿図名	〔枳殻馬場〕				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	河原左大臣の古蹟千鳥池、あるは祭主三位輔親卿の林泉、天橋立を移されし跡は、今の東六条本願寺御堂のほとりより東なる枳殻馬場の地ならんと思はれける				
本文における庭園記述					
現在の状況	文化財指定状況	渉成園（国指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者					

庭園構成要素	地割	広大な園池を有する庭園であり、亭を持つ島や石塔が立つ島、鐘楼が建つ島などが見られる。
	水系	広大な園池であり、複数の島が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の右下の池に張りだした建物付近の池中に景石が見られる。
	植栽	図の右下に「」と書かれた樹木があり、松や楓も見られる。全体的に松が多く描かれている。
	構造物	園池の中島には「融大臣塔」と書かれた層塔が建ち、中島の亭の前には手水鉢がある。また、図の左下には船が描かれている。
	建造物	図の左下に屋根だけが見え、右側には園池に張り出した建物が描かれている。中島には亭があり、さらに奥の中島には楼が描かれている。
	周辺景観	図の上部には山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　日中　・　夕方　・　**夜**　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	描写なし。
	行動	
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.14

巻数	一　乾	頁数	林一ノ五十九裏、林一ノ六十表	挿図番号	№32
挿図名	八條　遍照心院方丈　其一				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	初は夢窓国師作、其後年可翁補作				
本文における庭園記述	方丈の林泉は蘆山を移して諸樹を作り木とし連山の体をあらはし、枝を撓て飛泉とし、白砂を布いて流水とし、風景真妙なり。初めは夢想国師の作なり。後世におよんで伏見の朝霧島之助てふ者補作すとなん。京師庭造の一奇品なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他(　　)				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他(　　)				
作庭者	夢窓国師作庭、可翁補作				

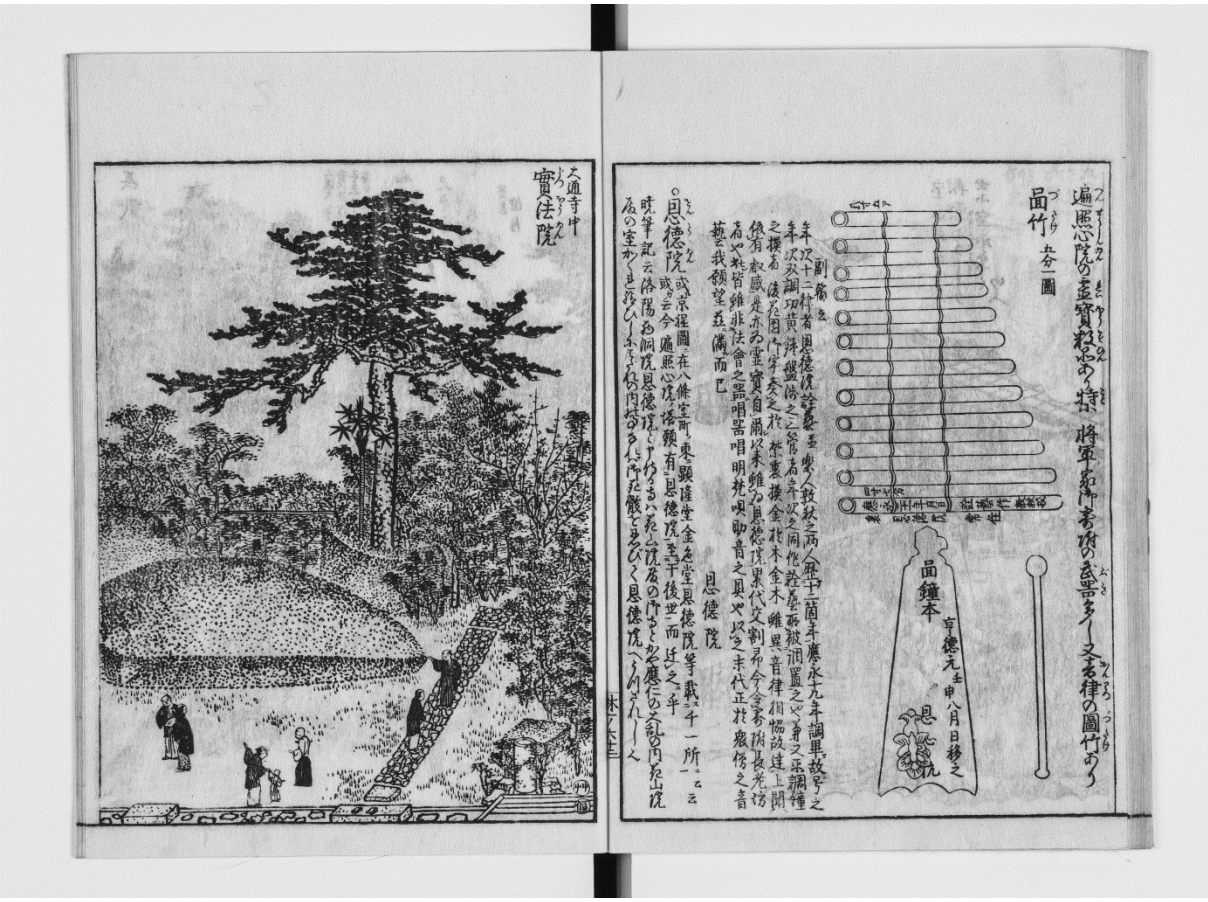
庭園構成要素	地割	方丈に面した庭園は右からの流れが方丈前の池へ注ぎ、左の流れへ流れている。池の奥は多くの刈込で景が作られている。
	水系	図右の流れは庭園奥から流れ「音聞瀧」を落ち、池へ注いでいる。建物前の池を流れ、水は図左の流れへ流れていっているようである。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組がほどこされ、池の中には「水分石」や「鶴石」などの景石がある。図左の高さのある築山上には「烏帽子石」の名石が据えられている。池との間は小石が敷かれている。大きな立石を据えて添景としながら、多くの石を用いて築山を作っている。
	植栽	池の中央付近にある松や図左部の築山上にある松以外に庭内の植栽はないが、背後の特徴的な多数の刈込がある。またその後ろには松が覗き、庭内の描写的な松に比べデフォルトされているのは遠近を表すための表現である。
	構造物	瀧上部の流れ、池尻、流末にそれぞれ石橋が架かっている。瀧上部は切石橋、そのほかは自然石の橋である。さらに流末が描かれているさらに奥に四角型燈籠が描かれている。
	建造物	図手前に建物の屋根が描かれている。図題から考えて方丈の屋根であろう。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地(庭造の法則ある)**　・　建物・風景(法則麁なる)　・　風景(遠景をとる庭中)	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他(　　)	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他(　　)	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	描写なし。
	行動	(※本図には人物が描かれていないが、本図に連続する挿図である№33に人物が描かれている。)
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.15

巻数	一 乾	頁数	林一ノ六十裏	挿図番号	No.33
挿図名	其貳 （No.32に連続する挿図）				
画工名	佐久間草偃 ・ **西村中和** ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	No.32参照				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（ ）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（ ）				
作庭者	夢窓国師作庭、可翁補作				

庭園構成要素	地割	挿図No.32に連続する挿図であり、園池の左側の平庭部分が描かれている。
	水系	図の右に池尻が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	池の対岸には石組が多くあり、池尻に小石を敷きつめた洲浜がみられる。
	植栽	図左に幹が描かれていないが、松葉を思わせる描写の植物があり、そのほか多くの刈込とその背後に松が描かれている。
	構造物	流末に架かる自然石の橋が描かれている。
	建造物	庭園の背後に本瓦葺の建物が描かれ、図左には塀がある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	無地（庭造の法則ある） ・ **建物・風景（法則麁なる）** ・ 風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞** ・ 回遊 ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（ ）	
詩歌	なし	意味
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ **強調せず**	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（ ）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 5 人（武士： 1 人、女性： 4 人）
	行動	建物の軒内と思われる部分を歩いており、庭園に向かう様子を描いている。1人の女性が飛石をつたって橋の前に入るが、前図では庭内に人物が描かれていないことを考えると、回遊を勧める庭園ではないと判断できる。
動物	描写なし。	

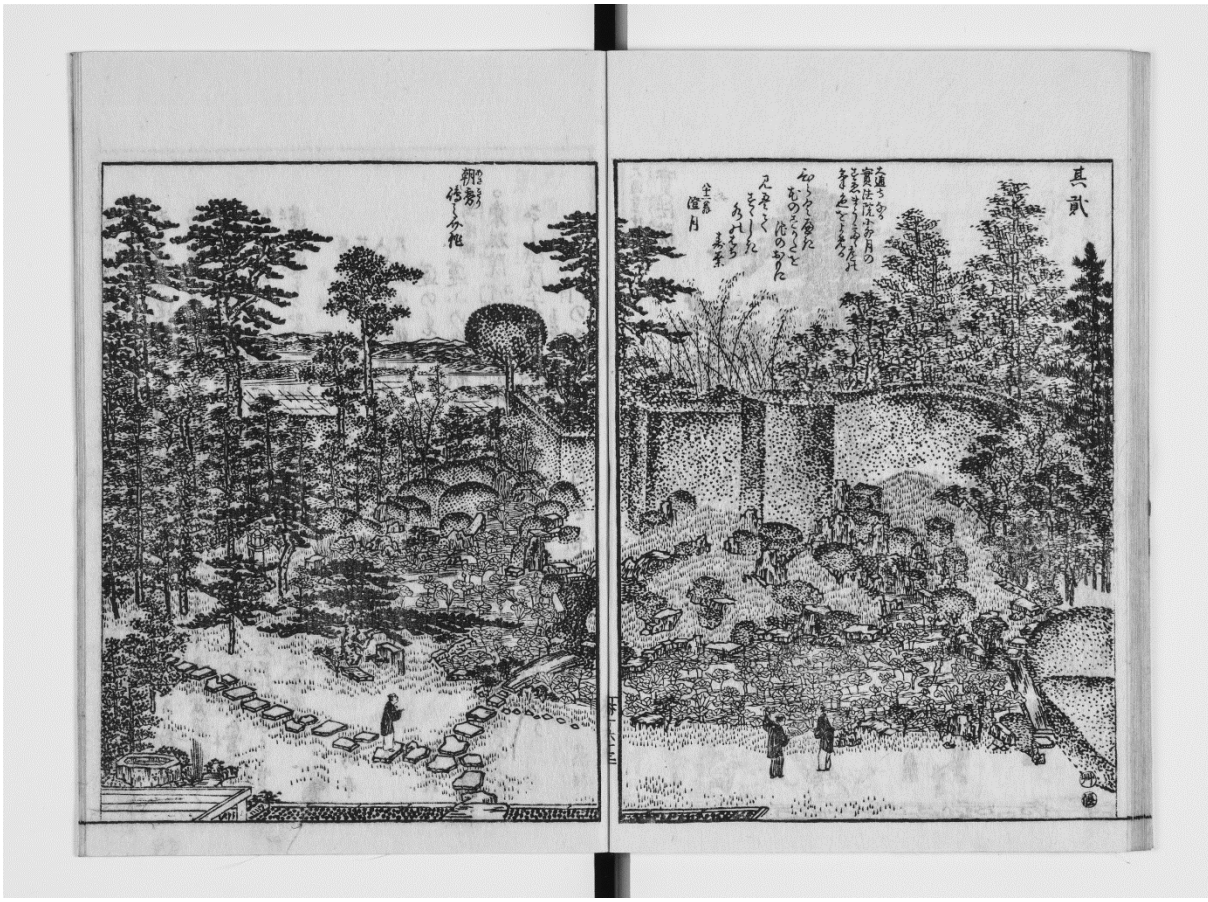
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.16



巻数	一 乾	頁数	林一ノ六十三表	挿図番号	№35
挿図名	大通寺中 實法院				
画工名	**佐久間草偃** ・ 西村中和 ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	○実法院(遍照心院塔頭)は林泉広くして、東北の風景を湛て雪の日の眺望あり。特に、蓮池ありてみな月の花盛には香芬々として紅白色をあらそひ、その外爪紅本紅唐蓮などの名草多し。これを見んとて朝日の出るを待て群来る騒人歌をよみ詩作りて、水芙蓉を賞ずる事和漢異ならず。超女が歌、妃子が歩、芳気十里に聞え、花の君子とも賞す。蓮を愛する事予に同じき者は何人ぞやと茂叔もつぶやきける				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他( )				
庭園の形態	築山林泉 ・ **枯山水** ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他( )				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	軒内が描かれていることで建物に面した平庭であることが分かり、図の右側から建物に向かって伸びる延段があることからその先に出入り口があると思われる。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組はなく、建物から図の右側に斜めに伸びる延段が描かれている。軒内にも石が埋め込まれている。
	植栽	庭園を占める大きな刈込が特徴的であり、そのほか松の大木、棕櫚、梅が見られる。地面には地被類が描かれている。
	構造物	縁先手水鉢があり、切石の沓脱石が二つ見られる。
	建造物	庭園の奥に塀が見られるが土塀か。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地(庭造の法則ある)** ・ 建物・風景(法則麁なる) ・ 風景(遠景をとる庭中)	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他( )	
詩歌	なし	意味
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ **強調せず**	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他( )	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計: 7 人(僧侶: 1 人、男性: 5 人、子供: 1 人)
	行動	延段上を歩く人物もいるが、自由に歩き回ることができる庭園であったことが分かる。さらに、親子は左方を指して僧侶に尋ねている様子や述べ壇上の男性も左方を指す、図左側の男性2人も左へ向かっていることから、庭園左方向に何かがあること知ることができる。次図に同院の庭園があることから、その庭園があると推測できる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.17



巻数	一　乾	頁数	林一ノ六十三裏、林一ノ六十四表	挿図番号	№36
挿図名	其貳				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	朝霧島之助作（ほか詩歌参照）				
本文における庭園記述	○実法院（遍照心院塔頭）は林泉広くして、東北の風景を湛て雪の日の眺望あり。特に、蓮池ありてみな月の花盛には香芬々として紅白色をあらそひ、その外爪紅本紅唐蓮などの名草多し。これを見んとて朝日の出るを待て群来る騒人歌をよみ詩作りて、水芙蓉を賞ずる事和漢異ならず。超女が歌、妃子が歩、芳気十里に聞え、花の君子とも賞す。蓮を愛する事予に同じき者は何人ぞやと茂叔もつぶやきける				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	朝霧島之助				

庭園構成要素	地割	平庭、池、築山からなる庭園であり、築山は高さがあるように見える。庭園からは遠くの山並みを望むことができたようである。		
	水系	図の右から中央奥へ広がる細長く折れ曲がった池があり、蓮で埋め尽くされている。		
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組、また池の護岸付近に景石が見られ、図右の築山上には険しい石組がある。		
	植栽	松が多く、竹や杉も見られる。特徴的なのは庭園の背後にそびえ立つ背の高い刈込みである。そのほか庭内にも刈込は多い。池には蓮が多く、花が咲いている。		
	構造物	縁先から飛石が続き、途中で二股に分かれて池に架かる橋と庭園の奥へ続いている。庭園の奥には六角型燈籠がある。池には中央と図の右端に橋が架かっており、どちらも自然石である。また縁先には縁先手水鉢と沓脱石が置かれている。		
	建造物	図の手前には縁先、左手前に縁が描かれていることから建物があることが分かる。		
	周辺景観	手前には田畑が描かれ、その奥には町並みと山並みが描かれている。		
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**			
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）			
詩歌	大通寺なる実法院に卯月のすゑもうてて 庭の景色よめる ひらくべき花のすかたを池のおもに見えて すすしき水のはちす葉 八十二翁澄月	意味	池のハスの葉や花のつぼみを見て、涼を感じ取っている歌である。この歌は図のハスと関連付け、さらに季節を強調する役割がある。	
季節	春　・　**夏**　・　秋　・　冬　・　強調せず			
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）			
気象	**晴**　・　雨　・　雪			
人物	人数	計：3 人（男性：3 人）		
	行動	飛石の上に立つ男性は池を見ており、池の前に入る男性2人は左方を指して話し合っている様子が描かれており、庭外の風景に注目しているように見える。よって、池と眺望を此の庭園の見どころとして表現していることが分かる。		
動物	描写なし。			

『都林泉名勝図会』林泉図調査票

調査票No.18

巻数	一　乾	頁数	林一ノ六十五表	挿図番号	№37
挿図名	大通寺　東林院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	南谷師舊棲				
本文における庭園記述	林泉広くして東南をうけて、月に雪に美観たらずといふことなし。この院は書聖南谷師の住居にして、庭中の西に書斎あり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	平庭であり、右方には縁石かなにかで区画が区切られた中に植栽がほどこされ、左方には石組が組まれている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図左部に大きな石組が見られ、図左手前の樹木や垣のそばに伏石が見られる。
	植栽	図左手前に切戻された樹木があることが特徴的である。ほかに松や梅、刈込、地被類などが見られる。
	構造物	図の右手前に垣が描かれている。
	建造物	描写なし。
	周辺景観	山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（武士：2 人、男性：1 人）
	行動	杖をついた男性が頭打ちされた樹木を見ていることから、この庭園の見どころであったことが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.19

巻数	一　乾	頁数	林一ノ六十五裏、林一ノ六十六表	挿図番号	№38
挿図名	東林院　其貳　南谷師書齋　幻華庵				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	庭中の遠望は伏見城より三ッ峰月輪山を次第次第に北へめぐり、洛東鮮やかに見へて西北は衣笠山大内山御室まで見へわたる				
本文における庭園記述	林泉広くして東南をうけて、月に雪に美観たらずといふことなし。この院は書聖南谷師の住居にして、庭中の西に書斎あり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

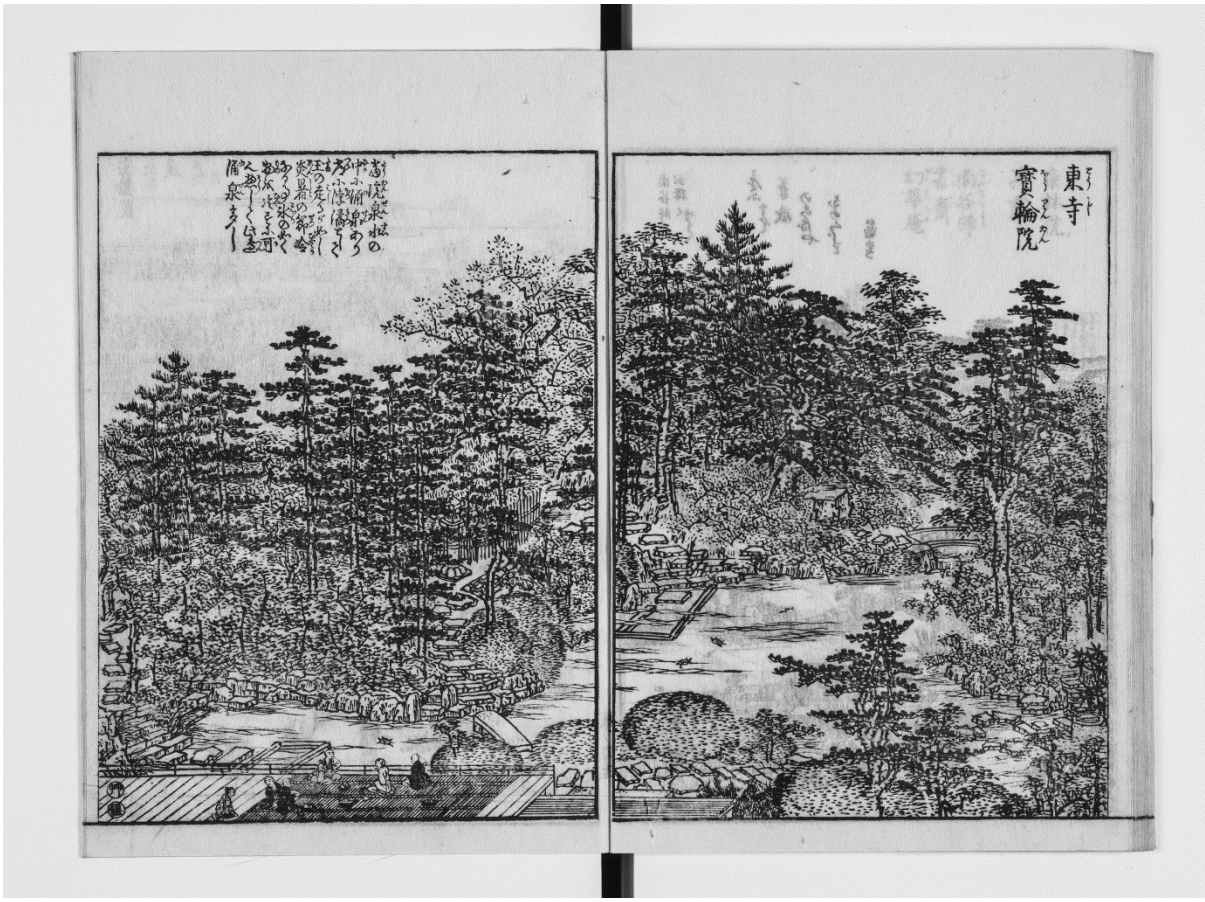
庭園構成要素	地割	平坦な敷地に横長の池が掘られている。庭園からは景色を望むことができた。
	水系	左右に長い池があり、図の左には給水か排水かは不明だが、柵が設けられた給排水施設が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸には角形の石が多用されている。
	植栽	池には蓮や燕子花が植えられており、燕子花は花が咲ている。周囲には地被類が池の護岸に沿って生えている。そのほか、庭園の周囲には松、梅、棕櫚、杉、刈込が見られる。
	構造物	池には橋が2本架かり、右側には切石製の八橋、左側には木橋が架かる。図の右手前には石塔、中央やや右には五輪塔が描かれている。
	建造物	図の右部に建物が描かれている。南谷国師の所斎は図左辺に文字で書き記されていることから、挿図外にあると思われ、この建物とは異なる。
	周辺景観	景色の手前部分には田畑が描かれており、その向こうには家の屋根や山並みが描かれている。図内の記述から南は伏見城山まで見え、東は月輪山などの洛東、西は衣笠山、大内山、御室まで見ることができたという。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　**戸外活動**　・　その他（　　）	

詩歌	谷師の旧棲と聞て 庭にまて筆威のこるやなめくじり 籬島	意味	南谷国師の旧棲である名勝にちなんだ歌であり、庭にあったなめくじの這った跡を筆跡に見立てて詠んだ歌。

季節	春　・　**夏**　・　秋　・　冬　・　強調せず
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）
気象	**晴**　・　雨　・　雪

人物	人数	計：5 人（武士：1 人、僧侶：1 人、男性：2 人、子供：1 人）
	行動	庭の奥にいる人物が広げた扇子を掲げ、その扇子から糸が繋がっており、対岸でその糸を持つ人物が描かれている。扇子を凧の替りにして遊んでいるのか。そのようなことができたかは分からないが、図に遊びが入れられている。
動物	池の中に魚が泳いでいる。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.20



巻数	一　乾	頁数	林一ノ六十六裏、林一ノ六十七表	挿図番号	№39
挿図名	東寺　寶輪院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	当院泉水の中に湧泉あり、常に渤潏として玉の走るが如し炎暑の節、冷なる事氷の如く物を冷すに可なり。惣じてこの辺湧泉多し				
本文における庭園記述	坊中宝輪院の林泉奇なり、泉水の中に沸水三所あり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他(　　)				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他(　　)				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	図手前から奥へかぎ状に曲がった土地と同様の形に池が造られているが、地面と池は高低差があるように見える
	水系	かぎ型の池があり、図内の文章から湧水であることが分かる。池中に縁石で囲まれた2箇所が湧水か。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組のほかは目立った石組はなく、飛石または延段が庭園内を巡り、右下には沢飛石がある。
	植栽	松が目立つが高木が多く、刈込も多い。
	構造物	橋が2本架かっており、手前の橋は切石橋、奥の橋は縁の付いた反り橋である。図の右下には手水鉢が描かれている。縁先には沓脱石があり、図の左中央には四角型同労があり、その奥に柵が設置されている。
	建造物	図の左手前に縁が描かれている。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地(庭造の法則ある)**　・　建物・風景(法則麁なる)　・　風景(遠景をとる庭中)	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他(　　)	
詩歌	なし	意味：
季節	春　・　**夏**　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他(　　)	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：6 人(僧侶：5 人、男性：1 人)
	行動	縁先で食事をしながら涼んでいる姿が描かれている。冷たい水が湧き出ることで空気が冷え、それを協調するように納涼の姿を描いたと考えられる。
動物	池中に亀が3匹と魚が2匹描かれている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.21

巻数	一　乾	頁数	林一ノ六十七裏、林一ノ六十八表	挿図番号	№40
挿図名	宝輪院　茶亭庭				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	容庵作				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　枯山水　・　**露地**　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	容庵				

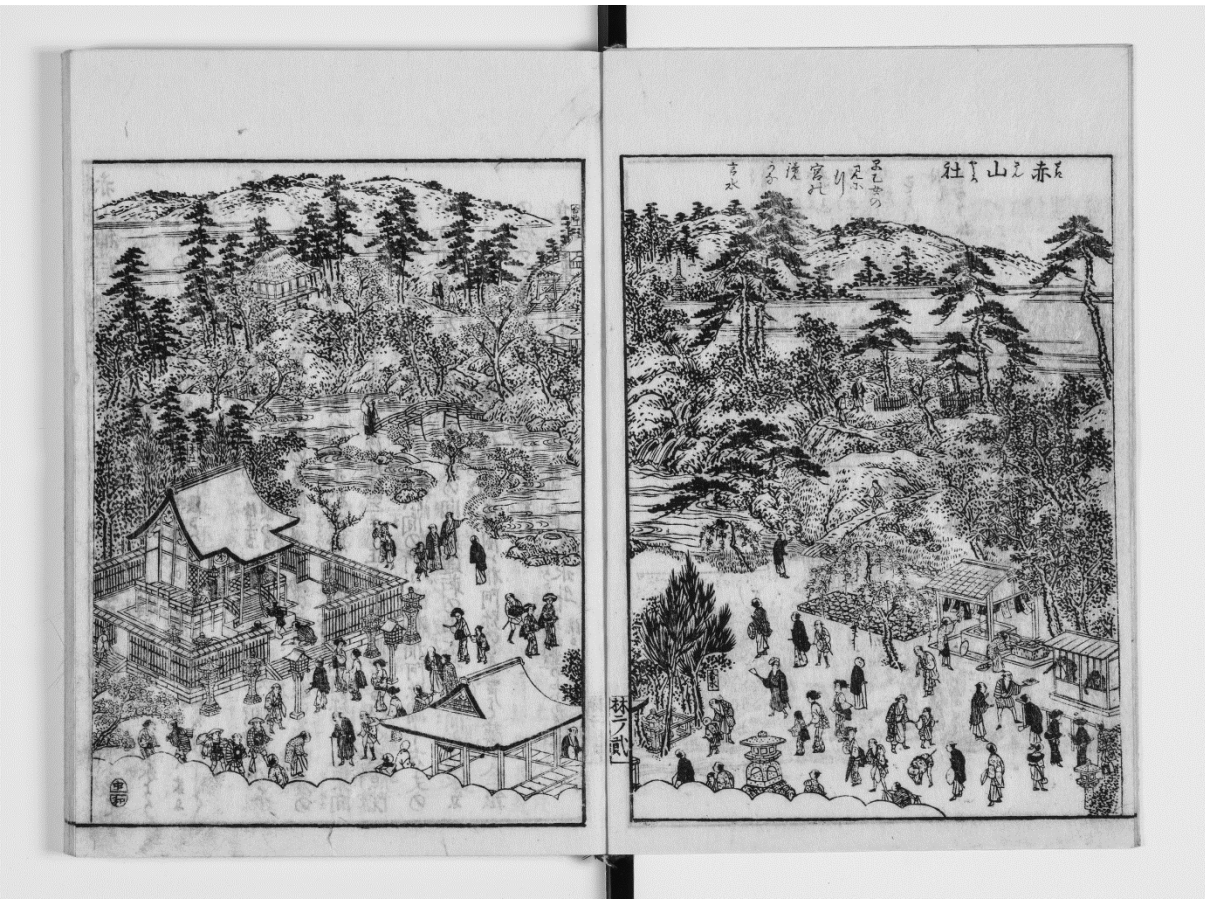
庭園構成要素	地割	広い平庭であり、竹垣や穂垣で内露地と外露地を区切っている
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	飛石が門から雪隠、蹲踞、茶室へと続く。茶室前には手水構えが描かれている。
	植栽	茶室廻りには松の高木が植栽され、庭内にも数種類の樹木が見られる。図の手前中央には樹形が特徴的な杉が描かれている。
	構造物	雪隠前と茶室前に蹲踞があり、茶室横野待合の脇に六角型燈籠、茶室前の手水鉢の横にも燈籠が描かれている。露地を区切る作は竹柵2種と穂垣が描かれている。茶室横には井戸が描かれている。
	建造物	茶室、待合が2棟、雪隠、茶室横にも建物が描かれている。
	周辺景観	樹木は描かれているが、それ以外の描写はない。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（武士：1 人、僧侶：1 人、男性：2 人）
	行動	雪隠前に僧に案内される武士が描かれている。また掃除をする男性も描かれていることから、庭園の手入れをする風景も良しとしたことが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.22

巻数	一　乾	頁数	林一ノ六十九裏、林一ノ七十終表	挿図番号	№42
挿図名	東寺山吹　岡本氏林泉				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	朝霧島之介といふもの作りしといふ 額は鳥石葛辰の筆なり				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	不明			
庭園種別	寺院　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　**その他（　個人宅　）**				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	朝霧島之介				

庭園構成要素	地割	敷地の大半を園池が占めており、地面との高低差も大きい
	水系	広い池があり、水流の表現から流れが強く見える。図の中央には水門が見られ、そこから水を取水もしくは排水している。池の中に子供が入っているためそれほど水深は深くないことが想像できる。
	石組・景石・敷石・敷砂利	景石や護岸石、飛石すべてが大振りの石を用いている。池には沢飛石がある。
	植栽	松が多く、他に柳、笹、刈込が見られる。
	構造物	水門の近くに自然石の橋、土地が低くなった場所と出島をつないでいる木製の欄干付き反り橋がある。図の右端には六角型燈籠、中央付近には雪見燈籠、水門の左横にも石造物が描かれている。
	建造物	「澄清映徹」と書かれた扁額が掛かる建物が図の左にある。
	周辺景観	図の中央奥に敷地外の建物が描かれている。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　**戸外活動**　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　**夏**　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：　10　人（男性：　2　人、子供：　8　人）
	行動	子供が池に入ったり、沢渡りの上で魚を取ろうとしたり、橋の上で亀を手に座っていたりする姿が描かれている。また縁では子供たちが鉢に入れた魚をのぞき込んでいる。庭を歩く女児は小さな子供を抱いており、抱かれた子供は紐で繋がれた亀を手にしている。縁先に立つ僧体の人物はうちわを手に、池の子供をたしなめているようなしぐさをしている。うちわを持っていることなどから、この図画夏を描いた場面であることが分かる。
動物	池中に多くの魚が泳ぎ、縁先には鉢に入ったた魚が描かれている。また子供が亀を手にしている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.23



巻数	二	頁数	林二ノ貳表、林二ノ三上表	挿図番号	№44
挿図名	赤山社				
画工名	佐久間草偃 ・ **西村中和** ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	社頭の林泉玲瓏				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	同位置に園池はあるが荒廃しており、池の形が変化し、滝はなくなっている。			
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	庭園は本社の横に造られ、山の斜面を利用した高低差のある庭園である。築山の中央から滝が落ち、横長の池に注いでいる。本社横には出島があり、その先には島がある。築山の上部には亭や社がある。
	水系	築山中央部に水量の多い滝があり、横長の池に注いでいる。護岸は地被類を植栽された土留めである。図左上に水門がみられる。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組はそれほど多くないが護岸の要所に石組が見られ、滝の右側に大きな石を用いた石組がある。
	植栽	桜が多く見られ、図中央の池のそばにはしだれ桜があり、出島やその対岸にも桜が植えられている。松も多くあり、滝の右側には池に張り出した松が描かれている。
	構造物	図の中央に手水鉢があり、鉢前の石組も描かれている。図の中央上部の築山の上には層塔が描かれている。水門の後ろと中島に切石橋が架かり、さらに中島から対岸へ中央が太鼓橋となった欄干付きの反り橋が架かっている。枝垂桜の付近の流れにも橋が架かるが、材質は不明だが橋が架かっている。社の前には鳥居と2基の燈籠がみられる。
	建造物	庭園内には築山上に「金神」と書かれた社が築山上部にあり、その手前には鳥居や建物が見られる。さらに図の左上部には茅葺の建物がある。
	周辺景観	庭園の背後には山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある） ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ **風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	早乙女の見に行宮の鏡かな 言水	意味：神社やその周囲の田畑を連想される歌。
季節	**春** ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ 強調せず	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 73 人（男性： 62 人、女性： 11 人）
	行動	島や園路に人々が配置され、散策する様子が描かれている。築山上の松に注目している人物や、茅葺の建物を見る人物どから見どころとしていることが分かる。
動物	庭園内にはいないが、図右端に猿が描かれている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.24

巻数	二	頁数	林二ノ三中裏、林二ノ三ノ下表	挿図番号	№46
挿図名	銀閣寺　林泉				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	相阿弥作　銀閣の林泉は向に庭造伝或は都名所に出たれとも年歴累りて樹木古朽し又新に植るも多し。故に寺僧の好みに任せて今時の体を図す 〔客殿部分〕此後に御茶の水あり				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	慈照寺（銀閣寺）庭園（国・特史・特名）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	相阿弥作				

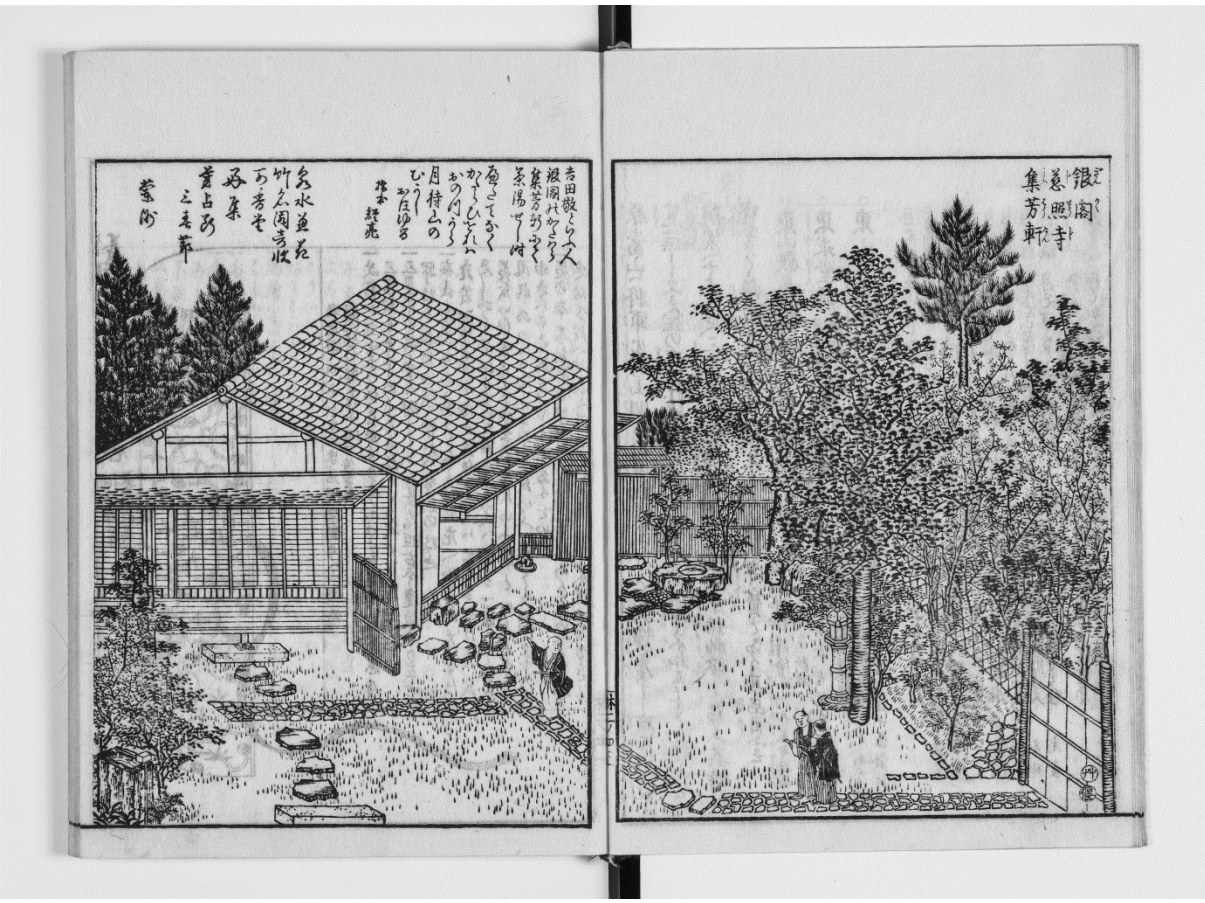
庭園構成要素	地割	建物前は白砂敷の平庭に向月台や銀沙灘が造られ、その先には図の多くを占める池が描かれている。池の右側には潮音閣や廟が建てられている。池には島が二つあり、池は図の奥の流れに続いている。
	水系	図に大きく広がる池は図の奥の流れに続いている。次頁にも図が続いており、そこには洗月泉と書かれた滝があり、流れを経て一段下がった池へと注いでいる。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組の中に名石が多くあり、図中に名前が示されている。潮音閣の左前にある「落星石」、その前の池中にある「浮石」、流れの手前にある「細川」、中島の左奥には「畠山」がある。
	植栽	潮音閣の奥にある藤や浮石に植えられている柳、流れ手前の杉、護岸の周囲や中島に植えられている松などが目立つ。客殿の前には花壇があり、花が植えられている。護岸の周囲や中島には刈込や地被類が見られる。
	構造物	潮音閣の奥に藤棚、廟の前に鳥居、客殿の前に花壇が見られる。池には橋が4か所に架かり、潮音閣前に「分界橋」、中島には「迎仙橋」、流れ部分には「濯錦橋」、図左には「龍脊橋」がある。「分界橋」「迎仙橋」は切石橋、「濯錦橋」「龍脊橋」は自然石を用いた橋である。
	建造物	図の手前には客殿と東求堂が描かれており、客殿の脇には廊下がある。潮音閣も描かれ、隣には「護国廟」がある。
	周辺景観	庭園の背後に「月待山」が描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：　12　人（僧侶：　1　人、武士：　5　人、男性：　3　人、女性：　3　人）
	行動	人物は池の周囲に立ち、各々鑑賞している。現在とは異なり潮音閣に出入りでき、2階では僧侶の案内で庭園を鑑賞する人物らが見られる。ここも本庭園の鑑賞ポイントであったことが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.25

巻数	二	頁数	林二ノ三ノ下裏	挿図番号	No.47
挿図名	〔銀閣寺　林泉　其二〕				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	慈照寺（銀閣寺）庭園（国・特史・特名）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	相阿弥				

庭園構成要素	地割	挿図No.46に続く庭園である。滝部分は築山となり、落差の大きな滝が見られる。	
	水系	挿図No.46に続く園池が描かれ、「洗月泉」とい滝から流れを通り、低い滝を落ちて池に注いでいる。	
	石組・景石・敷石・敷砂利	名石が護岸付近や池中に見られる。図の右手前の護岸付近には「爛ヨ可石」「釣月台」「臥牛石」があり、池中には「大内山」「座禅石」が見られる。	
	植栽	松と楓が多くみられる。	
	構造物	3か所に橋が架かり、流れに一つと島に「仙袖橋」「仙桂橋」が架かっている。いずれも自然石の橋である。	
	建造物	描写なし。	
	周辺景観	庭園の背後に山並みが描かれている。	
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**		
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）		
詩歌	雪の日よめる 花紅葉月待山のけしきより 哀れに深き雪の明けぼの 柳枝軒弁	意味	桜や紅葉の季節の風景よりも朝の雪深い景色を評価する歌であるが、本庭も雪景色が素晴らしいことを伝えるために選ばれたか。
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず		
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）		
気象	**晴**　・　雨　・　雪		
人物	人数	計：3 人（男性：1 人、女性：1 人、子供：1 人）	
	行動	親子で池の周囲を歩き、庭園を鑑賞している様子が描かれている。	
動物	描写なし。		

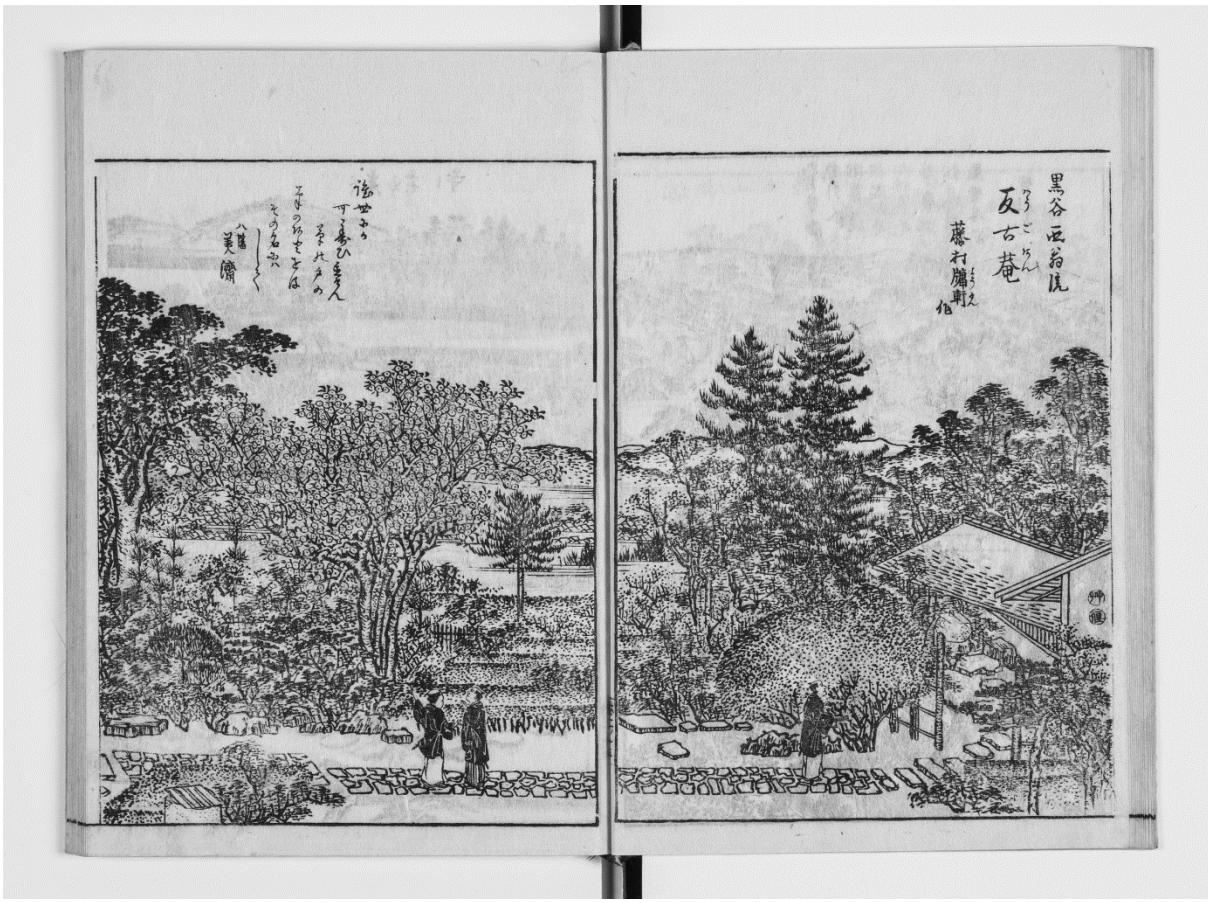
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.26



巻数	二	頁数	林二ノ四下裏、林二ノ五表	挿図番号	№49
挿図名	銀閣　慈照寺　集芳軒				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　枯山水　・　**露地**　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	図の左手前に沓脱石が描かれていることから、建物間にある平庭である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	飛石と延段を組み合わせた園路がある。
	植栽	庭園は地被類で覆われ、蹲踞や手水鉢の付近と建物に面した柵沿いに植栽がほどこされている。
	構造物	図中央にある蹲踞と、図の左手前にある手水鉢はどちらも筧が描かれている。建物の前には沓脱石が描かれ、建物正面には自然石の沓脱石、縁側に面した場所には加工石の沓脱石が据えられている。図の右には樹木の側に六角型石燈籠が据えられている。縁には袖垣が取り付けられ、庭は柵や塀で仕切られている。軒内には塵穴が描かれている。
	建造物	平瓦葺の建物が描かれている。
	周辺景観	建物の後ろに杉が描かれ、また塀の向こうには建物が描かれている。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	吉田敬といふ人銀閣のかたはら集芳軒にて茶湯せし時 へだてなくかたらひをれはおのつから月待山のむかしおほゆる 橋本経亮 泉水兼花竹 名園奇状所 香堂好集芳 占断三春節 蘭沙	意味：歌はまさに集芳軒での茶事で詠まれた歌であり、漢詩も集芳という字があることからどちらも名勝に関連する詩歌であることが分かる。
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、武士：2 人）
	行動	僧侶に案内されて訪れた武士が描かれている。僧侶が手で建物を指し示すことから、建物がこの名勝の見どころであることが分かる。
動物	描写なし。	

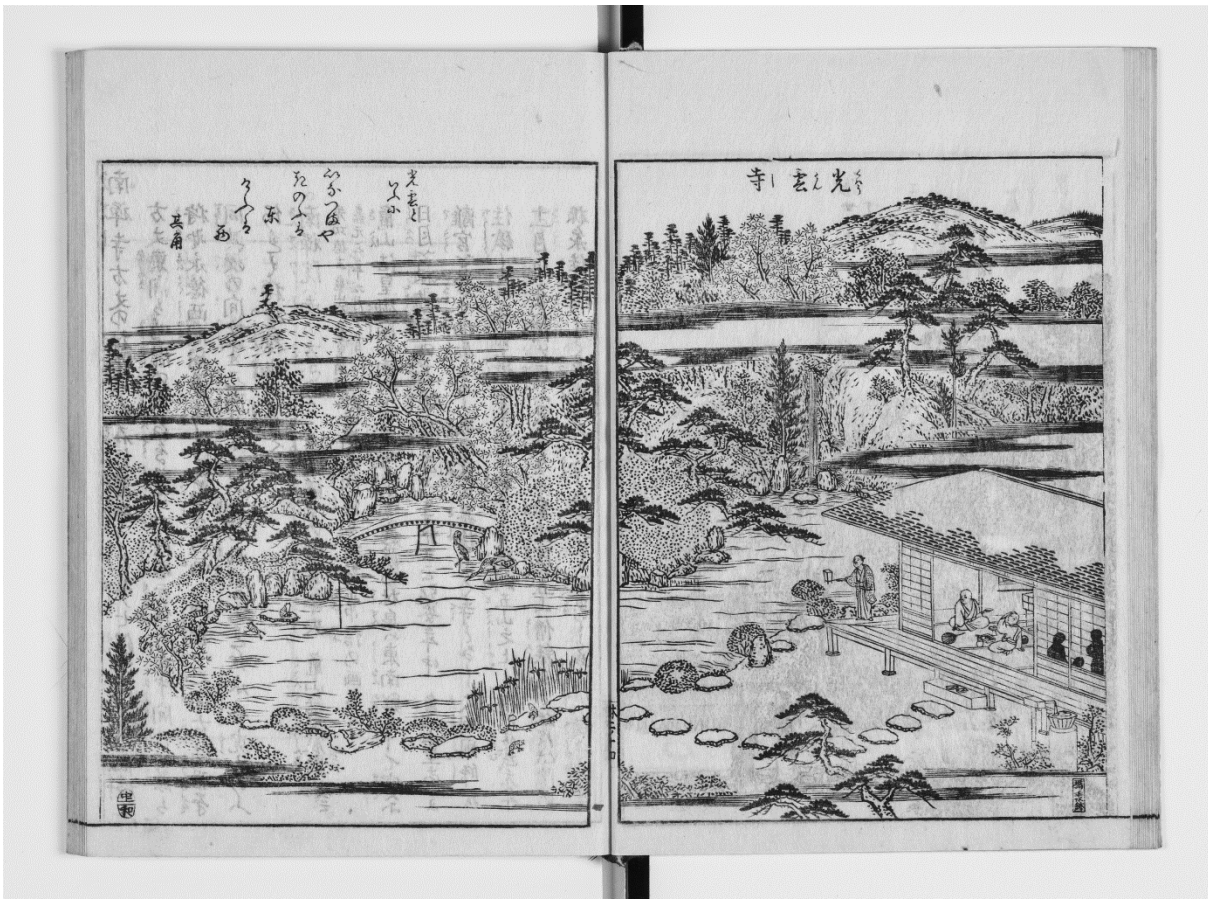
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.27



巻数	二	頁数	林二ノ十三裏、林二ノ十四表	挿図番号	№52
挿図名	黒谷西翁院　反古菴				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	藤村牖軒作				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	西翁院露地（市指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　枯山水　・　**露地**　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	藤村庸軒				

庭園構成要素	地割	平庭の露地であり、眺望を活かした庭園である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	庭の中央部には延段が描かれ、石組は植栽の裾部にほどこされている。延段は飛石に変わり、手水空間へつながっている。
	植栽	庭の両脇に植栽され、中央部は眺望が阻害されないように背の低い刈込みが植えられている。樹木は桜の大木や杉が目立つ。
	構造物	図の左手前に蓋をされた手水鉢が描かれている。図の右側の屋根下には丸型の蹲踞が描かれている。手水空間と園路を区切るように柵が置かれ、図左側の植栽の後ろにも柵が描かれている。
	建造物	手水空間を覆う屋根が描かれ、それにつながる建物も描かれている。
	周辺景観	眺望が描かれており、町並みを表す屋根や山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	誰世にかむひ置きけん草の戸の 筆のあとをはその名にはして 八幡美濟	意味
季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（武士：3 人）
	行動	延段上を歩く武士が描かれており、図左の人物らは桜を見ているのか立ち止まっており、右側の人物は手水空間の方へ進もうとしており、目線の先や行先によって本庭園の見どころを示している。
動物	描写なし。	

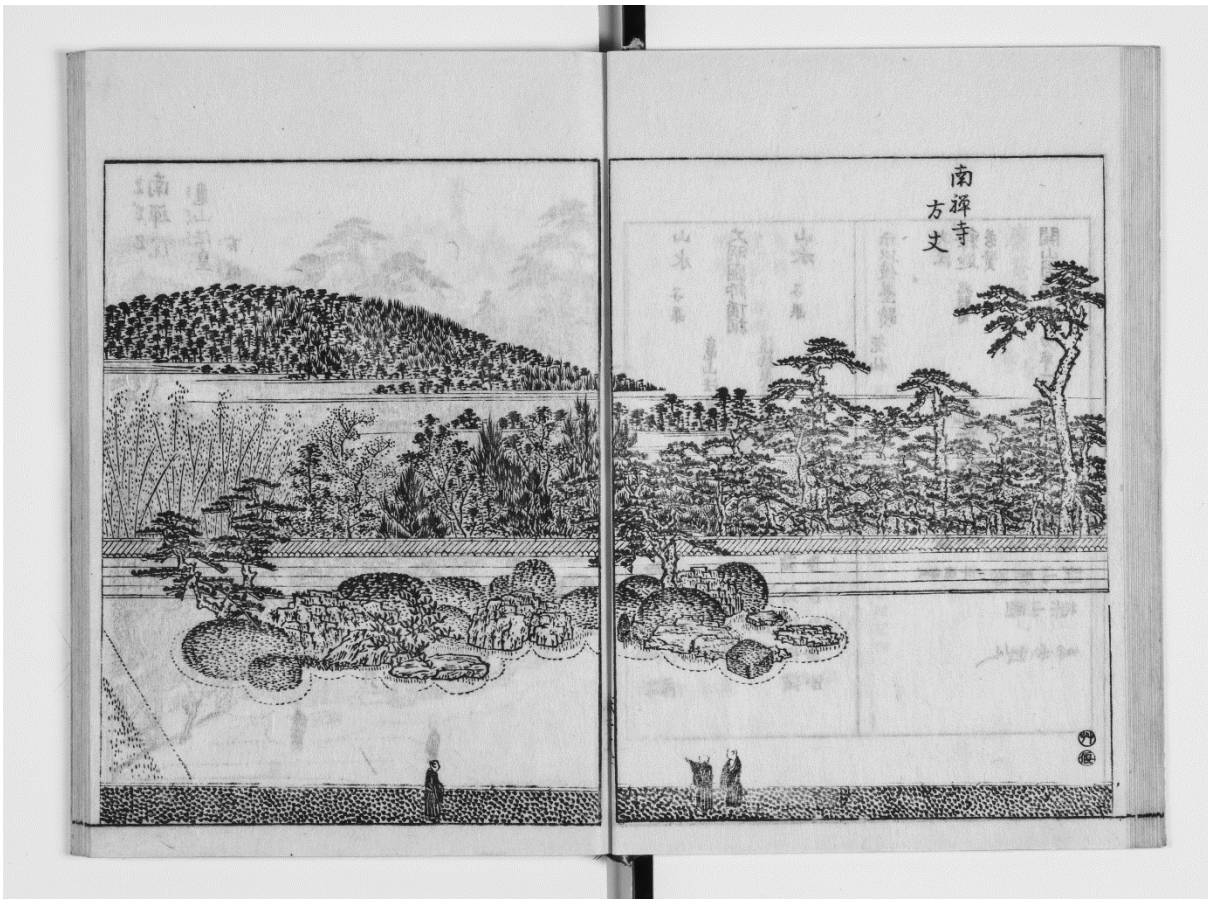
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.28



巻数	二	頁数	林二ノ十四裏、林二ノ十五表	挿図番号	№53
挿図名	光雲寺				
画工名	佐久間草偃 ・ **西村中和** ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	光雲寺庭園（市指定名勝）			
	現況	昭和2年に7代目小川治兵衛（植治）によって新規に築かれた			
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	建物前は平庭であるが、大きな池の対岸は高い築山があり、高低差を活かした滝が描かれている。
	水系	大きな池があり、図の右側には落差のある細い滝が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸や滝の部分に石組が見られ、橋のたもとやその奥などに集中して石が組まれている。
	植栽	全体的に楓が多く、松が所々に植えられている。護岸には小さな刈込が植えられ、出島には大きな刈込が目立つ。図の手前の池中には燕子花が植えられ、花を咲かせている。
	構造物	池には土橋が架かっている。図の右側の建物の側には「手水瑪手水鉢」があり、筧から水が注ぎこまれている。加工石の沓脱石も描かれている。
	建造物	図の右側に建物があり、柿か檜皮かは判別できない。
	周辺景観	庭園の背後には山が描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある） ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ **風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞** ・ 回遊 ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	光雲といふに いなつまやきのふは東けふは西 其角	意味：寺の名称から雷雲を連想した歌であり、名勝に関連し、かつ夏を想像させる歌である
季節	春 ・ **夏** ・ 秋 ・ 冬 ・ 強調せず	
時間帯	朝 ・ 日中 ・ 夕方 ・ **夜** ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 5 人（僧侶： 2 人、男性： 1 人、影： 2 人）
	行動	人物は全員室内に描かれており、縁側に立つ人物が持つ手燭や室内の行灯、障子に映る影から室内に明かりがついていることが分かり夜であることが分かる。僧侶や縁側の男性が室内から庭園を見ていることから、室内からの鑑賞を勧めていることが分かる。
動物	土橋の付近に鷺が2匹描かれている。またその近くの池中に蛙が2匹、燕子花の前に2匹描かれている。	

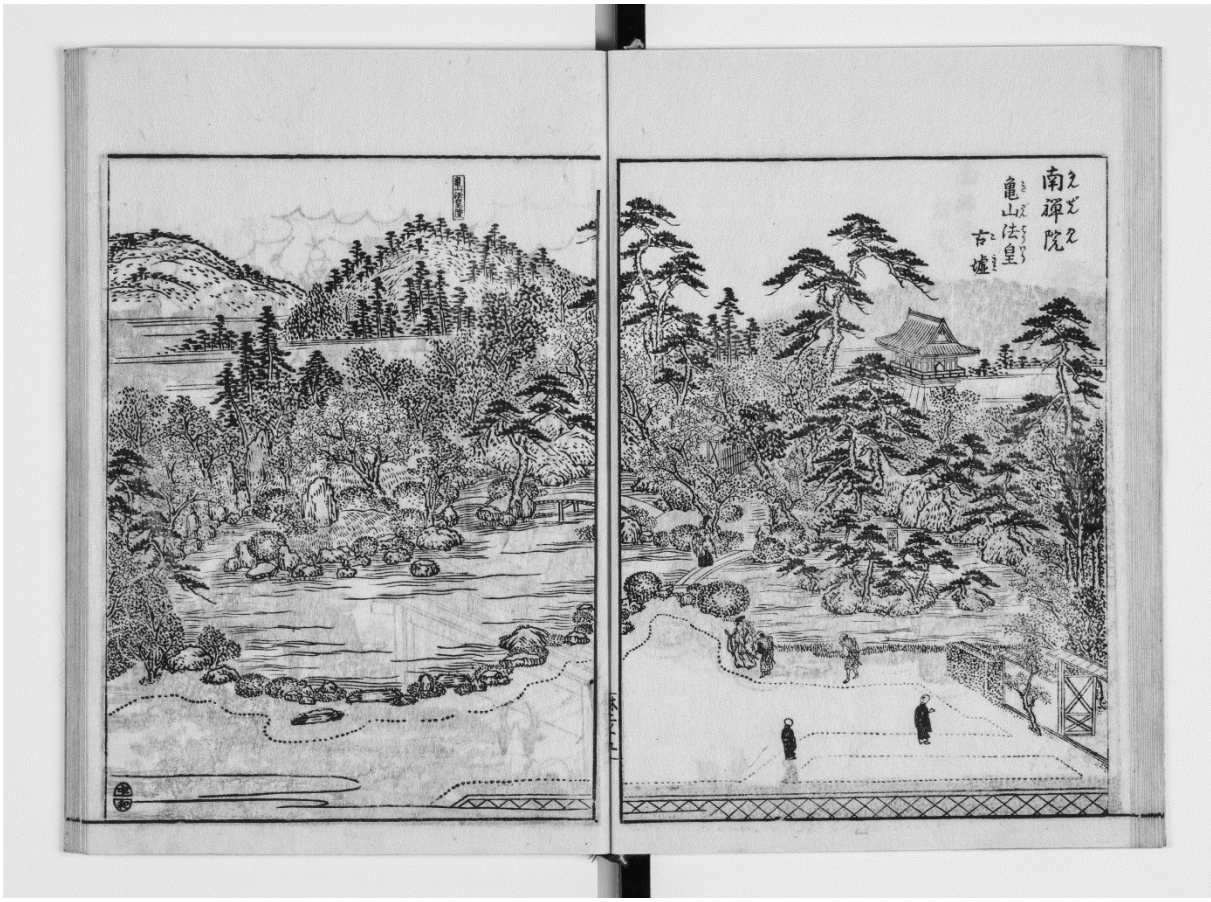
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.29



巻数	二	頁数	林二ノ十八裏、林二ノ十九表	挿図番号	№54
挿図名	南禅寺　方丈				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	方丈の林泉は、奇石巨巌そばだちて、雲夢七沢を闢くの仙境なり				
現在の状況	文化財指定状況	南禅寺方丈庭園（国指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	平庭であり、図の左寄りに石組がある。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	「奇石巨巌そばだちて」とあるように巨石の石組が描かれている。石の周りに地被類が見られ、地面には石組や植栽を縁取るように点線が描かれていることから庭一面に白砂が敷かれていることが分かる。
	植栽	石組の周りにはマツが2本と樹種不明の木が1本と多数の刈込が見られる。地面には地被類が描かれている。
	構造物	描写なし。
	建造物	庭園を囲む瓦葺の塀が描かれている。
	周辺景観	塀の外には松や杉、竹が描かれ、左側には松や杉の山が描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：3 人）
	行動	軒内を歩く僧侶が描かれており、石組に近付く姿が描かれていないことから遠くから鑑賞する庭園であることを示している。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.30



巻数	二	頁数	林二ノ十九裏、林二ノ二十表	挿図番号	No.55
挿図名	南禅寺　亀山法皇古墟				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	当院の林泉は東南鮮にして、まことに日月を扶助するの霊境なり				
現在の状況	文化財指定状況	南禅院庭園（国指定史跡、名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

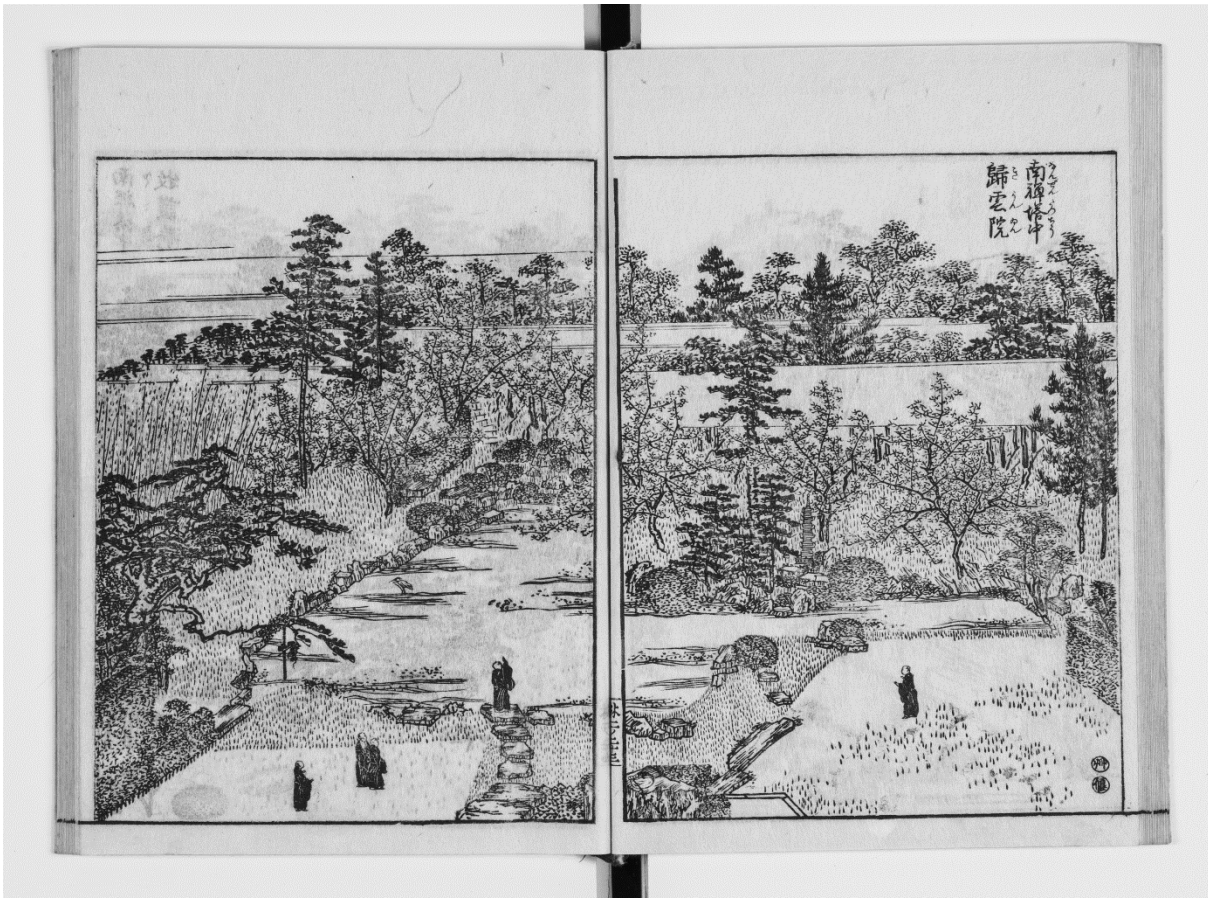
庭園構成要素	地割	建物の前は白砂が敷かれ、園池は折れ曲がり、池中には島が2つある。園池の背後は山を利用した築山がある。
	水系	園地は手前の建物に沿うように曲がり、出島が2か所、島が2つある。右側の島は「心字島」と書き示されている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組があり、図左側の出島は池中に景石が描かれている。島の上には大きな立石があり、その背後にも大きな立石が見られる。平庭部分には白砂によって園路が造られている。
	植栽	松や楓が多く、護岸には刈込が多く見られる。島や護岸、図の右側の門付近の地面にそれぞれ異なる種類の地被類が見られる。
	構造物	図の中央右には反り橋が架かり、図の中央には土橋、その左にも反り橋が架かっている。図右側の出島付近には六角型石燈籠が描かれ、その園路の先には門が描かれている。
	建造物	図の手前に四半敷の軒内が描かれていることから建物があることがうかがえる。図の右側には門があり、奥には鐘楼が描かれている。
	周辺景観	庭園の背後には山が描かれており、「亀山法皇陵」と書かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：6 人（僧侶：2 人、武士：2 人、公家風の人物：2 人）
	行動	平庭では白砂が敷かれている部分を避けて歩いていることから、白砂によって園路が造られていることが分かる。橋の上に人物が配置されていることから回遊できたことが分かり、また人物らが亀山法皇陵の方向を見ていることから見どころであることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.31

巻数	二	頁数	林二ノ二十二裏、林二ノ二十三表	挿図番号	№57
挿図名	南禅塔中　聽松院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	林泉相阿弥作 菅神霊夢松				
本文における庭園記述	塔頭聽松院の林泉風色幽雅にして、庭に瑪瑙の水鉢あり。また菅神夢想の名松あり、老木の大樹にてありしが、近年衰枯して朽たり、故に植継あり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	同院に園池は残っている			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	相阿弥				

庭園構成要素	地割	建物に沿って折れ曲がった池があり、図の左奥には築山が見られる。
	水系	矩形の池には島はなく、池幅が狭くなっているところに橋が架けられている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組は護岸に多く、特に池の奥側に多く組まれ、岬には立石が見られる。図の左奥の築山には大きな石が見られる。建物の前にある飛石は池に沿って延ばされている。図の右手前には池中に沢渡りが描かれている。
	植栽	庭の中央には枯れた「菅公霊夢松」があるが、そのわきには細く伸びた植え継された松が描かれている。庭園全体では松が多く、建物の後ろには竹が見られる。庭園の奥には生垣があり、敷地が区切られている。
	構造物	橋が2本あり、図の右側は土橋であり、左側には自然石の橋が架かっている。池の奥側には六角型石燈籠があり、その右側には石塔が描かれている。建物の奥には「瑪瑙石」と書き記された手水鉢が描かれており、見どころであることが分かる。
	建造物	図の左側に建物が描かれている。
	周辺景観	庭園の背後には山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（僧侶：1 人、男性：4 人）
	行動	人物が建物内、庭園内どちらにも配置されていることから、室内からの鑑賞と回遊のどちらの鑑賞方法もあったと分かる。しかし人物らは「菅公霊夢松」に注目していることから、庭中の人物は回遊よりも松に近付くことを強調しているとも考えられる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.32



巻数	二	頁数	林二ノ二十三裏、林二ノ二十四表	挿図番号	№.58
挿図名	南禅塔中　歸雲院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

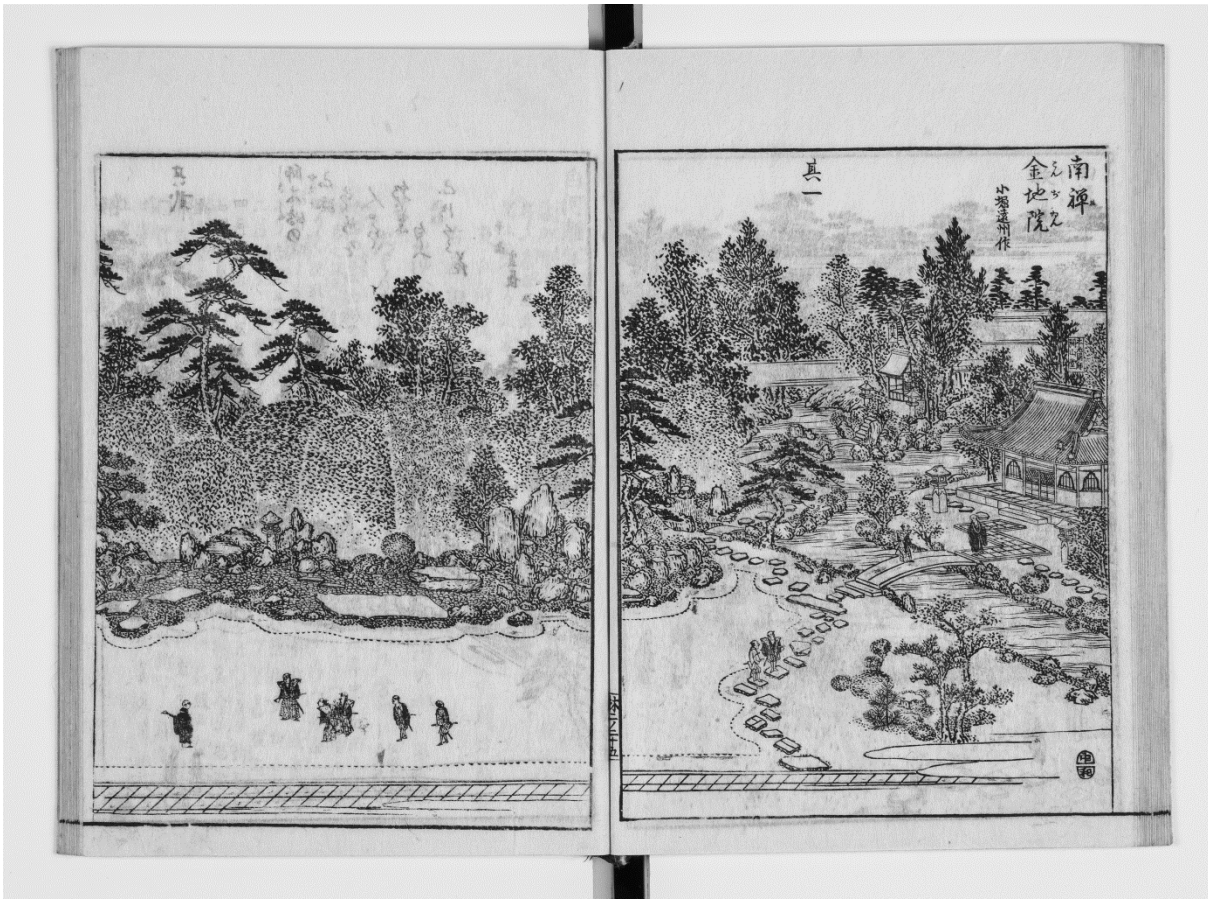
庭園構成要素	地割	平坦な土地に護岸が直線的な園池が造られている。
	水系	直線的な護岸を持つ園池は池底の砂が描かれており、水位が低いことが分かる。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組や石塔の周りに石組が見られる。図の手前から池に飛石が打たれ、その右側には大きな伏石が2つ描かれている。
	植栽	松と楓が多く見られ、他には杉と竹、刈込などが見られる。護岸付近や庭園の奥は地被類で覆われており、池の手前は護岸と同様に直線で揃えられている。
	構造物	図の手前に自然石に穴をあけた手水鉢が描かれ、図の右中央には石塔が描かれている。
	建造物	描かれていないが図の手前に手水鉢や三和土が描かれており、建物あることが想像できる。
	周辺景観	図の左端に山すそが描かれている。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（僧侶：5 人）
	行動	人物らが何を見ているか判別しえないが、池の対岸には人物が描かれていないことから庭園の奥へは行けなかったのだろう。池の手前から鑑賞し、飛石の先の護岸に人物がいることから鑑賞ポイントであったと考えられる。
動物	池中に鷺が描かれている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.33

巻数	二	頁数	林二ノ二十四裏、林二ノ二十五表	挿図番号	№59
挿図名	南禅塔中　牧護菴				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	同庵に現存している			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	孤を描くように園池が掘られ、中島が2つある。庭園の右奥には建物が描かれている。
	水系	図を占めるほど大きな園池は弧を描いたような形をしており、図の左側と中央に中島がある。園池には蓮やまっすぐ伸びた草本類の葉が多く描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組が池の左側に集中して見られる。図の左手前には自然石と切石を用いた飛石があり、左中央部や中央の中島にも飛石が打たれている。中島と中島の間には沢渡りが描かれている。
	植栽	松や楓、杉、刈込などが見られる。全体的に樹木が多く、池の右側は樹木に覆われて護岸が見えないほど繁茂している。図の手前の平庭部分は地被類で覆われている。
	構造物	図の中央から中島へは欄干付きの橋が架けられ、中島から庭園奥へは切石橋が架かっている。図の左側の護岸から中島へも切石橋が架けられている。図左の橋のたもとと中央の中島に四角型石燈籠が描かれている。
	建造物	庭園の奥に建物が描かれている。
	周辺景観	図の右奥に山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（僧侶：1 人、男性：4 人）
	行動	図の左手前の飛石の上に1人、そのほかは図の中央に描かれており、その位置が庭園の鑑賞位置であることが分かる。島の内部には人物が描かれていないことから、庭に降り立つことはできても散策する庭園ではなかったのかもしれない。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.34

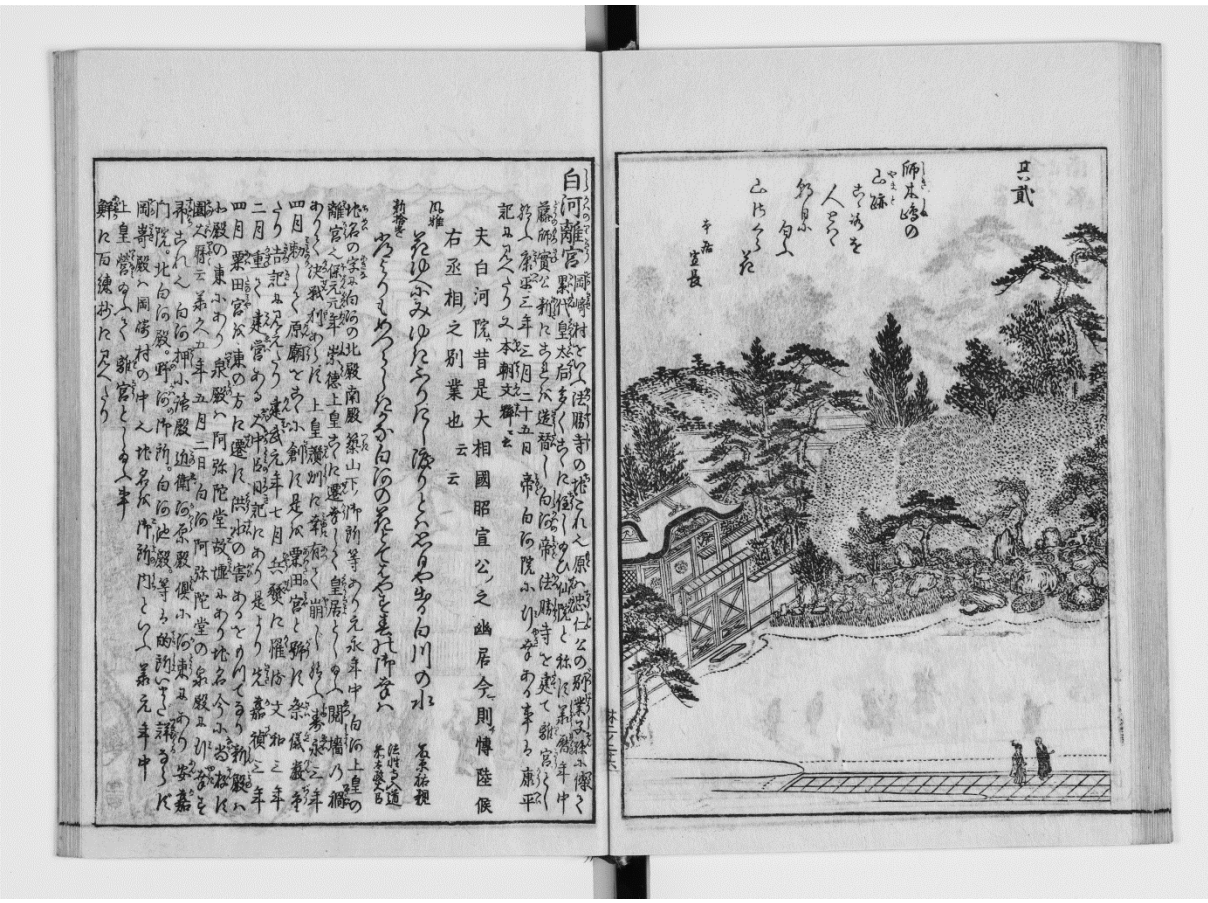


巻数	二	頁数	林二ノ二十五裏、林二ノ二十六表	挿図番号	№.60
挿図名	南禅　金地院　其一				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	小堀遠州作				
本文における庭園記述	この院の林泉佳境にして名巌多く、心といふ文字に双置けりとぞ				
現在の状況	文化財指定状況	金地院庭園（国指定特別名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	小堀遠州				

庭園構成要素	地割	平坦な枯山水部分と図の右部にある池と流れによる庭園。
	水系	庭園の右奥には池があり、図の手前に向けて流れがある。池には弁天を祀る社が建てられた出島があり、その前に小さな島がある。流れ部分の護岸は直線になっている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	庭園中央部に石組が組まれ、大きな礼拝石が目立っている。本文中に名石が多く、心という字に並べ置かれているとあるが、名石を書き記すことはしていない。
	植栽	庭園の手前には右方に少し植栽が見られるのみであり、奥は石組の後ろや建物の背後に植栽されている。石組の背後には大きな刈込が見られ、葉の形から2種以上の植物で構成されているようである。さらにその背後には松などの高木が描かれている。
	構造物	図の中央左部に六角型石燈籠が描かれている。開山堂前と弁天社前にもそれぞれ2基ずつ四角型石燈籠が描かれている。開山堂前の石燈籠の火袋は四方打抜きになっている。流れには開山堂前に架かる大きな切石の反り橋が架けられ、弁天社の前の島に切石橋、島から出島にも切石橋が架けれらている。
	建造物	庭園の右側に「本光国師開山堂」と「弁天」が描かれている。図の手前には軒内が描かれていることから建物があることが分かる。
	周辺景観	描写なし
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：　10　人（僧侶：　2　人、武士：　8　人）
	行動	図の右側の人物らは飛石や橋上などの園路の上に描かれ、開山堂方向へ進んでいる。図の左側にいる人物らは石組から離れた建物側を歩いている姿が描かれている。人物の中には裃を身に着けた武士が描かれており、これは本院に東照宮があることを、そのものを描かずに示しているのか。本文中には「南の方に御宮あり」と記述している。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票

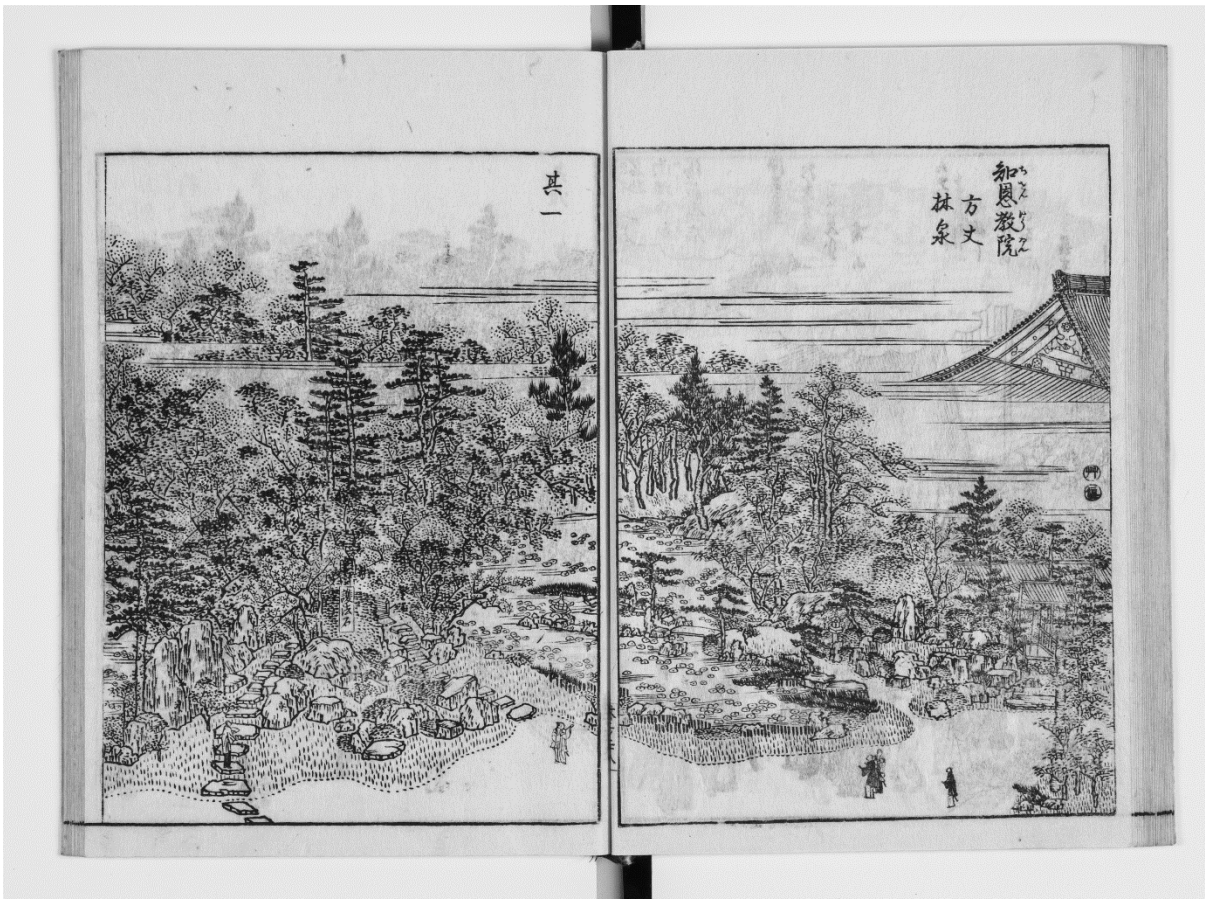
調査票No.35



巻数	二	頁数	林二ノ二十六裏	挿図番号	No.61
挿図名	其貳				
画工名	佐久間草偃 ・ **西村中和** ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	この院の林泉佳境にして名巌多く、心といふ文字に双置けりとぞ				
現在の状況	文化財指定状況	金地院庭園(国指定特別名勝)			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他( )				
庭園の形態	築山林泉 ・ **枯山水** ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他( )				
作庭者	小堀遠州				

庭園構成要素	地割	挿図No.60に連続する平坦な土地に造られた庭園であり、門の付近に低い築山がある。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	庭の手前には白砂が広がり、奥に石組が組まれている。
	植栽	石組の間に刈込が植えられ、背後には大きな刈込で背景を構成している。地面には石組を縁取るように地被類があり、図左側の門の側の築山は地被類に覆われている。
	構造物	描写なし。
	建造物	図の左に唐門が描かれている。その前にも門が描かれており、二重に門がある。
	周辺景観	門の背後に山並みが描かれている。
背景の種類	**無地(庭造の法則ある)** ・ 建物・風景(法則麁なる) ・ 風景(遠景をとる庭中)	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他( )	
詩歌	師木島の山跡こころを人とはは 朝日に匂ふ山さくら花 本居宣長	意味：図に桜の描写はないが、山桜を歌った歌を載せていることから付近に山桜があった可能性がうかがえる。
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ **強調せず**	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他( )	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 2 人(僧侶： 1 人、女性： 1 人)
	行動	僧侶が案内する様子が描かれている。軒内を歩き、石組から距離をとっていることから、距離をとって鑑賞する庭園であったことが分かる。
動物	描写なし。	

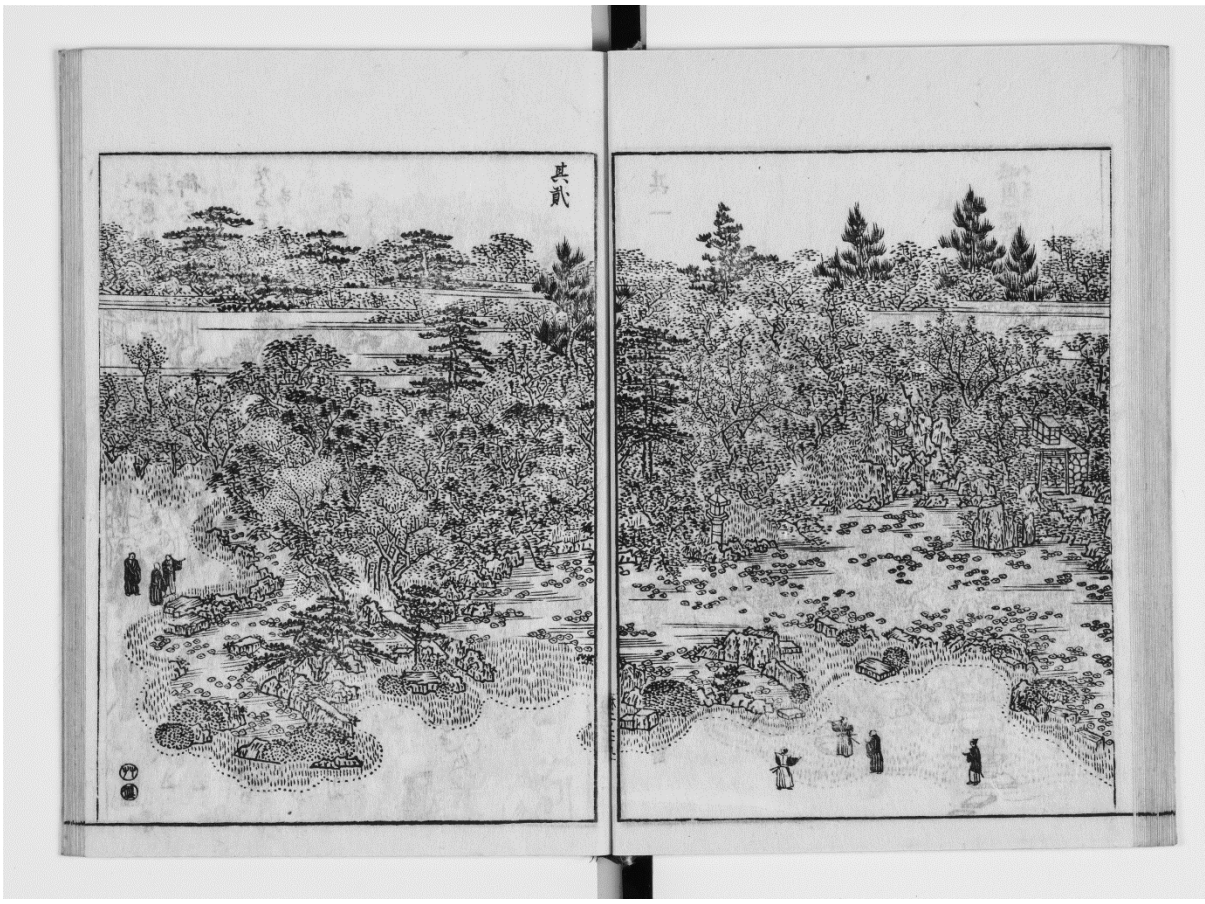
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.36



巻数	二	頁数	林二ノ二十八裏、林二ノ二十九表	挿図番号	№.63
挿図名	知恩教院　方丈林泉　其一				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	知恩院方丈庭園（京都市指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	挿図№.64に連続する挿図である。庭園は護法石が据えられている出島を中心に左右に池が広がり、その右部分の庭園が描かれている。池には中島が見られる。
	水系	挿図№.64に続く池の右部分が描かれている。池には蓮の葉が多く描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組は主に図の右側の井戸付近の築山と出島に多くある。出島には「護法石」があり、その両脇に飛石が奥の橋に向かって打たれている。
	植栽	松、杉、楓、蓮などが見られる。石組や護岸周りは地被類があり、なだらかな曲線で白砂と分かれている。
	構造物	中島に雪見燈籠、図の右側の築山に活け込み燈籠がある。図の右側には井戸があり、釣瓶や屋根が取り付けられている。中島に架かる橋は切石橋であり、出島に架けられた橋は刈込に隠れて全容は見えないが欄干が見える。
	建造物	井戸の後ろに塀が描かれている。
	周辺景観	図の右側に本堂の屋根が描かれている。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味：
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（武士：5 人）
	行動	池の右手前にいる人物らが池を鑑賞しており、また飛石上を歩く人物が護法石を見ていることからそれぞれが鑑賞位置や見どころを示していることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.37



巻数	二	頁数	林二ノ二十九裏、林二ノ三十表	挿図番号	№.64
挿図名	其貳				
画工名	**佐久間草偃** ・ 西村中和 ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	知恩院方丈庭園（京都市指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	記述なし				

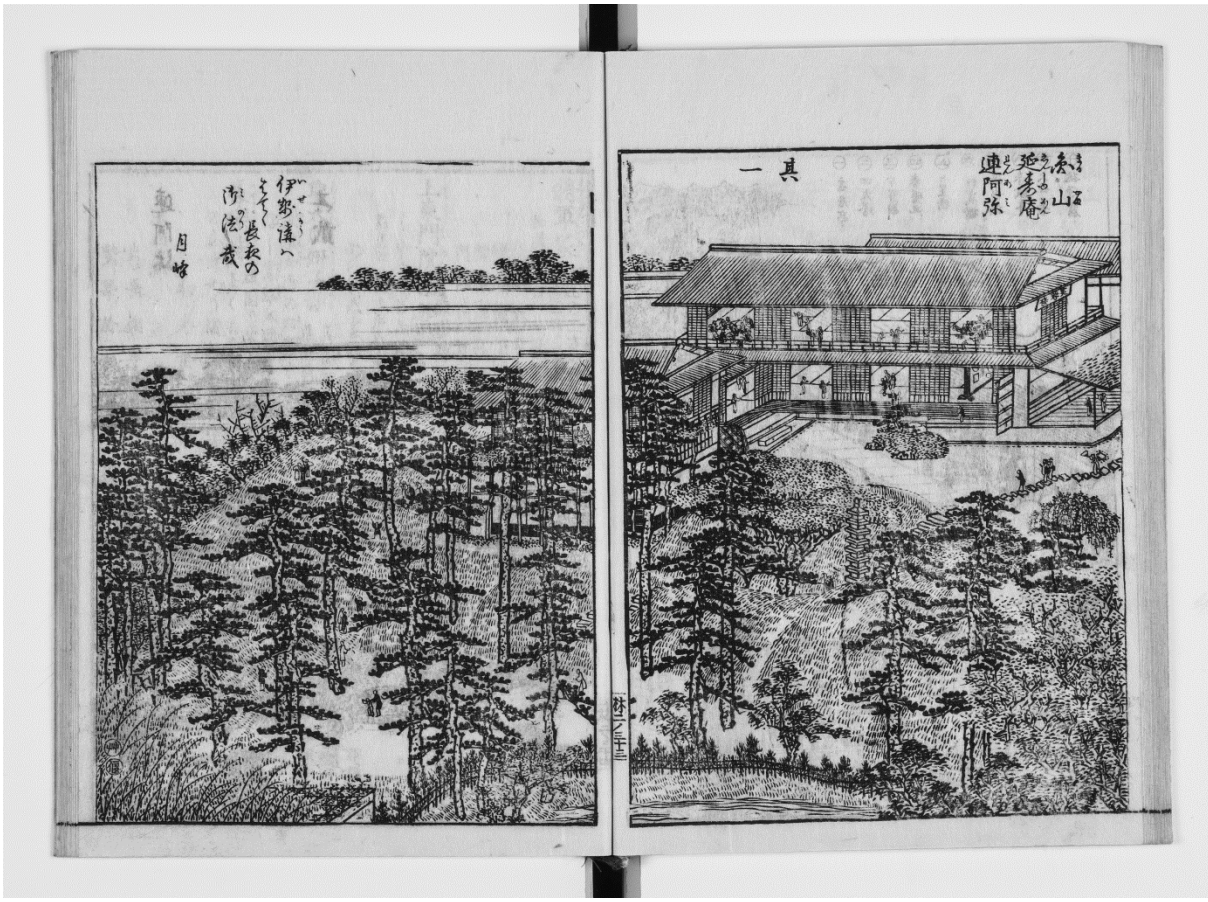
庭園構成要素	地割	挿図№.63に連続する図であり、園池の左側が描かれている。池の奥側は築山になっており、図の右側には社が描かれている。
	水系	挿図№.63にから続く園池の左部分が描かれている。全図と同様に池には蓮の葉が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	園池右側の護岸より大きな石が使用されている。
	植栽	挿図№.63と同様の植栽が見られる。池の対岸の植栽は密集している。
	構造物	社の前に鳥居があり、その左側には四角型燈籠が描かれている。池の中央部には六角型石燈籠が描かれている。図の左部には切石橋が架かっている。
	建造物	図の右側には石垣の上に社が2社描かれている。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）** ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ 風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ **強調せず**	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 7 人（僧侶： 2 人、武士： 4 人）
	行動	図の右手前には裃を付けた武士が描かれており、知恩院が徳川幕府によって再興されたことに関係があることを連想させるためか。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.38

巻数	二	頁数	林二ノ三十二裏、林二ノ三十三表	挿図番号	№.66
挿図名	圓山　多蔵庵　春阿弥				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	初は眼阿弥といふ ㊀雲居亭㊁四大塔㊂宇賀廟㊃春曙池㊄七星橋㊅彩霓橋㊆浪影橋㊇春眠亭㊈天柱峯㊉桃源窟				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり（中略）多蔵庵の庭造は相阿弥の作				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	相阿弥				

庭園構成要素		
	地割	池は建物に沿って雁行した護岸を形成し、対岸は石組や植栽が多く、高台には廟や亭が見られる。
	水系	図の中央上部に三段落の滝が描かれ、その左の流れは建物の下を通っている。図内の記述から㊃は池を指しており、「春曙池」という池であることが分かる。池は建物に沿って雁行した護岸を形成した中央部の池幅が広い位置に中島がある。
	石組・景石・敷石・敷砂利	立石や伏石を使って護岸が形成され、中島前は伏石が護岸と垂直に据えられ、岬となっている。中島の背後には「天柱峰」と名付けられ、その名の通り柱状の石材を用いて峰の様に石組がなされている。飛石は大ぶりの石が用いられ、園路を作っている。
	植栽	主に松と楓、刈込が見られ、形の良い松が中島に描かれている。図の右下には枝垂桜が満開の様子を描いている。天柱峰の後ろの樹木は丸や四角に刈り込まれ、印象的である。
	構造物	図の中央上部に㊁と番号が振られた「四大塔」と名付けられた石塔、天柱峰の左にも石塔がある。図の中央に池に架かる自然石の橋は「七星橋」、滝に架かる橋は「彩霓橋」、島の背後にある築山から天柱峰に架かる橋は「浪陰橋」という名がつけられている。浪陰橋の下は丸石が描かれていることから枯流れがあると思われる。
	建造物	図左の建物の他に、庭内には高台にある茅葺の亭「雲居亭」、図中央上部の築山上にある「宇賀廟」、図右下にある「春眠亭」が描かれている。
	周辺景観	描写なし
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	**春**　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：　33　人（男性：　22　人、女性：　11　人）
	行動	室内にいる人物たちは遊宴に興じ、遊宴の場としての名勝であることが分かる。庭内にいる人物らは、図左の建物の縁から降りようとしている女性と、その先で手招いている女性が描かれており、庭内の散策に出ていこうとする描写が見られる。図の中央下部では建物の縁に立ち、天柱峰の方を眺めている人物が描かれており、見どころを暗示している。また雲居亭の前にも人物が描かれており、その場まで行くことが可能であることを示している。
動物	池中に魚が描かれている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.39



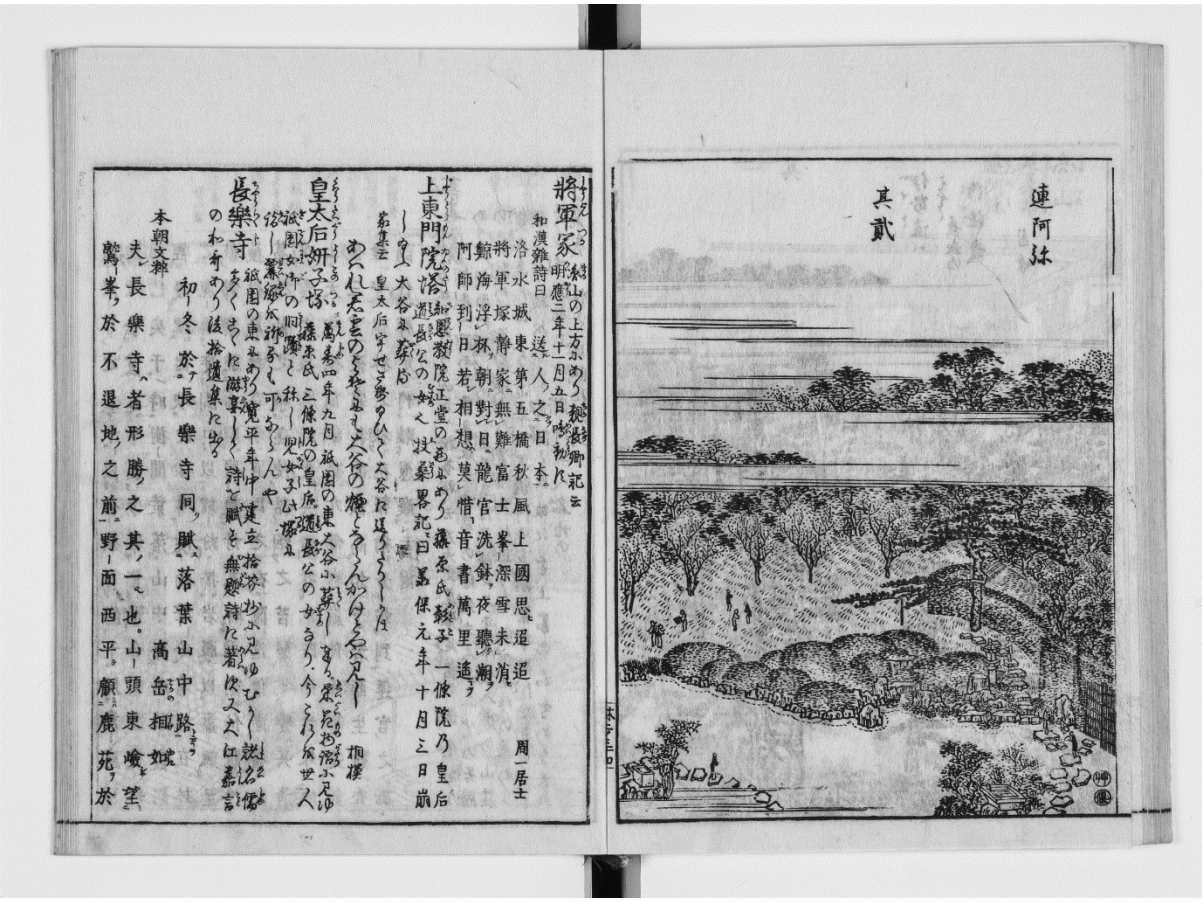
巻数	二	頁数	林二ノ三十三裏、林二ノ三十四表	挿図番号	№67
挿図名	圓山　延寿庵　連阿弥　其一				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	建物前の平庭から大きく下がった位置に池庭が造られた、高低差の大きい庭園である。
	水系	図の下部に園池があり、柵が設けられた草留め護岸の園池である。
	石組・景石・敷石・敷砂利	建物前の平庭の中央部に石組が見られるが刈込が目立ってしまっている。図の右側から延びる飛石は斜面を通り、下段の庭園へ続いている。建物の軒先や斜面の地被類の這え際に点線があることから白砂が敷かれていることが分かる。
	植栽	松と刈込、枝垂桜、藤、竹、地被類などが見られる。
	構造物	斜面に大きな石塔が描かれている。人物の大きさと比較してもかなりの大きさであることが分かる。図の左下には藤棚がある。
	建造物	図の右上に建物があり、扁額は「芙蓉楼」と読める。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	

詩歌	伊勢講ははてて長夜の御法哉 月峰	意味	伊勢参りの客でにぎわう様子を示したものか。名勝の性質を表現した歌である。

季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：70　人
	行動	屋内の人物は遊宴に興じ、庭内にいる人物は飛石を伝って下の庭園へ向かっている様子が描かれている。斜面の途中にある石塔の横には対比を示す目的や注目する様子を描くことで見どころであることを示している。下段の庭園には斜面で扇を掲げて遠くにいる人物に呼び掛けているかのような姿が描かれ、広大な庭園であることが分かる。
動物	描写なし。	

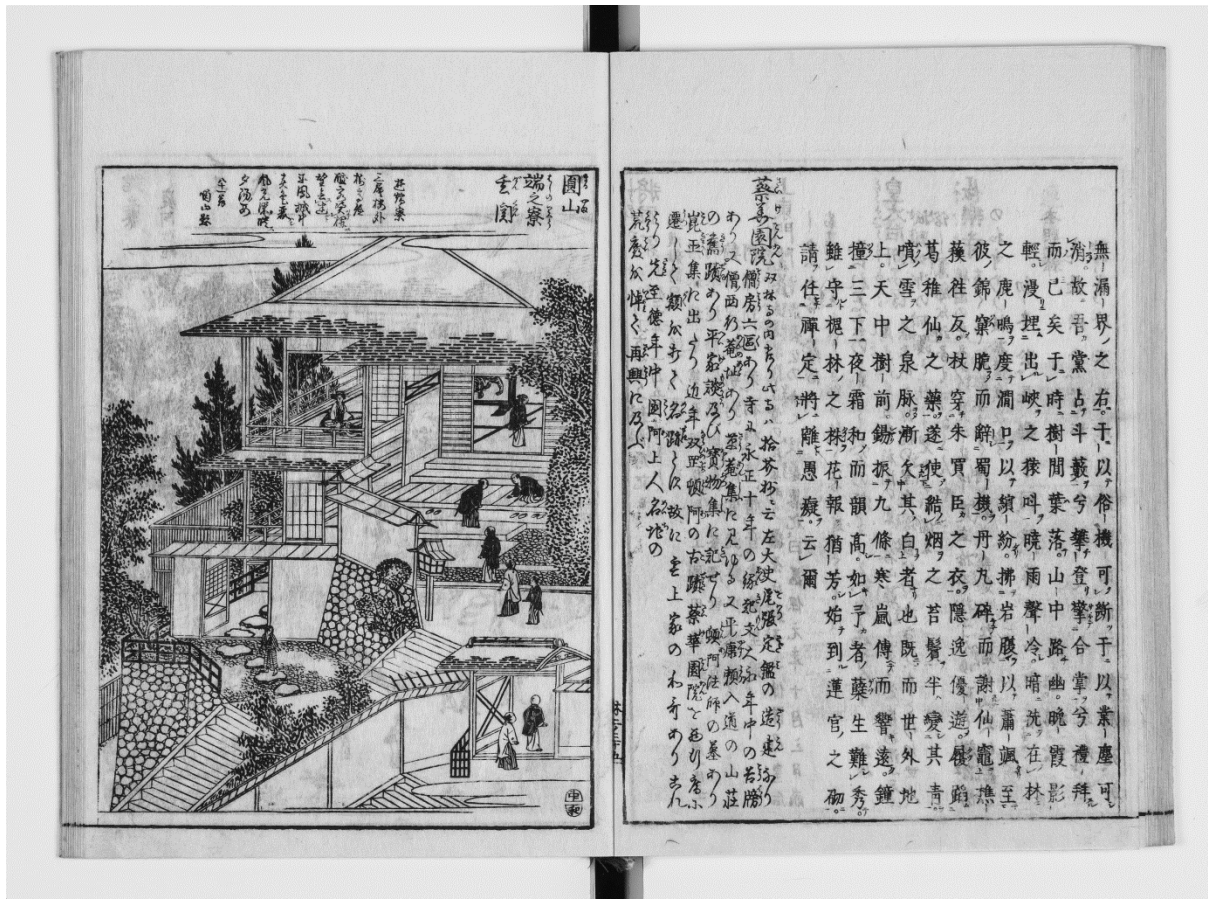
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.40



巻数	二	頁数	林二ノ三十四裏	挿図番号	№68
挿図名	連阿弥　其貳				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	平庭に緩やかな斜面が続く庭園である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	平庭と斜面の境に石組があり、刈込と一体となっている。図の右下から斜面に向かって飛石が打たれ、図の左には弧を描いて飛石が打たれている。
	植栽	刈込が多く、斜面は地被類で覆われている。庭園の奥に多く植栽が見られるが、平庭部分の手水鉢付近にも植栽が見られる。
	構造物	図の右下に手水鉢があり、水を湛えている様子が描かれている。左下にも手水鉢が描かれている。図の右側の飛石の側に垣があり、斜面の飛石脇には四角型石燈籠が据えられている。
	建造物	描写なし。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：11　人
	行動	図の右下の人物らは生垣の側にある大きな景石前で立ち止まり、見物している様子からこの庭園の見どころであると思われる。斜面には人物らが散策している様子が描かれている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.41



巻数	二	頁数	林二ノ三十六表	挿図番号	№.69
挿図名	圓山　端之寮　玄関				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

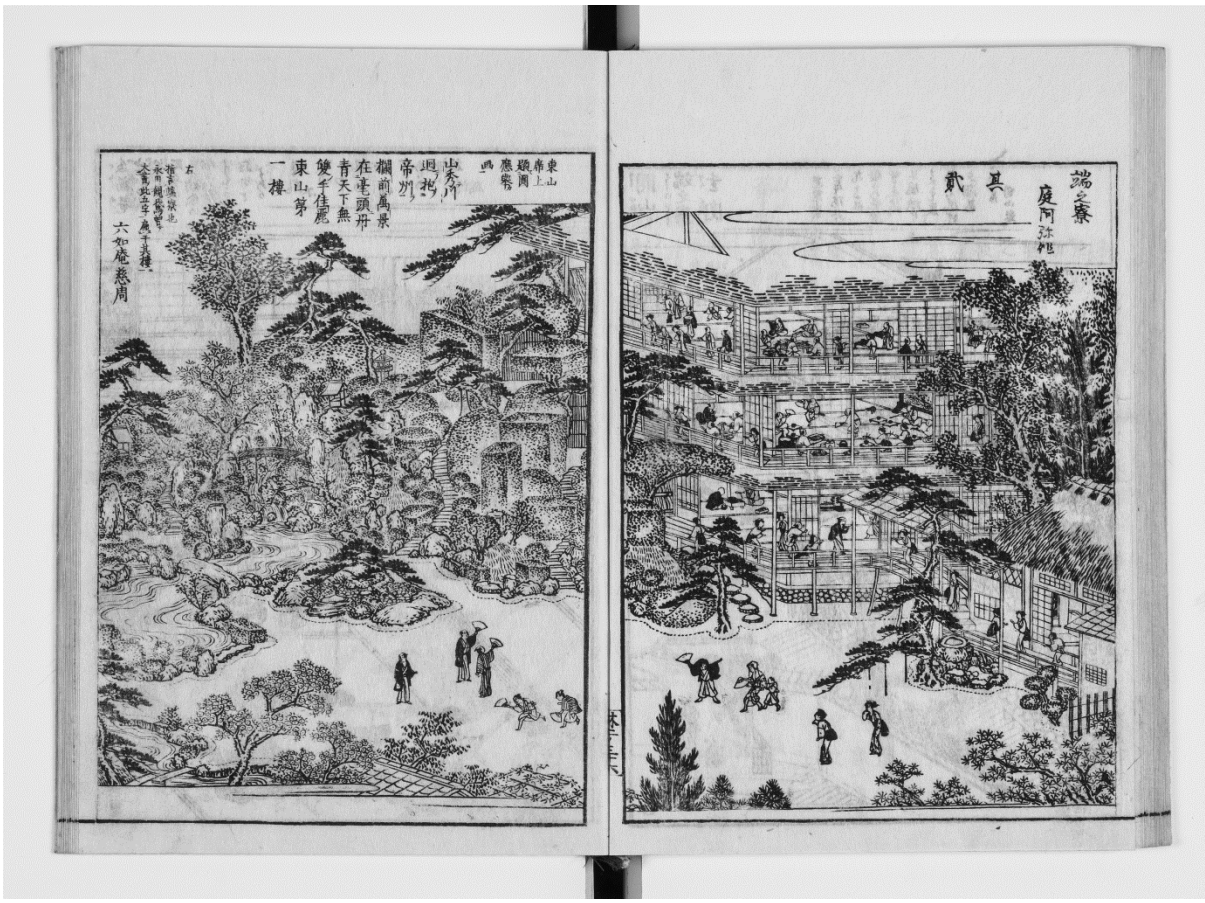
庭園構成要素	地割	高低差を利用した建物の玄関の庭と、階下の入口前の庭園が描かれている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	玄関前と階下の入口の両方に玉石で敷きつめられている。階下の入口は飛石が打たれている。
	植栽	玄関前には大きな刈込と高木があり、階下には刈込まれた植木が見られるが、どちらも植栽は少ない。
	構造物	玄関先に木製の燈籠がある。階下の入口には石垣の上に柵が設けられている。
	建造物	端之寮の玄関が描かれており、塀や門なども描かれている。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	

詩歌	遊端寮 三層棲外樹高低 酔客憑ツテレ欄ニ望無シレ迷フコト 平鳳城中春色麗ワシ 風光深ク映ス夕陽西 八十一翁嘯山題	意味	端之寮を題材とした漢詩であり、眺めがよく春の都の景色が素晴らしいようである。また夕陽がきれいに見えたのだろう。季節感が示している。

季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）
気象	**晴**　・　雨　・　雪

人物	人数	計：　10　人（僧侶：　1　人、武士：　7　人、男性：　1　人、女性：　1　人）
	行動	庭内の人物は端之寮に訪れた様子が描かれている。階下の人物は飛石の上を歩いている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.42



巻数	二	頁数	林二ノ三十六裏、林二ノ三十七表	挿図番号	No.70
挿図名	端之寮　其貳				
画工名	佐久間草偃 ・ **西村中和** ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	庭阿弥作				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	庭阿弥				

庭園構成要素	地割	広い平庭部分があり、庭園の奥には高い築山が築かれている。庭園の左側は池があり、奥には滝が見られる。
	水系	滝は段落ちであるが右、左、右と折れて流れに注いでいる。流れは大きく蛇行しており、一度図からはみ出し、また図の下部で流れが描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組や島をかたどった石組、滝石組などがある。特に滝石組には大きな石が用いられている。築山には石段があり、社まで行けるようになっている。
	植栽	図の手前には楓や桜、藤などがあり季節ごとに楽しめるような植栽がされており、築山は四角や丸、円柱など様々な形をした刈込があり、幾何学的な景色を作っている。
	構造物	建物の近くには自然石を用いた縁先手水鉢が描かれている。築山の頂上部には四角型石燈籠があり、滝には木製の反り橋が架けられている。流れ中ほどには自然石の橋が架かり、下流には木橋がすじかいに架けられている。図の下には藤棚がある。
	建造物	図の右には三階建ての大きな建築があり、反りのある渡廊下で別棟につながっている。図の左下には平瓦葺の建物がある。滝の左右の築山上にそれぞれ社が1社ある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）** ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ 風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ **戸外活動** ・ その他（　　）	
詩歌	東山席上 題スニ円応挙カ画ー 山秀テ川廻テ抱クニ帝 州ヲー 欄前万学在ニ毫頭ニー 丹青天下無双ノ手 佳麗東山第一楼 右 指言端寮也 永日見鶩曽テ 大ニ書シテ此五字 扁スニ千其楼ニー 六如庵慈周	意味：端之寮に関連した詩。
季節	**春** ・ 夏 ・ **秋** ・ 冬 ・ 強調せず	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 62 人（男性： 37 人、女性： 18 人、子供： 7 人）
	行動	庭内の人物らは平庭部分に描かれている。子供が走っている姿が描かれており、それだけ広い庭園であることを示している。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.43

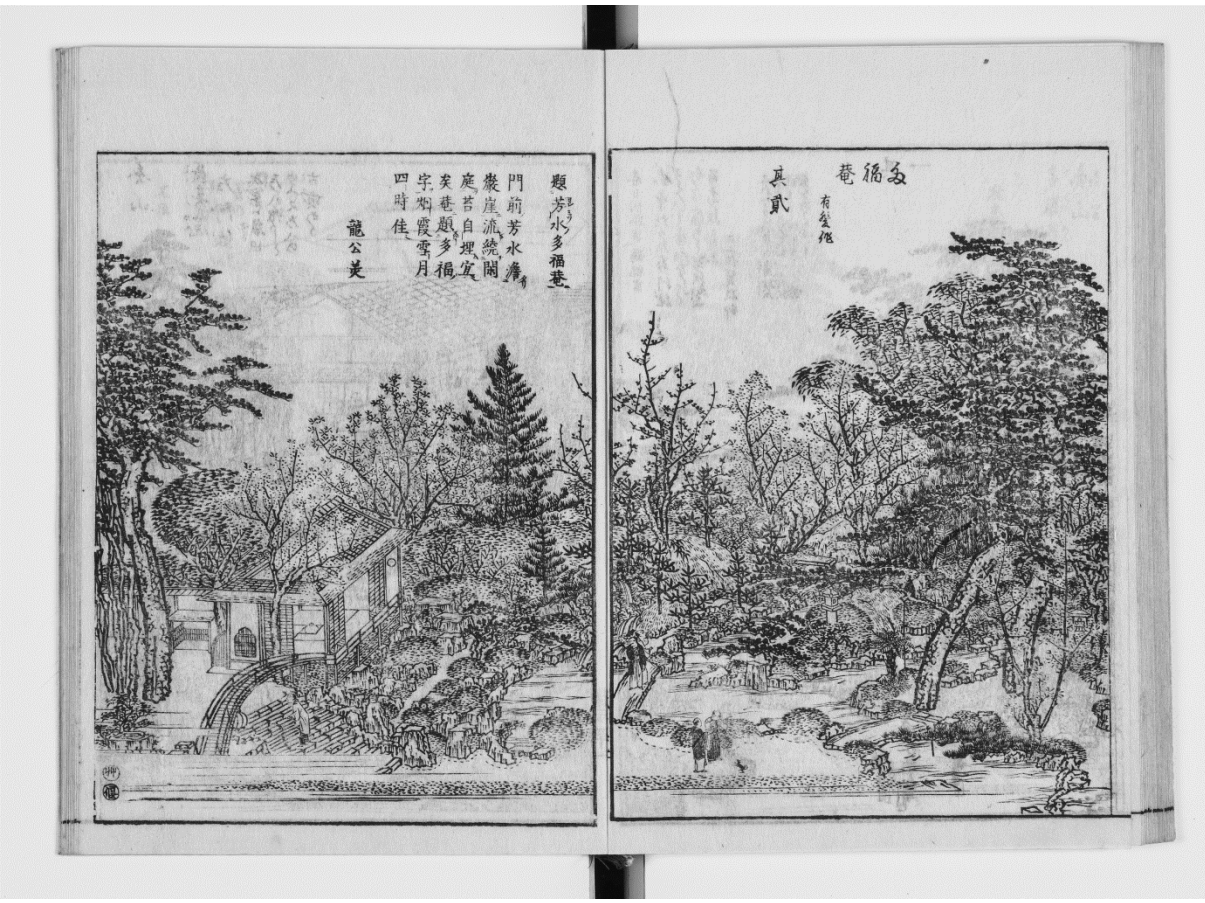
巻数	二	頁数	林二ノ三十八裏、林二ノ三十九表	挿図番号	No.72
挿図名	圓山　多福菴　也阿弥　其一				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	林泉有斐作 此亭より洛中の□□北は愛宕高雄南は八幡山崎で眼下に渡る遠景の妙境なり				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	有斐				

庭園構成要素	地割	平坦な土地に造られており、高台に造られているため都の景色が描かれ、眺望が開けた庭園である。
	水系	図の右下に小さな園池が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の左側に集中して石組がほどこされている。また図の中央下部に枯池があり、玉石が敷き詰められている。
	植栽	松の大木が2本庭園の左右に植えられている。そのほか梅や刈込が見られ、図の右下には藤が描かれている。
	構造物	特に目立つのは図の右にある、鶴のために設けられたであろう背の高い柵である。図の左には景石の上に雪見燈籠が置かれ、池の近くにも雪見燈籠がある。またその前には燈籠がある。柵の左にある社前にも燈籠が1基、更にその左の社前には燈籠が2基と鳥居がある。枯池には切石橋が架かり、その脇には手水鉢が描かれている。
	建造物	図の右下の池の前に建物が描かれ、庭内には社が2基描かれている。
	周辺景観	松の大木の間に町並みが描かれており、図の中央には二条城の塀や門があり、その左のマツ林に囲まれた南北に長い建物は三十三間堂か。さらに南には大きな屋根が間隔をあけて東西に並んでいるのが見え、それぞれ西本願寺と東本願寺だと思われる。さらに南には東寺の塔が描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	

詩歌	春日同詠寄鶴祝言 かけたかきまつのよはいもすみなるる つるのちとせをちきるなるらし 正二位資枝卿 これは多福菴の喬松を営したまひ鶴一番を贈りし時詠せられて懐紙をたまわりし	意味	多福庵に関連する歌であり、庭園にいる鶴とも関連する、名勝を強調する働きがある。

季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（男性：3 人、女性：1 人、子供：1 人）
	行動	庭園の中央に立つ人物は景色を見ているように描かれ、本庭園の見どころであることを示している。左下の男性も景色の方を指している。さらに左にいる人物の見ている方向に見所がないように思うが、次頁にも庭園が続いており、読者の誘導になっている。
動物	図の右下に2羽の鶴が描かれている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.44



巻数	二	頁数	林二ノ三十九裏、林二ノ四十六表	挿図番号	№.73
挿図名	多福菴　其貳				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	有斐作				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	有斐				

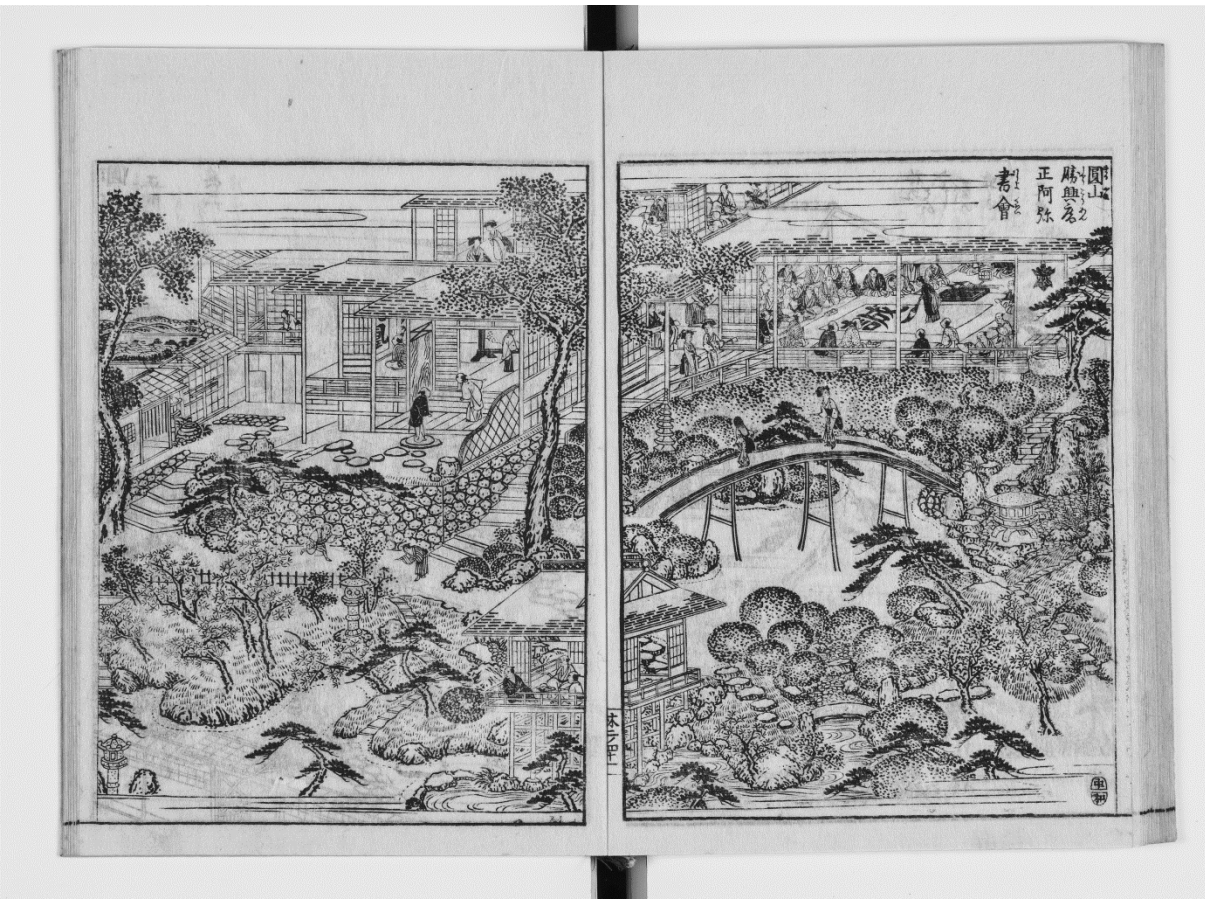
庭園構成要素	地割	挿図№.72に連続する挿図であり、池庭が広がる。池の対岸には築山があり、左側にはやや高い位置に茶室が設けられている。
	水系	図の中央部に三段落ちの滝があり、入り組んだ護岸を持つ園池に注いでいる。池は三方に分かれ、奥に広がる池がどこで伸びているか不明だが橋が架かっていることからかなり奥まで広がっている可能性がある。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組と茶室の下に石組が多くある。
	植栽	茶室前と池の右側に松の大木があり、中央の庭園奥の築山上には梅の木が目立つ。茶室の背後には楓と杉が描かれている。また図の右下には池に張り出す松や、そのやや上にはソテツが見られる。護岸や茶室の下には刈込が多く見られる。
	構造物	園地には橋が3つ架かっており、滝前と右下には自然石の橋、池の奥には切石橋が架けられている。さらに茶室へ直接入ることができる橋が架かっており、もくせいの欄干付き反り橋があり、その下は人が通ることができるようになっている。図の中央右寄りには四角型石燈籠、その右上に石塔、さらにその右下にも構造物が見える。図の左下には手水鉢が描かれている。
	建造物	図の左に茶室があり、茶室には橋を渡って直接入れるようになっていることから、図の手前にも建物があると考えられる。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	題ニ芳水ノ多福菴ニ一 門前ノ芳水澹タリ 巖崖ニ一流レテ繞テニ閑 庭ヲ一苔目埋ム宣シ 矣菴ニ題スルコトニ多福 字ヲ一烟霞雪月 四時佳ナリ 龍公美	意味：多福庵に関する漢詩であり、芳水によって庭に苔が生えていたことが分かる。季節ごとに美しい景色が見られてことが詠まれ、名勝を説明する詩歌であることが分かる。
季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：6 人（男性：6 人）
	行動	池の前では犬と遊ぶ人物が描かれている。橋の上で鑑賞する人物、図の右中央では散策する人物が描かれ、庭園の鑑賞方法を示している。また図の左には階段を上がり茶室に向かう人物も描かれており、茶室も見どころの一つであっただろう。
動物	池中に魚、図の下部に犬が描かれている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.45

巻数	二	頁数	林二ノ四十裏、林二ノ四十一裏	挿図番号	No.74
挿図名	圓山　長寿院　左阿弥				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	林泉は織田道八作りしといふ又道八の古墳あり				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	織田道八				

庭園構成要素	地割	高低差を利用した庭園であり、上部に建築があり中段は築山とし、流れや下段までの園路を設けている。下段には池が広がっている。
	水系	導水部は不明であるが玄関のすぐ横に滝が造られており、斜面を折れ曲がりながら流れが造られている。斜面を下った流れは庭園下段にある園池に注ぐが、霞に隠れているため園池の全容は不明である。
	石組・景石・敷石・敷砂利	瀧石組や橋の下段の池に架かる欄干付きの反り橋に橋挟石などが描かれている。全体的に石組は少なく、平庭部分に石組が見られる。また、斜面を形成する石垣がある。玄関前の平庭は飛石が打たれ、玄関正面は延段のようにも見える。
	植栽	桜と松が多く植えられている。図の右下には藤があり、築山部分は地被類で覆われている。建物付近には刈込があり、特に図の左には建物の基礎部を隠す大きな刈込がある。
	構造物	玄関横には滝に架けられた欄干付きの反り橋が2基あり、下段の池にも欄干付きの反り橋が架かる。その右側には切石橋も架かっている。玄関横には縁先手水鉢があり、図の右側には変形の雪見燈籠がある。園池部分には切石橋の袂にも燈籠が見られる。
	建造物	図の上部に建築が2棟あり、図左側の建物は「春雲樓」の扁額がある。
	周辺景観	田畑や松並木、山並みなどが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	梅の花あたら莟の開きけり　定雅	意味：春の歌であり、庭内の桜と合わせて季節を強調する効果がある。
季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：30 人（男性：17 人、女性：13 人）
	行動	屋内の人物らは遊宴をしており、春雲楼の縁にいる人物らは眺望を楽しむ姿が描かれていることから、眺望がこの名勝の一つの見どころであることが分かる。そして庭内には散策する人物らが描かれ、図の右下にいる人物は桜につるされた短冊を見ており、図内の詩歌がそこに書かれているような錯覚を覚える。
動物	描写なし。	

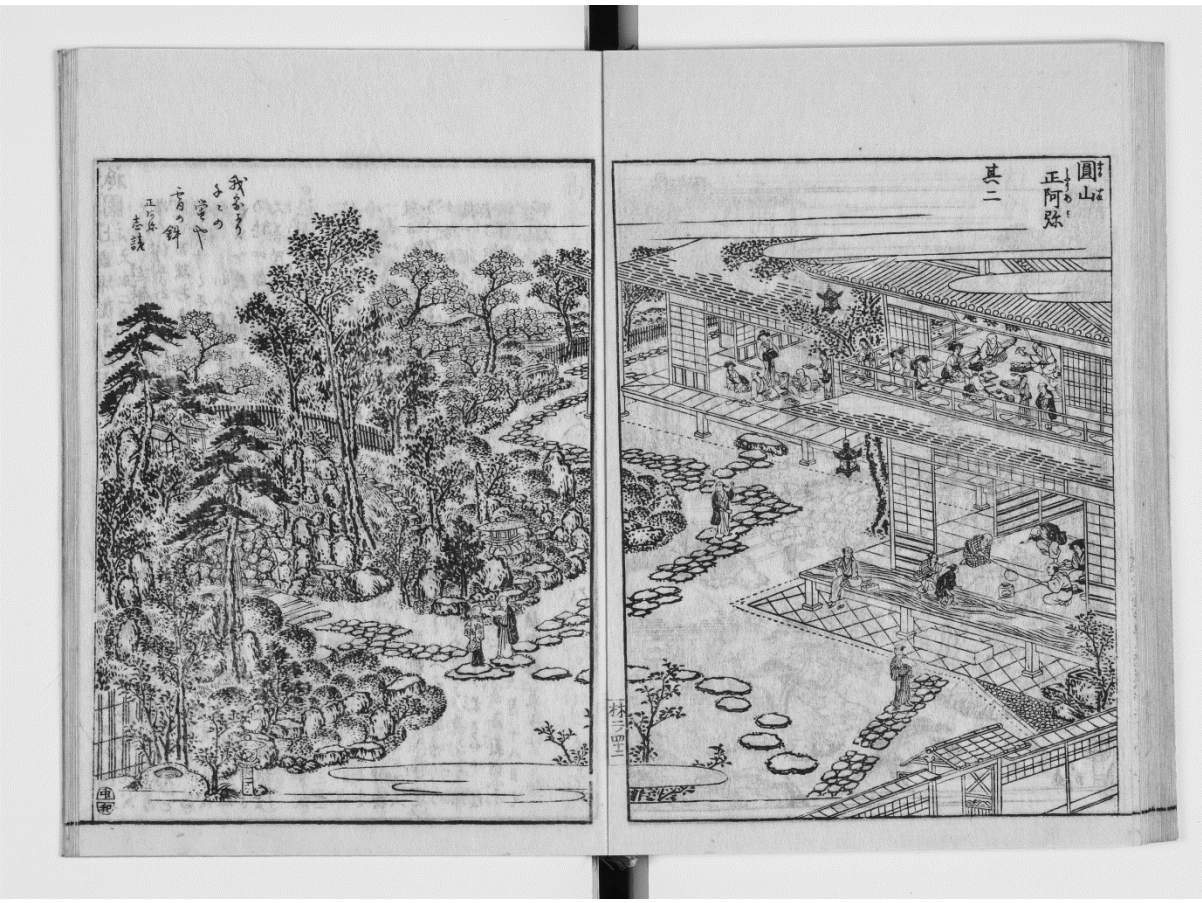
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.46



巻数	二	頁数	林二ノ四十一裏、林二ノ四十二表	挿図番号	No.75
挿図名	圓山　勝興庵　正阿弥　書會				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	高低差のある土地を活かした庭園であり、上段に建築がある。中段には枯山水があり、なだらかな築山の下の庭園には高床の亭があり、池庭が広がっている。
	水系	図の右下に園池が広がっている。園池の一部分しか描かれていないが水流の表現があり、流れがあることが分かる。
	石組・景石・敷石・敷砂利	庭園中段の枯山水部分に石組が多く見られ、白砂が敷かれた枯池には島があり、大ぶりな石を用いた石組が見られる。亭の部分にも石組が見られ、池護岸の石組がそのまま礎石に用いられている。
	植栽	庭園の中央に大木があり、そのほかの松や楓などの植物は背を低くしている。刈込が多く、枯山水部分に特に多くみられる。図の右端には蘇鉄が植えられている。
	構造物	最も目立つのは枯山水部分に書けられた大きな太鼓橋である。池庭部分には洲浜部分に石橋が架かっている。図の右、反り橋の袂には雪見燈籠があり、図の中央、建物前には石塔、図の左中央には火袋が丸い石燈籠、左下には六角型石燈籠が描かれている。図の右上には縁先手水鉢があり、屋根が架けられている。図の左上の門の側にも手水鉢と四角型燈籠が見られる。
	建造物	図の上部には建物が描かれ、一部2階建ての大きな広間を持つ建築である。その左には門が描かれている。園池の側には高床の亭が描かれ、四方が開け放たれている。
	周辺景観	図の左上部に町並みと山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：　52　人（男性：　42　人、女性：　7　人、子供：　3　人）
	行動	室内では書会が催されている。2階には女性2人が眺望を楽しんでいる様子が描かれ、玄関脇の眺望に面した部屋にも風景を見る人物が描かれていることから、この名勝は眺望も見どころの一つであることが分かる。また広間の脇の縁では女性2人が庭園を鑑賞しており、室内からの庭園の眺めも良かったのだろう。庭内では太鼓橋上に散策する人物が描かれ、この庭園の鑑賞位置であるとともに、この庭園の見どころとなっていたことが分かる。亭にも庭園を鑑賞する人物が描かれ、この亭も鑑賞位置の一つであることを示している。
動物	描写なし。	

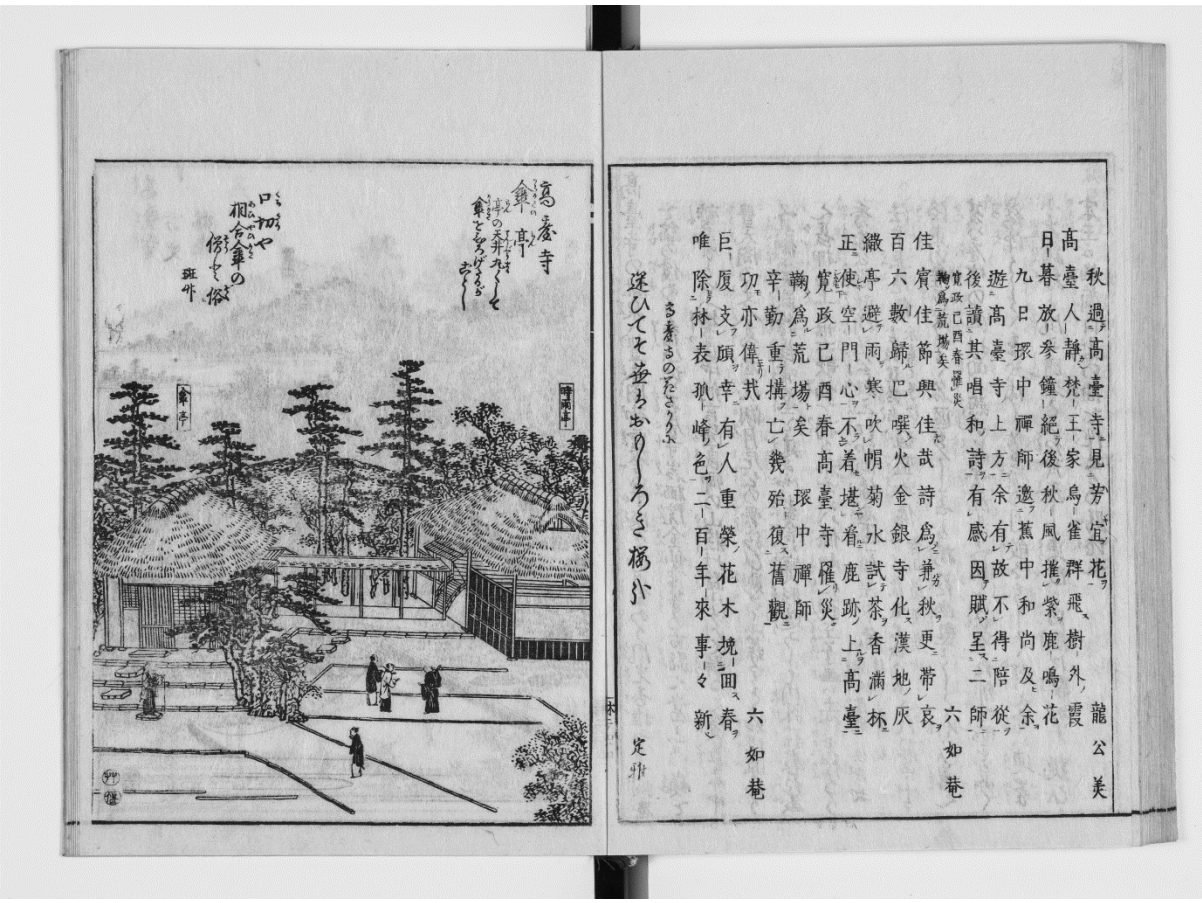
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.47



巻数	二	頁数	林二ノ四十二裏、林二ノ四十三表	挿図番号	No.76
挿図名	圓山　正阿弥　其二				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	広い平庭の奥に大きな築山が弧を描くような形をしており、その間には小さな園池が造られ、奥には滝が見える。図の上部の建物脇の庭は眺望が開けている。
	水系	図の左部の築山に囲まれた位置に小さな園池がある。築山上からは滝が落ちており、池に注いでいる。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組は築山に集中し、裾部分に多く見られる。園池に面する築山の側面は石垣になっており、洞窟状になっているように見える。平庭部分には延段がめぐらされ、途中で飛石に変化しながら園池へ続いている。縁先に点線が架かれていることから白砂時期であることが分かる。図の右下の縁先手水鉢の部分は三角形に区切られて、玉石敷きになっている。
	植栽	築山には松などの高木のほかには刈込が多く植栽されている。庭の奥には桜が3本植えられている。
	構造物	手水鉢が3か所にあり、図右下に縁先手水鉢、図左下、図の中央上部に手水鉢が据えられている。また図の中央部の築山裾部に雪見燈籠があり、図左下には火袋の丸い石燈籠がある。築山の上部には柵が設けられ、社前には鳥居が設置されている。
	建造物	図の右側には一部2階建ての建物が描かれ、右下には門と塀が描かれている。
	周辺景観	図の中央上部に風景が描かれており、町並みと山並みが見える。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	我家より千々の蛍や宵の鉾 正阿弥　志諺	意味：蛍や鉾とあることから夏の情景を読んでいる歌であり、本名勝も夏が見頃であることを示唆しているのか。
季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：26 人（男性：15 人、女性：8 人、子供：3 人）
	行動	建物の奥の1階にいる人物や2階の縁から庭園を鑑賞している人物らが描かれていることから、室内からの鑑賞も示している。庭内の人物らは園路上を歩き、みな築山の方を見ている。位置や目線から鑑賞位置と見どころが分かる。
動物	描写なし。	

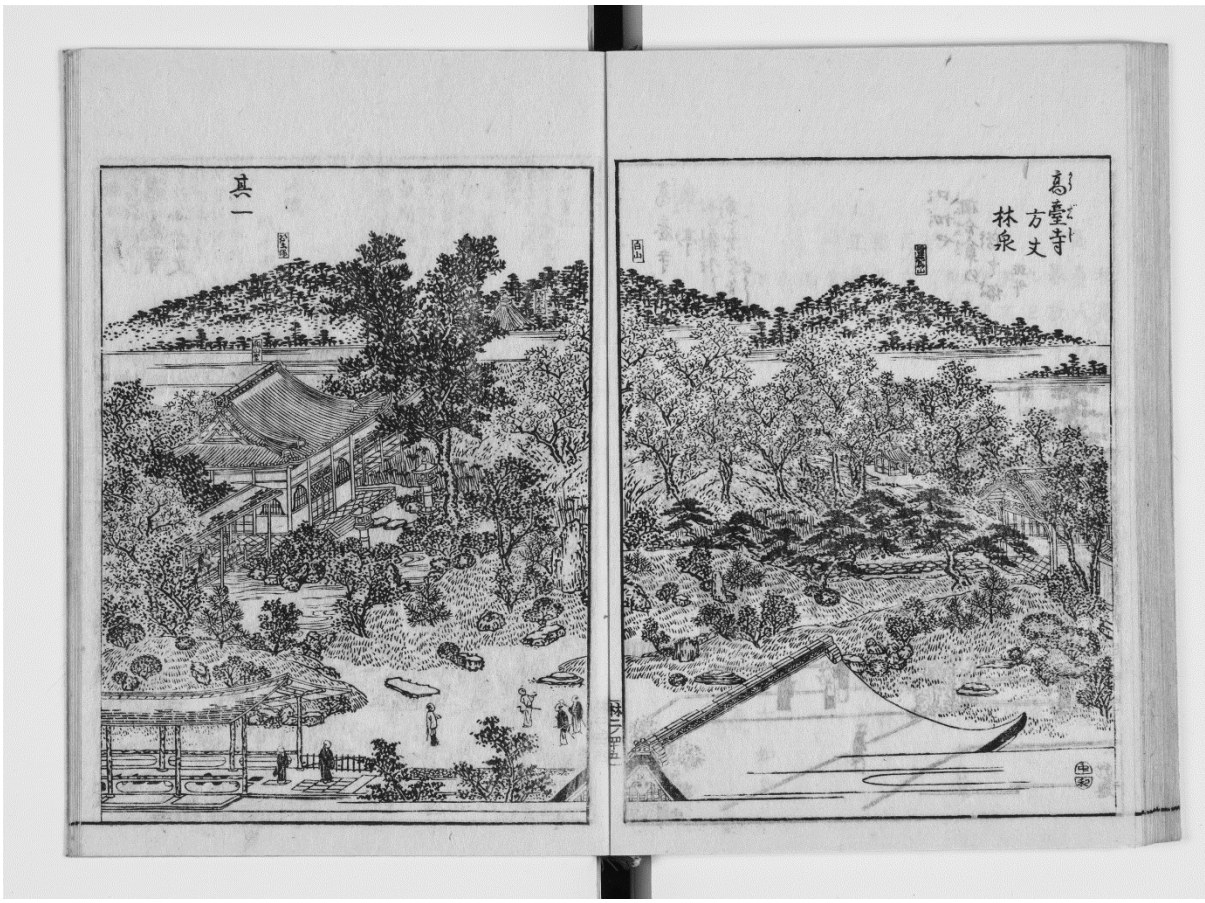
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.48



巻数	二	頁数	林二ノ四十五表	挿図番号	No.77
挿図名	高臺寺　傘亭				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	亭の天井丸くして傘をひろげたるがごとし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　枯山水　・　**露地**　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	茶室前の庭が描かれており、低い壇上の上に茶室が建てられている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	傘亭の前と右横に飛石が打たれている。傘亭の前は縁石で三重に囲まれ、園路も縁石で縁どられている。
	植栽	時雨亭の右前の手水鉢の前に松が植えられ、茶室の背後には背の高い松が描かれている。
	構造物	傘亭の右前に手水鉢が据えられている。自然石に穴を開けた手水鉢の様に見える。
	建造物	右側に「時雨亭」、左側に「傘亭」と書かれた茶室があり、茶室同士をつなぐ道に屋根が架けられている。
	周辺景観	背後に山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	口切や相合傘の僧と俗 斑竹	意味：傘亭をから連想した歌であり、名勝を強調する働きがある。
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（僧侶：1 人、武士：3 人、男性：1 人）
	行動	僧侶が時雨亭を指し、案内している様子が描かれており、見どころを強調する働きがある。
動物	描写なし。	

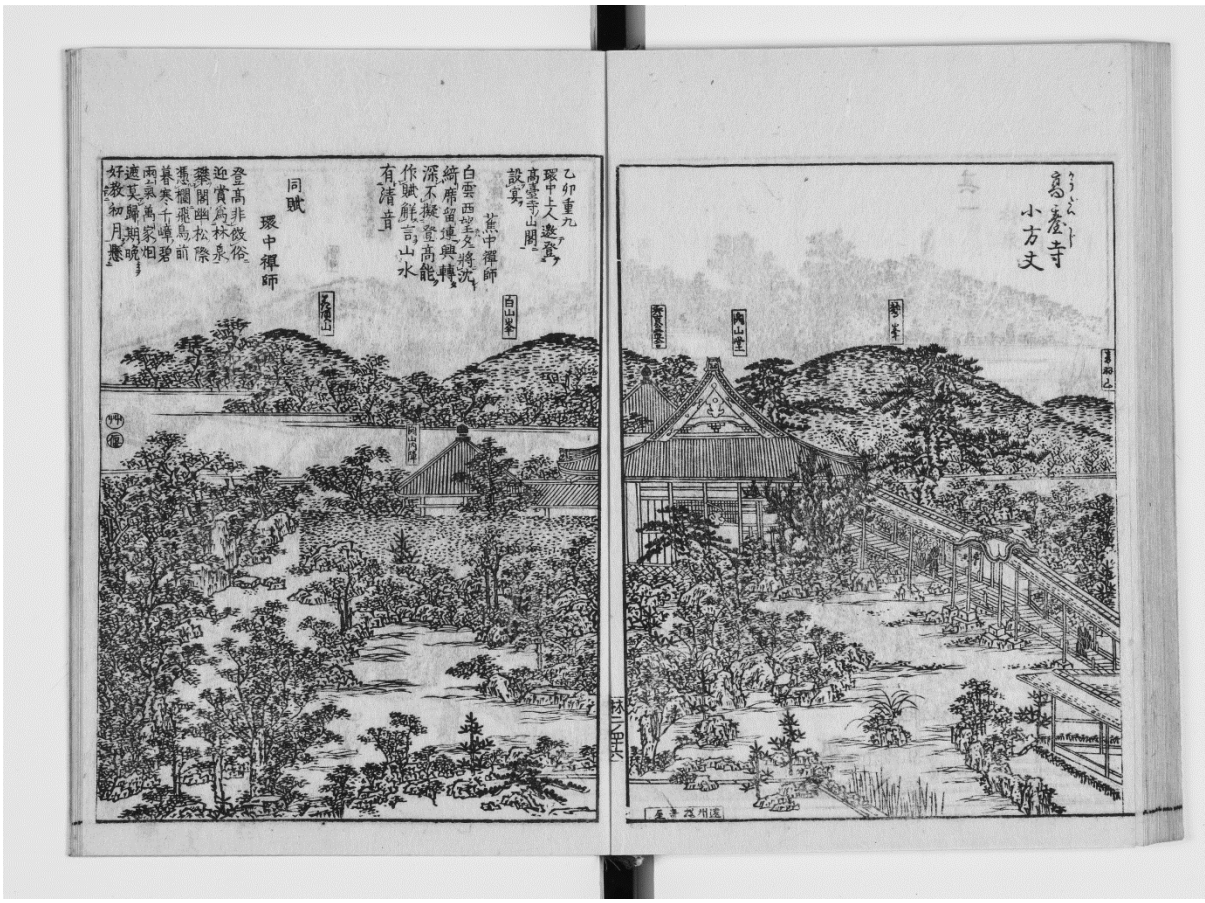
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.49



巻数	二	頁数	林二ノ四十五裏、林二ノ四十六表	挿図番号	No.78
挿図名	高臺寺　方丈林泉　其一				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	高台寺の林泉は豊太閤御霊舎の下段方丈の東にあり、風光奇雅にして洞庭を縮むの悌あり。（中略）されば当山は洛東の佳邑にして名区多し。春は桜花幽艶として匂ひ濃なり。夏は庭中の池の面に燕子花咲乱れ、また秋は萩の花錦を晒すがごとく、露深うして色をまし、鷲峯の月皎々として鮮なり。冬は連峰に雪繽粉繽と風に随ふて花を飛し、東坡が白鳳に騎かと疑ひ、宋玉が幽蘭白雪の曲を作れるの勝地なり				
現在の状況	文化財指定状況	高台寺庭園（国指定史跡・名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	開山堂前の庭園が描かれ、築山を多く配置し、築山の間に開山堂へ至る園路を設けている。図の左側には園池が見られる。
	水系	図の左側に園池があり、次項にある挿図No.79の園池の一部分が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	築山の所々に石組があり、図の中央には大きな立石が見られる。また開山堂前に石組が見られる。唐門から開山堂までは延段が設けられ、開山堂前は飛石になっている。
	植栽	手前の築山は地被類で覆われており、松や刈込が植えられている。開山堂前の延段の向こう側には燕子花が多く植えられ、その奥の築山には楓が植栽されている。
	構造物	図の左には開山堂につながる渡廊が池の上に架けられている。開山堂前に四角型石燈籠が2基見られる。
	建造物	図の右下には方丈、左下には渡廊下、左中央には「開山堂」が描かれ、図の右中央には唐門があり、その左上には社が建てられている。また図の中央上には「御霊舎」の屋根が見える。
	周辺景観	図の上部に山並みが描かれ、図の右から「雲鷲山」「白山」「将軍塚」と書き記されている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　**夏**　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：8 人（僧侶：2 人、武士：4 人、男性：2 人）
	行動	方丈へ至る渡廊下を歩く僧侶や庭内を散策する武士らが描かれている。池に架かる渡廊にも人物が描かれており、橋上からの景色を鑑賞のポイントとしていることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.50



巻数	二	頁数	林二ノ四十六裏、林二ノ四十七表	挿図番号	No.79
挿図名	高臺寺　小方丈				
画工名	**佐久間草偃** ・ 西村中和 ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	高台寺の林泉は豊太閤御霊舎の下段方丈の東にあり、風光奇雅にして洞庭を縮むの悌あり。（中略）されば当山は洛東の佳邑にして名区多し。春は桜花幽艶として匂ひ濃なり。夏は庭中の池の面に燕子花咲乱れ、また秋は萩の花錦を晒すがごとく、露深うして色をまし、鷲峯の月皎々として鮮なり				
現在の状況	文化財指定状況	高台寺庭園（国指定史跡・名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	記述なし				

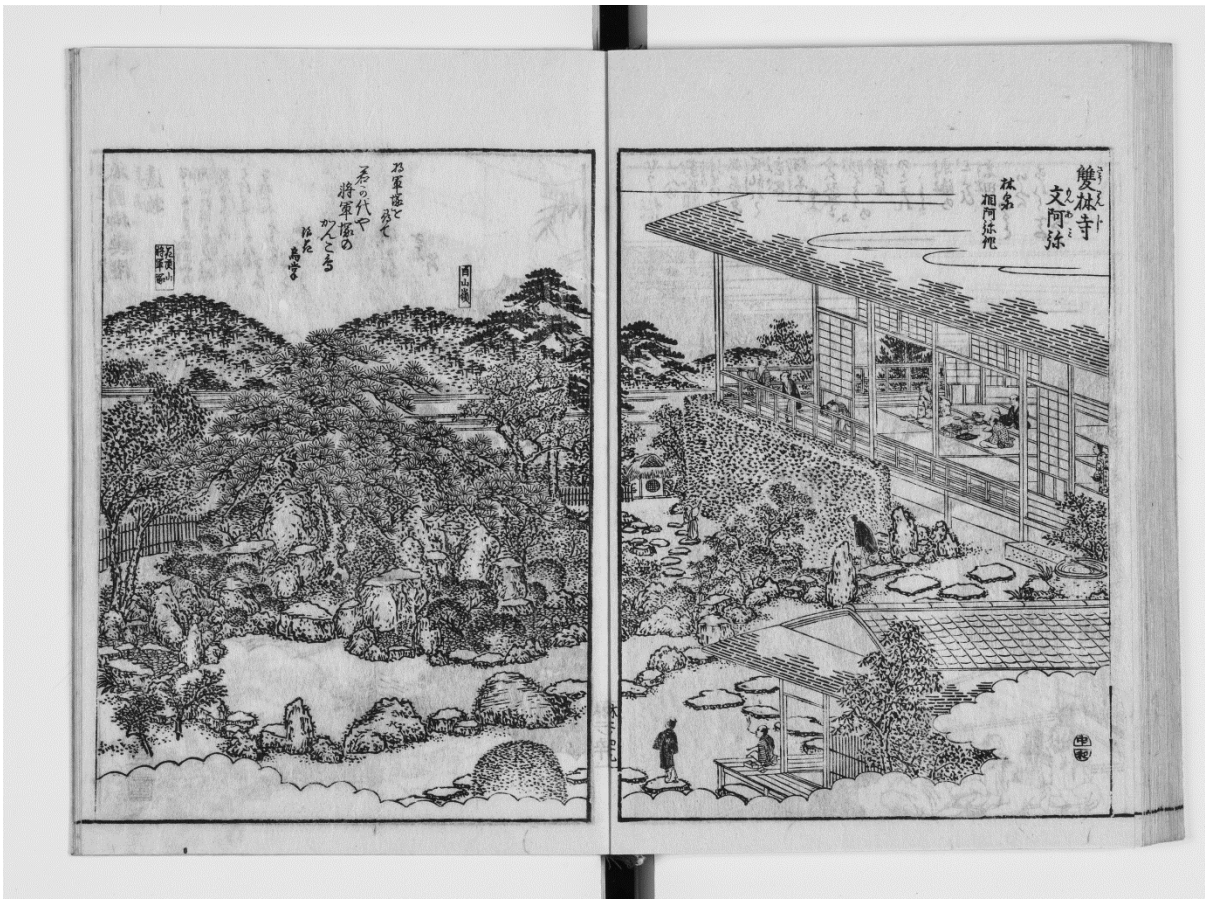
庭園構成要素	地割	挿図No.78の左側に広がる庭園を描いた挿図であるが視点が異なるため、図は連続していない。開山堂前の池を大きく描かれている。
	水系	挿図No.78に描かれた池に連続した、直線的な護岸を持つ園池である。園池の中央には中島がある。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組が多く見られ、園池の左側には大きな景石が見られる。屋形橋の橋脚を支える礎石が池中にある。
	植栽	護岸や中島に多くの植栽がされ、開山内陣前には大きな生垣が描かれている。
	構造物	図の右側には中央に亭を持つ渡廊が池に架かり、開山堂へつながっている。
	建造物	図の右には渡廊下が描かれ、中央には「開山堂」、その左側には「開山陣内」の屋根が描かれている。開山堂の後ろには「秀吉公霊舎」の屋根が描かれている。また、建物はないが、図の中央下部には「遠州数寄屋」と書かれており、縁石に囲まれた絵空間がある。そこに茶室が建っていたと思われる。
	周辺景観	庭園の背後に山並みが描かれ、右から「音羽山」「鷲峯」「白山峯」「花頂山」と示されている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある） ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ **風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞** ・ 回遊 ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	乙卯重九 還中上人邀テ登ニテ 高台寺ノ山閣ーニ 設レク寞ヲ 蕉中禅師 白雲西望スレハタニ將レニ沈ント 綺席留連ノ興転タ深シ 不レ擬ニ登高能ク作ーレ賦 解レス言フヲ山水有トニ清音ー 同賦　還中禅師 登高非レ傲俗ニ 迎賞為ニナリ林泉ーノ 攀レツ閣幽松ノ際 憑レル欄ニ飛鳥ノ前 暮寒千嶂ノ碧 雨気万家ノ烟 遮莫アレ帰期ノ晩キヲ 好教下ニ初月ー懸上	意味：高台寺に関連する詩歌である。
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ **強調せず**	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 2 人（僧侶： 1 人、男性： 1 人）
	行動	屋形橋から庭園を鑑賞している姿が描かれている。庭内には人物が描かれていないことから、散策を楽しむ庭ではなかったことが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.51

巻数	二	頁数	林二ノ四十七裏、林二ノ四十八表	挿図番号	№80
挿図名	雙林寺　長喜菴				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	高低差を利用した庭園であり、高い築山上には社があり、平庭部分は流れと築山がある。
	水系	「菊渓」と記された流れは図の中央から流れ、大きなカーブを描いて右の方へ流れている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組は主に縁先手水鉢付近や流れに架かる橋の部分に組まれている。図の右側には奥に続く庭園があり、飛石が打たれている。流れ下流部分の護岸は石垣になっている。
	植栽	庭内には松と桜が多く植えられており、そのほか楓や庭の奥には竹も見られる。平庭部分には萩が数か所にあり、地面は地被類で園路が作られ、築山や護岸付近は地被類で覆われている。
	構造物	図の中央に流れに橋が架かっている。下流付近には園路の先に橋が架けられているが、流れか築山に架かる橋なのかは不明である。奥の庭園には六角石燈籠が見える。流れの下流部分の石垣の上には柵がある。図の中央やや右には縁先手水鉢があり、自然石を用いた手水鉢である。
	建造物	図の右に建築がある。図の左側の築山上に社が2社ある。
	周辺景観	庭園の背後に山並みが描かれており、右から「鷲峰」「白山嶺」「将軍塚」と書き示されている。白山嶺には建物が描かれており、景の一部になっていたことが分かる。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	宿ニ蔡華院主 月峰之住菴ニ 簷前雨細ニシテ山添シ緑ヲ 簾外花飛テ雪散シ香 況ヤ復主人談論ノ妙 忘レテ帰終日酔ニ金觴ニ 龍公美 むかしみし夜のおもむきや梅の月 定雅 憩ニ長喜庵ニ 秋烟漠々水冷々 物色清奇溪上ノ亭 試ニ見ル天公存レスル画ヲ癖 猫成一幅翠堆屏 三峯荷田信郷	意味：双林寺内にあったという蔡華園院にちなんだ漢詩と定雅の梅の歌、長喜庵をうたった漢詩があり、名勝の紹介や季節を強調するための歌が記載されている。
季節	**春**　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（僧侶：2 人、武士：1 人、男性：2 人）
	行動	庭内の人物は菊渓の方を指し、僧侶と会話している様子が描かれていることから、菊渓が庭園の見どころの一つであることが分かる。眺望の中にある建物の中にも人物が2人描かれている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.52



巻数	二	頁数	林二ノ四十九裏、林二ノ五十表	挿図番号	No.82
挿図名	雙林寺　文阿弥				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	林泉相阿弥作				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

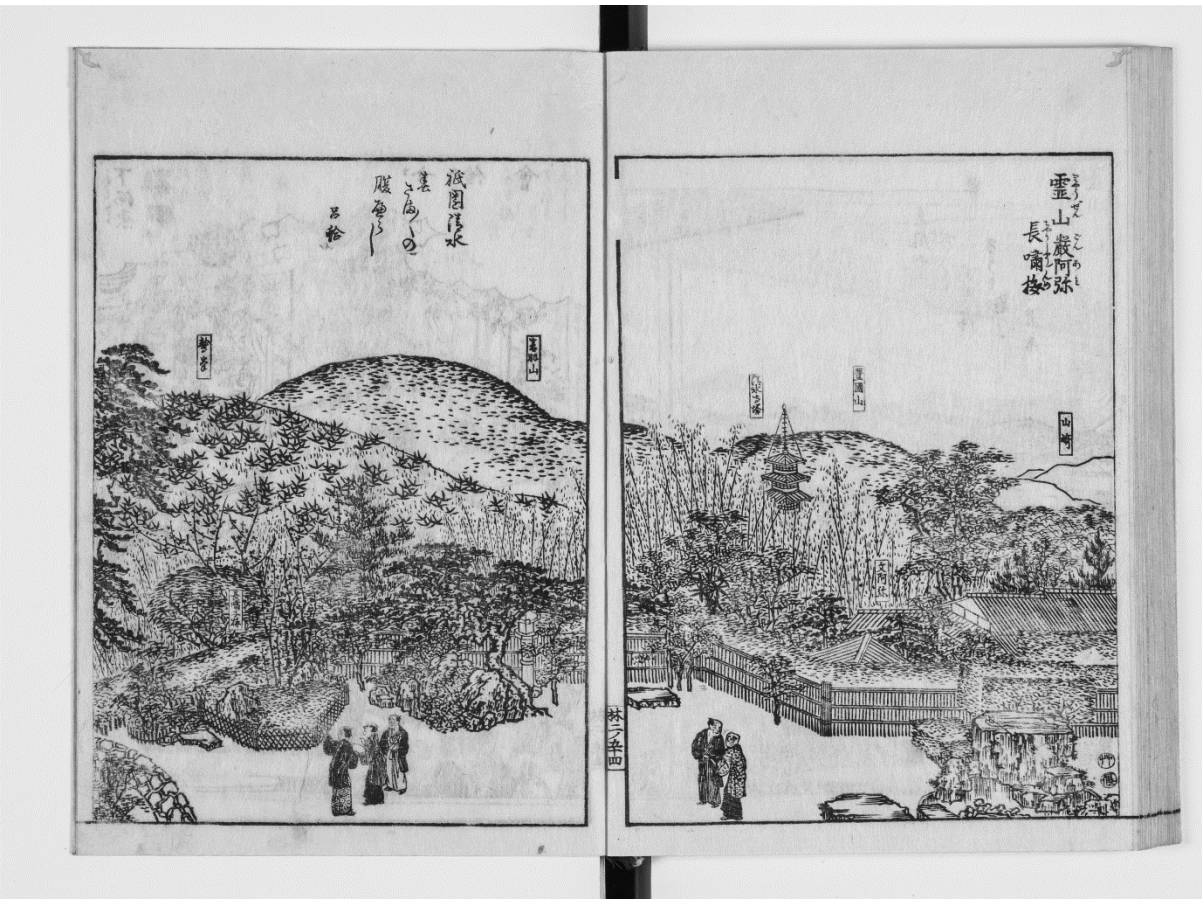
庭園構成要素	地割	高低差を利用した庭園であり、上段には建築と平庭があり、下段には大きな築山が築かれている。築山の裾部には枯池がある。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	庭園の上段には飛石を配置し、建物間を移動できるようになっている。段の部分に石組がほどこされている。下段には築山に巨石を用いた石組があり、築山裾部の枯池には玉石が敷かれている。
	植栽	築山上の大きな形の良い松が植えられている。そのほか刈込や楓が見られる。石組の周辺には苔の様な地被類が描かれている。また、建築の基礎部を隠すように大きな刈込が目立っている。
	構造物	図右上の建物前に切石の沓脱石と手水鉢が描かれている。築山の背後には庭園の敷地を囲む柵がある。
	建造物	図の右側に建築が2棟描かれている。図の中央の庭園の奥には茅葺の建築が見られる。
	周辺景観	庭園の背後に山並みが描かれ、右から「白山嶺」「花頂山将軍塚」と書き記されている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	将軍塚を尋て 君が代や将軍塚のかんこ鳥 浪花　烏掌	意味：将軍塚を題材にした歌であり、この庭園から見える景色を強調する狙いがある。
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：11　人（男性：11　人）
	行動	大きな広間を持つ建物内では遊宴が行われ、縁では庭園を鑑賞する人物らが描かれている。もう一方の建物の縁でも腰かけた人物が庭園を鑑賞していることから、屋内からの鑑賞も楽しめた庭園である。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.53

巻数	二	頁数	林二ノ五十二裏、林二ノ五十三表	挿図番号	№.85
挿図名	霊山　叔阿弥				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	高低差を利用した庭園であり、3段に分かれている。上段は建築と池庭、平庭がある。中段は上段と下段の庭園をつなぐ園路となっており、下段は四季折々の花が植えられた池庭がある。
	水系	上段の庭園にある園池は小さな中島があり、流れが築山を下り、図の右方向へ流れている。流れの護岸は乱杭護岸か。下段の庭園の園池には燕子花が植えられており、土橋や八橋が架けられている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	上段には護岸や中島に、中段の築山部分や園路の脇に石組が見られる。下段の庭園には建築前に石組がある。上段の園池の外周や建物から飛石によって園路が張り巡らされ、それぞれの庭園や建物に向かうことができるようになっている。
	植栽	松や桜、楓などが多く見られ、上段の園池の中島には梅、下段の園池には燕子花や藤、枝垂桜などがあり、四季折々の風景が楽しめる工夫がされている。
	構造物	上段の園池には反り橋が架かり、その奥には石塔が見える。中島と出島に雪見燈籠があり、出島には四角型石燈籠がある。図の右上の建物には屋根がかかった縁先手水鉢がある下段の庭園の入口には門があり、園池には八橋と土橋が架かっている。
	建造物	建物は3棟あり、図の上部、右下、左下にある。上部の建築は図内で最も大きな建築であり、左方の座敷は園池に張り出している。右下の建物は下段の園池を楽しむための建築か。左下の建物は茅葺の亭である。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	花に風かろく来てふけ酒の泡 嵐雪	意味：春の遊宴の場面を詠んだ歌であろうか、挿図に描かれた情景に合った詩歌である。
季節	**春**　・　**夏**　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　日中　・　夕方　・　**夜**　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：26 人（男性：14 人、女性：12 人）
	行動	夜の情景を描いた図であるため、庭内を散策する人物はあまりおらず、図の中央に2人の人物が下段の庭園にある建築に向かう様子が描かれている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.54



巻数	二	頁数	林二ノ五十四裏、林二ノ五十五表	挿図番号	No.87
挿図名	霊山厳阿弥　長嘯梅				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	構成要素を多く配置しない平庭であり、山並みの眺望が目立つ庭園である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の中央に大きな石を用いた石組がある。その右には平らな伏石があり、右下には園路が設けられている。図の右下には鉢前の石組が組まれている。
	植栽	「長嘯子梅」を目立たせためか庭内の植栽は少なく、他に目立つ樹木としては石組部分の松や手水鉢の近くの刈込などがある程度である。
	構造物	図の右下に大きな手水鉢が描かれている。梅は刈込の中にあり、その刈込が柵で囲まれている。庭園の背後も柵で囲まれている。石組の右側と図の左下には四角型石燈籠がある。
	建造物	庭内に建築は描かれいないが、庭外に建築が描かれている。
	周辺景観	図の右側には3棟の建物があり、「文阿弥」であることが示されている。又その奥には「清水寺塔」が描かれている。庭園の背後には竹などの植栽が見えており、その奥には山並みが描かれている。右から「山崎」「豊国山」「音羽山」「鷲峯」と示されており、遠くの山まで見えていたことが分かる。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　**建物・風景（法則麁なる）**　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	

詩歌	意味
祇園清水春さまざまの腹べらし 呂蛤	庭園からの眺望から連想する詩歌として選ばれたものか。

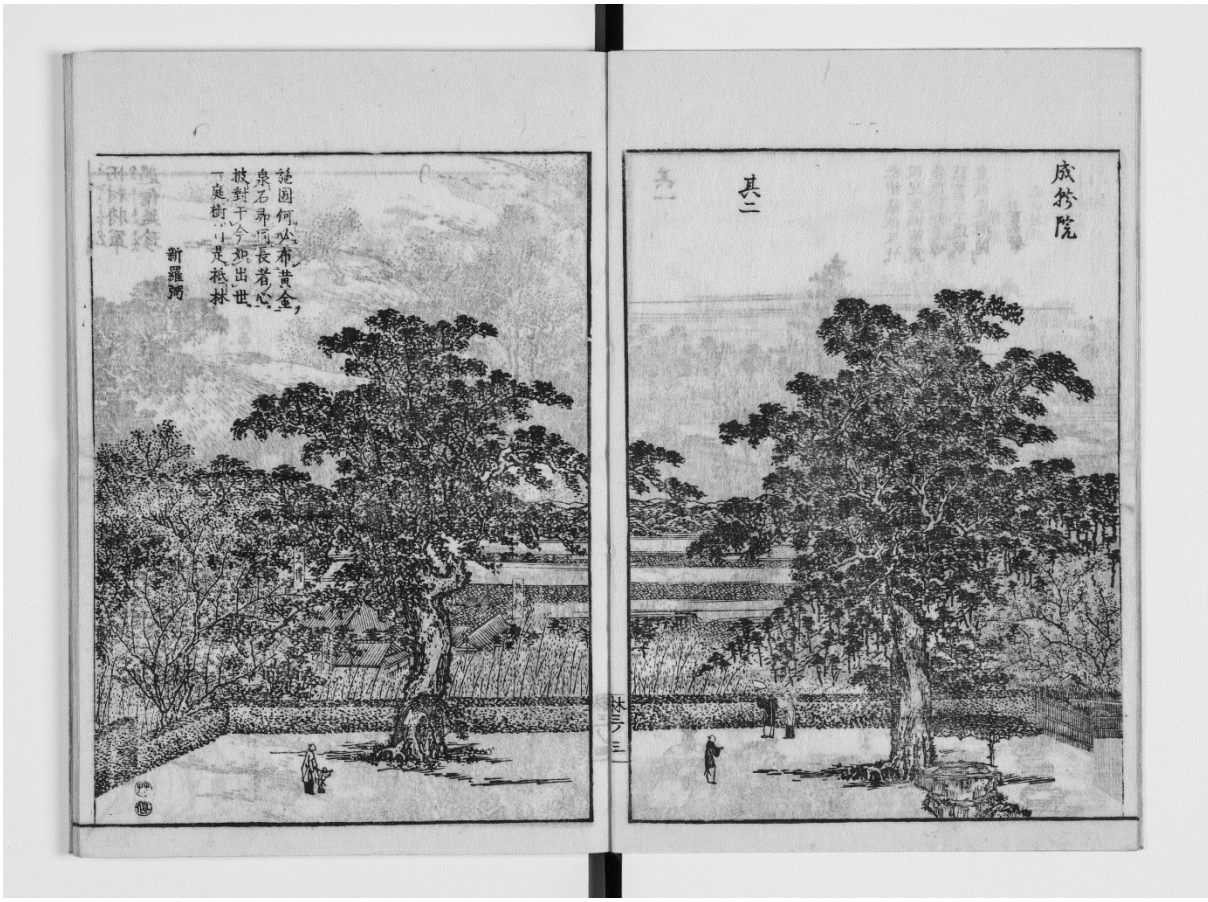
季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（男性：5 人）
	行動	図の左にいる人物らは梅に注目しており、人物の行動からも梅が見どころであることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.55

巻数	三	頁数	林三ノ貳裏、林三ノ三表	挿図番号	No.90
挿図名	清水　成就院　其一				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	相阿弥作 小堀遠州補作				
本文における庭園記述	成就院の林泉は名庭にして、相阿弥の作、後に小堀遠州修補ある所なり。振袖の手水鉢、籬島石、烏帽子石は須磨浦よりこゝに移す、飛石五つの名石は加藤清正朝鮮より取帰りてこゝに寄附す。湯屋渓は秀吉公こゝに遊びたまふ時浴室を建られし跡なり、今に中門の形遺れり。護摩堂は東福門院の御寄附なり。この庭造は洛東の妙境にして遠近に美景				
現在の状況	文化財指定状況	成就院庭園（国指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	相阿弥（小堀遠州補作）				

庭園構成要素	地割	山の斜面を利用した築山が図の右側にあり、中央には園池が広がっている。庭園の奥には山の景が広がっている。
	水系	平庭の部分をほぼ占める園池がある。園池には中島があり、橋が架けられている。図の中央、橋の奥には滝が見えている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	園地の護岸や築山の裾分に多く石組がある。園池部分には巨石があり、中島に「烏帽子岩」、図の左側の護岸に「籬島石」の名が示された名石がある。図の下部には飛石が打たれており、「朝鮮石」と記されている。これは本文中にも記述があり、この飛石のうちの5つが清正が持ち帰った名石であるとしている。
	植栽	平庭部分には刈込が多く、園池には蓮の葉が少々見られる。築山は地被類で覆われており、方形の刈込や松が植えられている。
	構造物	中島に架かる橋は丸太を利用した反り橋か。図の右下には切石橋、左下には自然石の橋が架かっている。中島には四角型石燈籠がある。築山の中腹には石塔2種や鳥居が見られる。図の右下には手水鉢が描かれており、「振袖手水鉢」と示されている。
	建造物	図の右側に瓦葺の建物が描かれている。
	周辺景観	庭園の奥には築山に連続するように山が描かれており、「音羽山」と示されている。中央部には「湯屋谷」とあり、本文中にも示され、この庭園の景となっていることが分かる。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	柢樹籬低界レシテ竹ヲ回ル 院庭幽豁俯ニス溪限ーニ 誰カ知ル雲嶂藤蘿翠ナル 還テ映ス皇城霞綺ノ開クヲ 百々肇	意味：本庭についての漢詩か
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、武士：2 人）
	行動	図の下部に礼拝石上に立つ人物が描かれており、庭園を鑑賞するポイントであることが分かる。また籬島石の近くに描かれている人物はその位置と僧侶が烏帽子石を指し示していることから、2つの名石を見どころとして強調する効果がある。
動物	描写なし。	

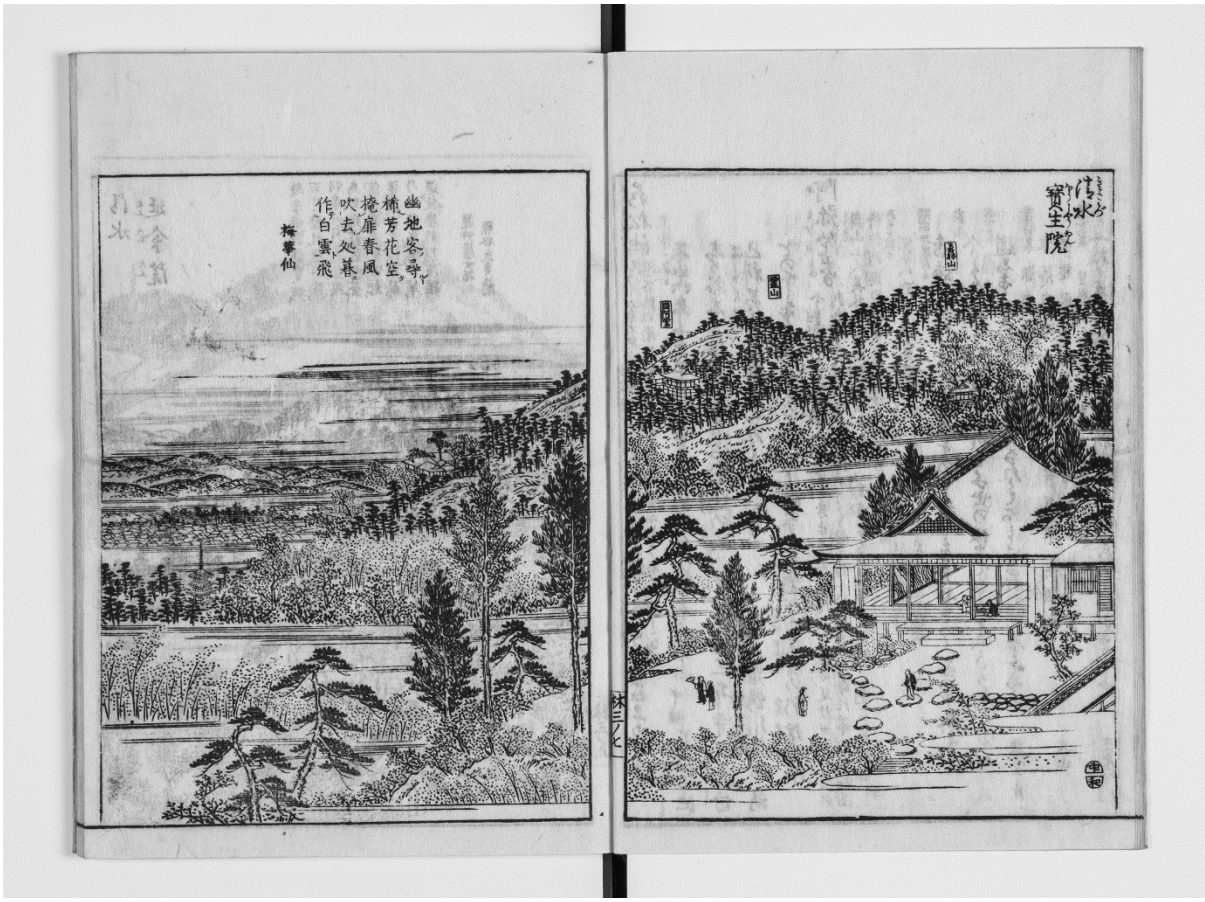
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.56



巻数	三	頁数	林三ノ三裏、林三ノ四表	挿図番号	No.91
挿図名	成就院　其二				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	成就院庭園（国指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	挿図No.90とは別の庭園を描いた挿図であり、長方形の敷地に大きな木を2本植えている簡素な庭園である。が、庭園からは京都の町並みが良く見える。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	描写なし。
	植栽	庭園の左右に巨木が2本植えられている。図右側の木には藤が絡んでいる。敷地は低い生垣で囲まれ、眺望を阻害しないようになっている。
	構造物	図の右下には手水鉢があり、さらに右側には柵が描かれている。
	建造物	描写なし。
	周辺景観	庭園の外には竹や楓などが見られ、図の左には「執行」「大佛」「清水楼門」と示された屋根が描かれており、清水寺の建築や方広寺の大仏殿などが見えたことが分かる。その向こうには町並みや山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	施園何ソ必ス布ニシ黄金ーヲ 泉石即チ同シ長者ノ心ーニ 披対レ今如レシ出レ世ニ 一庭ノ樹竹是レ祇林 新羅弼	意味：本庭についての漢詩か。
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（武士：1 人、男性：3 人、子供：1 人）
	行動	生垣の近くに眺望を楽しむ人物が描かれていることからも、この庭園が眺望を見床としていることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.57



巻数	三	頁数	林三ノ七裏、林三ノ八表	挿図番号	No.93
挿図名	清水　寶生院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

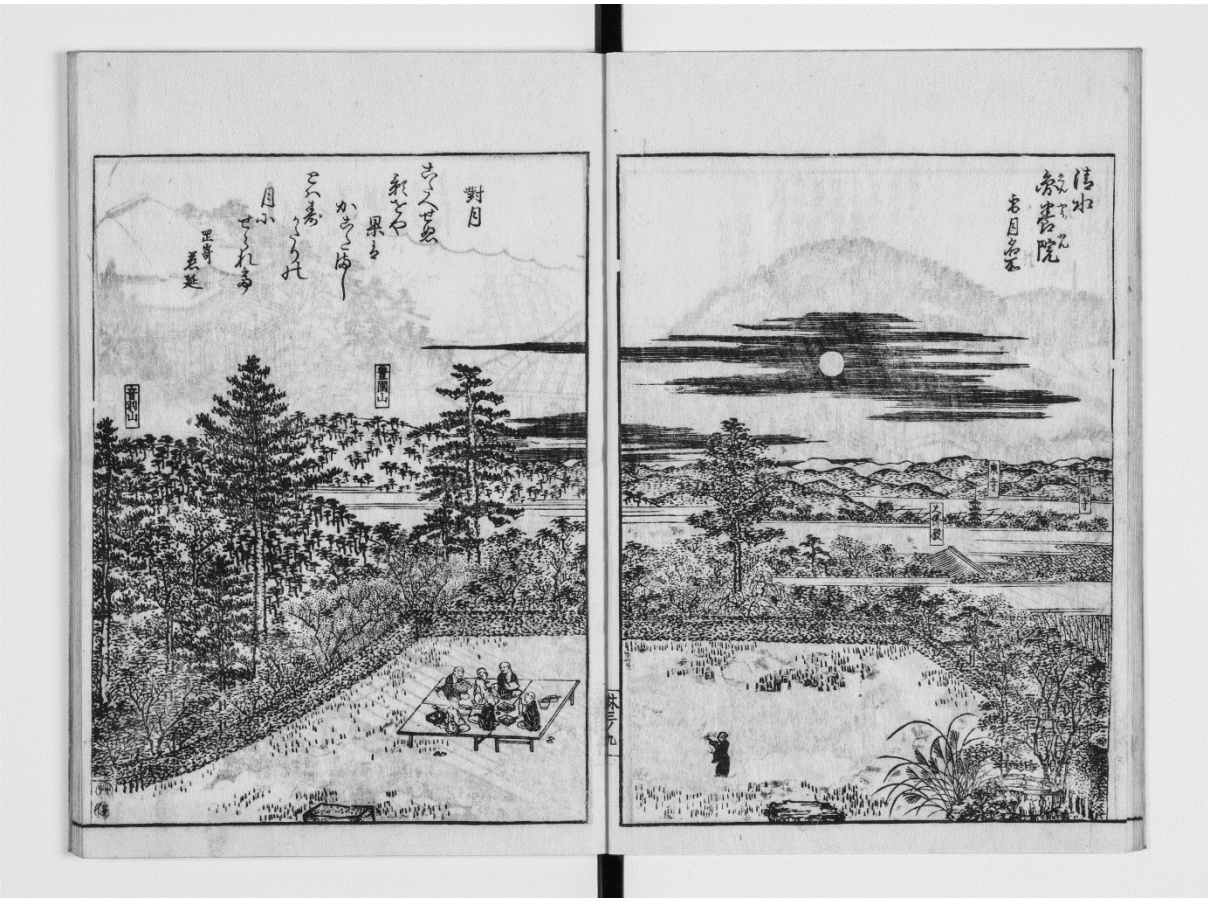
庭園構成要素	地割	高台に造られた平庭である。図の左側には眺望が広がり、庭園には眺望を活かすためか構成要素が少ない簡素な庭園である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	縁先に手水鉢が置かれ、その周りに石組がされている。図の右下には延段があり、庭園の中央付近から飛石に変わり、建築や手水鉢、下方への道の三方へ打たれている。
	植栽	庭内の植栽は少なく、松や桜、杉が描かれている。斜面に多くの竹があり、そのほか松や杉などの植物が見られる。
	構造物	縁先に加工石の縁先手水鉢がある。
	建造物	図の右側に塀と建築が描かれている。
	周辺景観	庭園の左には遠くに見える町並みと山並みが描かれている。近くに塔が見えるが八坂の塔か。庭園の背後にも山並みが描かれ、右から「音羽山」「霊山」と記され、音羽山には「成就院」、霊山には「円阿堂」が描かれ、景の一部となっていたことが分かる。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　**建物・風景（法則麁なる）**　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	幽地客ノ尋ルコト稀ナリ 芳花空ク掩レ扉 春風吹去ル処 暮ニ作ニリテ白雲ニヲ飛 梅華仙	意味：あまり観光客が訪れることのない庭園であるが、春の暮れの景色が素晴らしいことを詠んだ詩である。季節や名勝を強調する働きがある。
季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　日中　・　**夕方**　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：6 人（僧侶：1 人、男性：5 人）
	行動	室内では縁に座って景色を楽しむ人物と庭内で景色を楽しむ人物の両方が描かれていることから、室内、庭園の両方が鑑賞のポイントであったことが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.58

巻数	三	頁数	林三ノ八裏、林三ノ九表	挿図番号	No.94
挿図名	清水　延命院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	坊中延命院は前に豊国山、清閑寺、音羽嶺を庭中の壮観とし（後略）				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	高台に造られた平庭であり、眺望を活かすため開けた空間をもつ。
	水系	縁先手水鉢に水を注ぐ筧が描かれ、手水鉢の下は小さな池になっており、水が溜まっている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組は少なく、縁先手水鉢の鉢前の石組と、図の左側にある松の根本に石組が描かれている。手水鉢の奥には飛石が打たれているが、距離は短い。
	植栽	眺望を活かすため樹木は少なく、庭園が開かれている箇所には背の低い松が植えられ、図の右側には背の高い松が植えられている。庭園の外周を縁取るように地被類が植えられている。
	構造物	縁先手水鉢があり、側面には地被類が生えている様子が描かれている。図の左下には六角型石燈籠が描かれている。建物前には切石の沓脱石がある。
	建造物	図の左に建築が描かれており、斜面側は張り出すように造られている。
	周辺景観	庭園の下には自然が広がり、斜面には道が造られている。松や楓が多くあり、図の中央下部には萩も見られる。図の右下には川が流れている。庭園の背後には山並みが描かれており、本文から豊国山、清閑寺、音羽嶺が見えていたことが分かる。図の右上には清水寺の建築群が見える。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　**建物・風景（法則麁なる）**　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	緩歩哦レテ詩訪ニフ宝坊ーヲ 百花歴乱トシ送ニル斜陽ーヲ 羽峯吐レ月飛泉賤キ 鳥野鑠レシテ霞ヲ遠樹蒼タリ 信ハ求ニテ円通ーヲ感懐起リ 迷窺ニツテ色界ーヲ似ニ相蔵ーニ 乃公ノ能為レメニ憐ニムカ吾輩ーヲ 還テ使ミム塵躬ヲシテ想ニハ浄疆ーヲ 龍艸廬女孫　熊谷氏真蘭	意味：名勝に関連した詩歌であり、「斜陽」とあることから挿図も夕暮れの景を描いている。
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　日中　・　**夕方**　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：4 人（男性：4 人）
	行動	室内と庭内に眺望を楽しむ人物が描かれており、室内と庭内の両方で眺望を楽しむことができたことが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.59



巻数	三	頁数	林三ノ九裏、林三ノ十表	挿図番号	No.95
挿図名	清水　圓養院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	雪月名所				
本文における庭園記述	円養院は林泉より遠望すれば八幡、山崎、淀川の長流鮮にして奇観なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

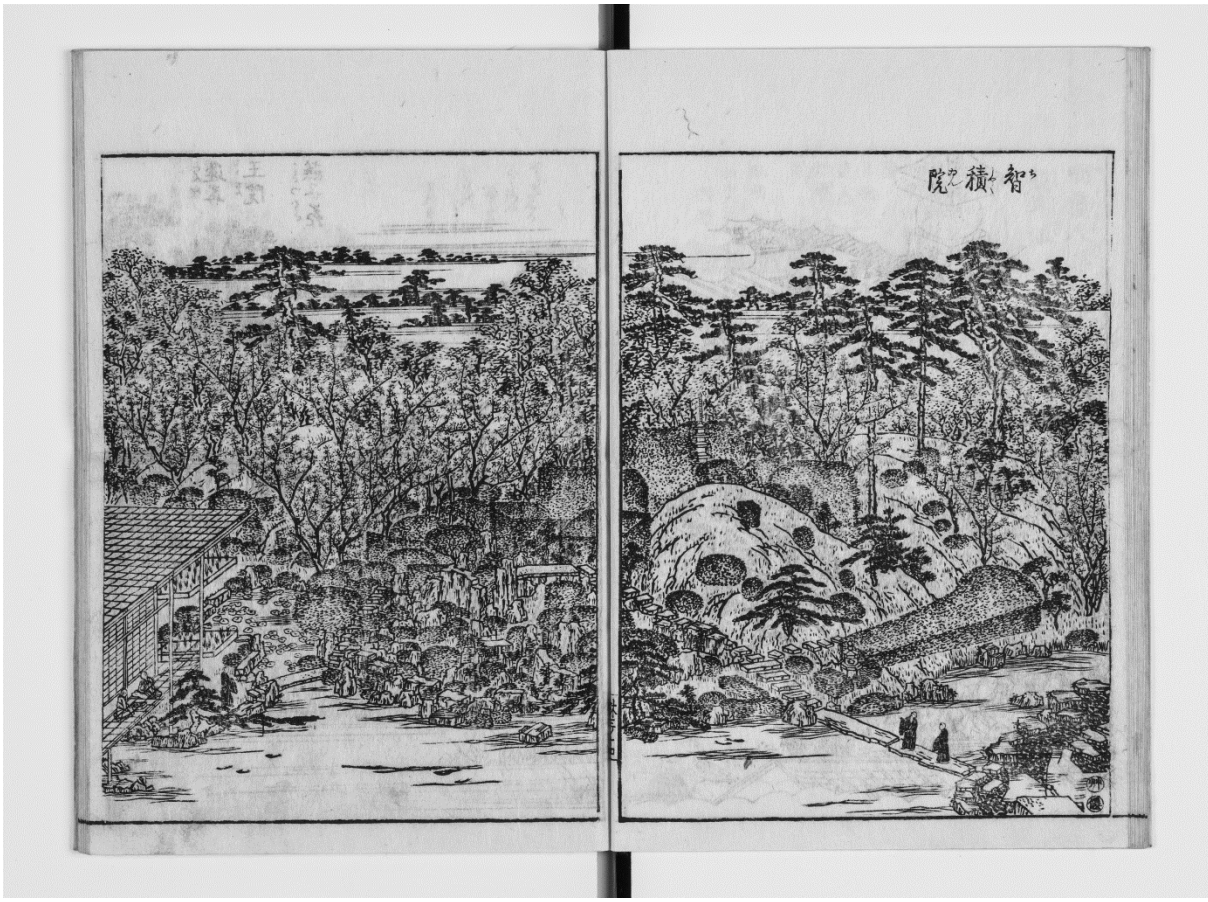
庭園構成要素	地割	眺望を活かした平庭であり、生垣によって敷地を囲んでいる。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	描写なし。
	植栽	庭内の植栽は少なく、手水鉢付近にすすきや樹木が植えられている。敷地は刈込で囲まれ、地面は地被類で覆われている。庭外には杉や松などの樹木が見られる。
	構造物	図の下部に自然石と加工石の沓脱石が見られ、図の右側には手水鉢が描かれている。庭内には床机を3つ並べている。
	建造物	描写なし。
	周辺景観	庭園からは眺望が見え、近くには「大佛殿」が見えている。図の右には町並みや田畑が広がり、その中に「光明寺」「東寺」が書き記されている。図の左には山並みが描かれ「豊国山」「音羽山」が書き記され、図の右側へと山々が連なっている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　**戸外活動**　・　その他（　　）	
詩歌	対月 こたへせぬ影をや果はかこたまし とはすかたりの月にせられて 岡﨑慈延	意味：月の歌であり、夜の風景を描いた挿図の情景に合わせた詩歌となっている。
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　日中　・　夕方　・　**夜**　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：7 人（僧侶：7 人）
	行動	庭園に置いた床机の上で宴会をし、手に持った紙に書き記したり、見せたりしており、歌会か何かをしている様子が見てとれる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.60

巻数	三	頁数	林三ノ十一裏、林三ノ十二表	挿図番号	No.97
挿図名	歌中山　清閑寺				
画工名	**佐久間草偃** ・ 西村中和 ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	歌中山清閑寺の林泉は真妙にして、庭中に要石あり。(或云六条院御陵小堂の趾なりといふ)この地嵯峨渡月橋より見れば獅子口に似たるとてこの名を呼ぶ				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	やや姿を変えているが現存している。			
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他(　　)				
庭園の形態	築山林泉 ・ **枯山水** ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他(　　)				
作庭者	紀伊術なし				

庭園構成要素	地割	高い土地にあり、眺望を活かした平庭であることが分かる。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の中央に「要石」と書かれた名石がある以外、石組はない。
	植栽	楓が多く、要石の側には松などの植栽もある。正面は生垣で区切られ、図の右側には刈込がある。
	構造物	要石が作で囲まで、そばには文字が記された立て札がある。図の右下には沓脱石と思われる石がある。図の左側には庭園の敷地を区切る柵が描かれ、門もあり、外の通路につながっている。地面には地被類が見られ、園路を避けて植えられていたように描かれている。
	建造物	図の右側には庭園を区切る塀が描かれている。
	周辺景観	山並みや町並みが描かれている。図の中央には大仏殿であろうか、大きな建物が見える。
背景の種類	無地(庭造の法則ある) ・ **建物・風景(法則麁なる)** ・ 風景(遠景をとる庭中)	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他(　　)	
詩歌	秋興 とくおきていそく茸狩り紅葉かり あかてそ秋の日影くれゆく 慈延	意味：庭園に楓が多いことから選ばれた詩歌か、紅葉を詠んだ歌が示されている。
季節	春 ・ 夏 ・ **秋** ・ 冬 ・ 強調せず	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他(　　)	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計: 5 人(武士: 2 人、男性: 3 人)
	行動	どの人物も要石に注目しており、この庭園の見どころであることが分かる。
動物	描写なし。	

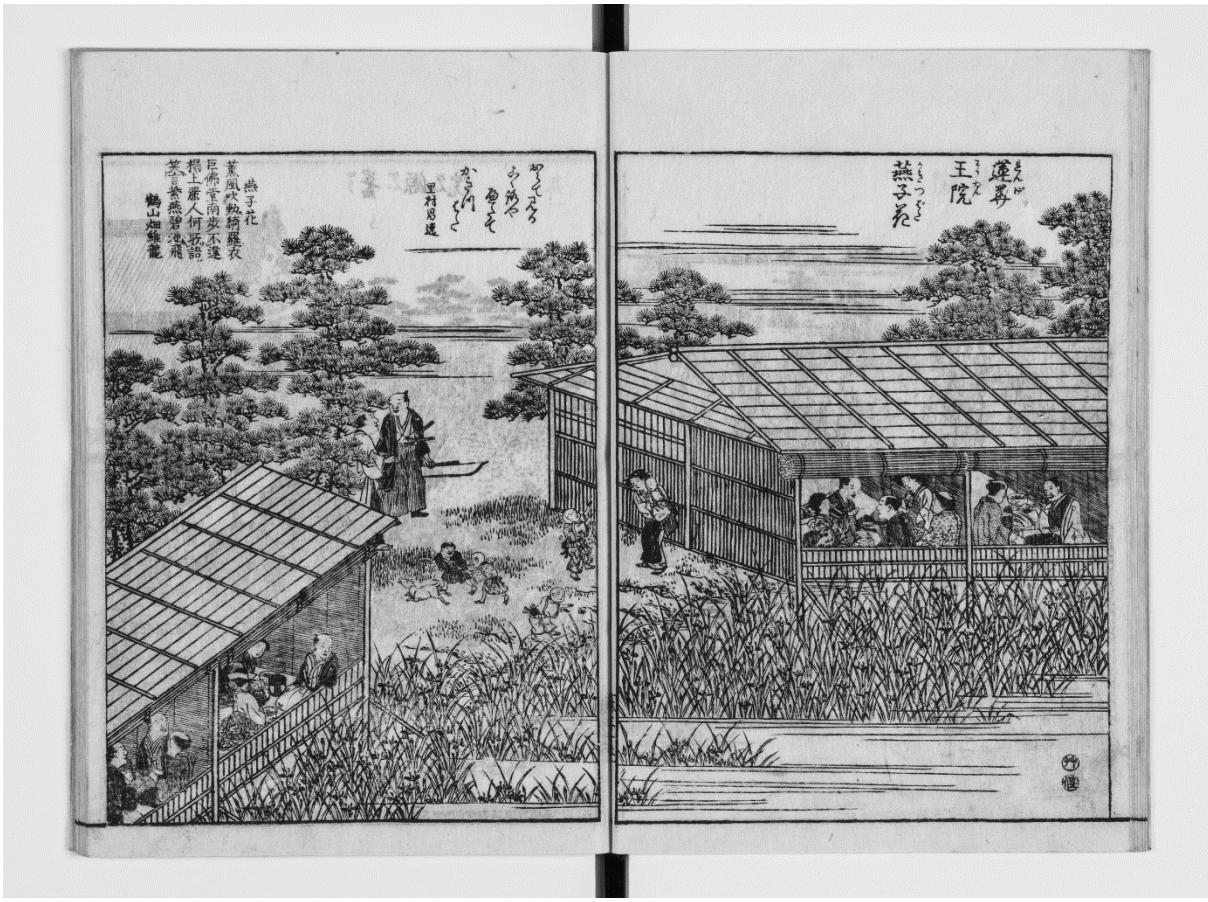
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.61



巻数	三	頁数	林三ノ十四裏、林三ノ十五表	挿図番号	No.99
挿図名	智積院				
画工名	**佐久間草偃** ・ 西村中和 ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	林泉は東に翠巒層々として深林の中に宝閣寂々たり				
現在の状況	文化財指定状況	智積院庭園（国指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	庭園の中央には大きな築山があり、築山の左側は石組と刈込で構成されている。築山の前には池が広がっている。
	水系	左右に広く広がる園池には築山へ渡る橋が2か所に架けられている。左奥へも園池が広がり、蓮の葉が描かれいている。園池の左側は建物が張り出し、建物の下まで園池が広がっている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	主に築山の左側や護岸に石組がされており、図の右側の石橋の先には飛石が打たれており、図の右方遠くに向かって打たれている。
	植栽	築山には刈込が多く、そのほか松と楓が多くみられる。
	構造物	橋が3か所にあり、園池には右側に自然石を2石つなげた石橋と、左方に切石橋が架かっている。もう一つは築山に切石橋が架かっている。自然石の橋の袂には刈込に囲まれて、火袋が丸い燈籠があり、築山の頂上には石塔が据えられている。図の左の建物に隠れた部分には花壇の様に見え、四角形の構造物の中に植物が生えている様子が見える。
	建造物	図の左に池上に張り出した建物がある。
	周辺景観	庭の奥には松林が広がっている。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）** ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ 風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞** ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春 ・ 夏 ・ **秋** ・ 冬 ・ 強調せず	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 4 人（僧侶： 4 人）
	行動	自然石の橋の上に人物が描かれており、築山へ向かっていることから、散策できる庭園であると分かる。また図の左の建物の縁に人物が描かれており、鑑賞ポイントを示している。
動物	池に魚が泳いでいる。	

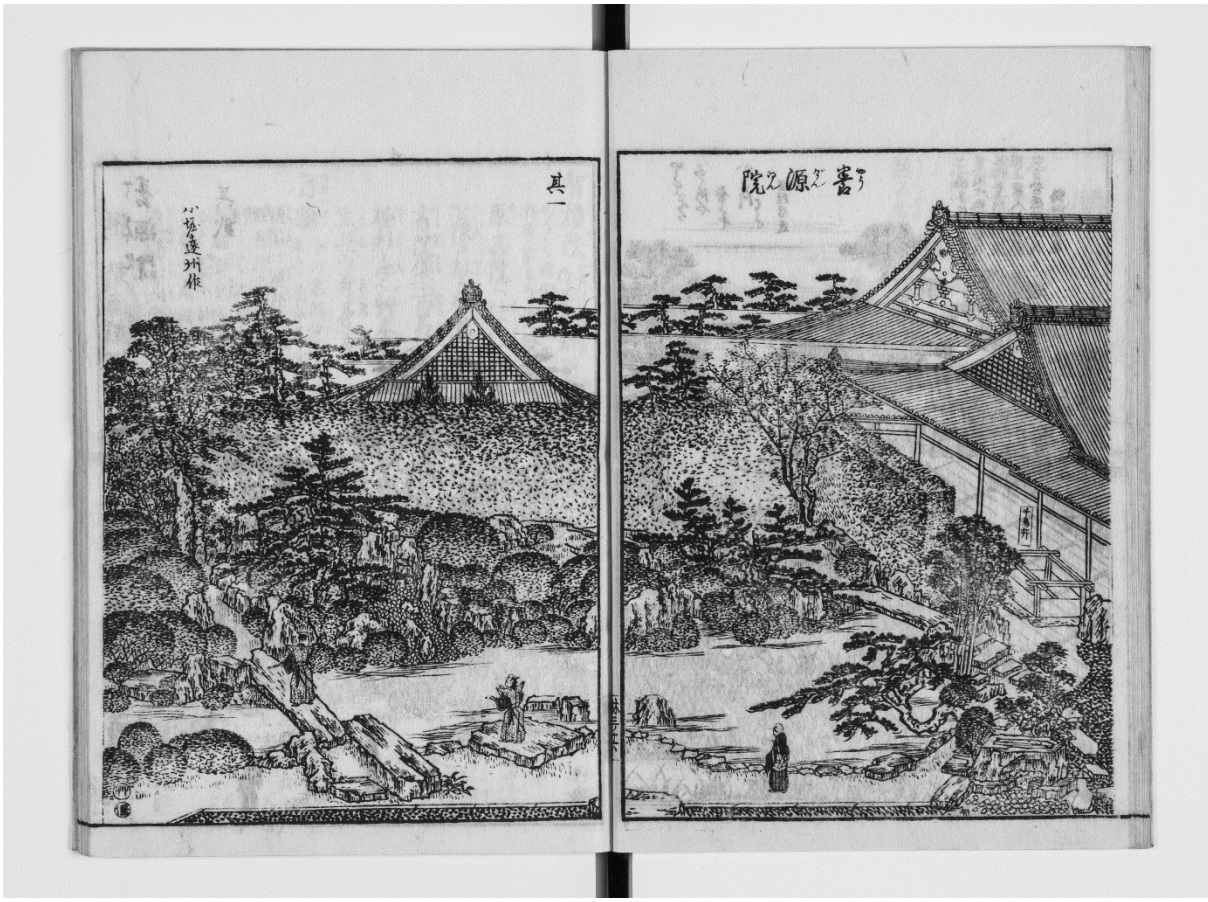
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.62



巻数	三	頁数	林三ノ十五裏、林三ノ十六表	挿図番号	№100
挿図名	蓮華王院　燕子花				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	堂前の林泉は、燕子花咲みだれて初夏の眺幽艶たり。むかしこの堂のほとりに醴泉あるよし、元亨釈書、百練抄にも見えたり。今の夜泣水ならんか				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	庭園の一部分が大きく描かれており全様は不明であるが平庭であり、園池がある。
	水系	燕子花がたくさん植えられた園池が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	描写なし。
	植栽	園池には燕子花が多く植えられ、小屋の背後には松が植えられている。地面には地被類が描かれている。
	構造物	描写なし。
	建造物	板葺の小屋が2棟ある。
	周辺景観	描写なし
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　**戸外活動**　・　その他（　　）	
詩歌	をらて見るこころやへたてかきつはた 里村昌逸 燕子花 薫風吹動ス綺羅ノ衣 巨仏堂南歩不レ違 榻上麗人何所レソ語ル 笑言紫燕池ニ飛 鶴山畑維龍	意味：どちらも燕子花を題材とした詩歌であり、名勝と関連する詩歌である。
季節	春　・　**夏**　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：21 人（男性：11 人、女性：5 人、子供：5 人）
	行動	人物らは小屋で食事をしながら燕子花を楽しんでいる。庭内には子供が遊ぶ様子が描かれ、遊興の場であることが分かる。
動物	犬が描かれている。	

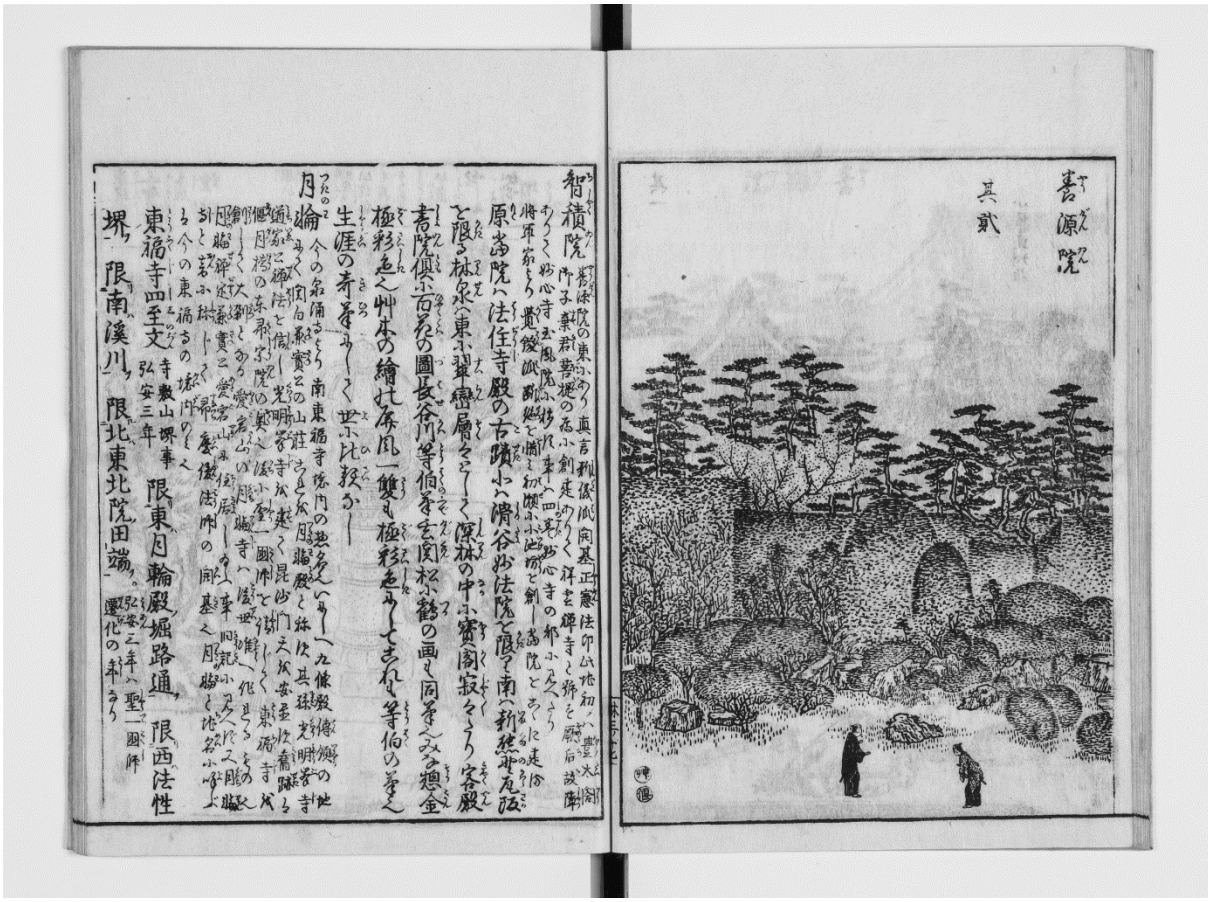
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.63



巻数	三	頁数	林三ノ十六裏、林三ノ四十七表	挿図番号	№.101
挿図名	養源院　其一				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	小堀遠州作				
本文における庭園記述	当院の林泉は風光閑雅にして奇岩多し				
現在の状況	文化財指定状況	養源院庭園（京都市指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	小堀遠州				

庭園構成要素	地割	庭園は挿図№.102とつながっており、本図には園池とその背後の築山が描かれている。
	水系	なだらかな護岸を持つ園池が広がっている。図の右側の建物の側には「千鳥井」と書かれた井戸がある。
	石組・景石・敷石・敷砂利	池の手前側には護岸石組が見られ、橋の右には大きな礼拝石がある。礼拝石の近くの池中には景石が3石ある。築山にも多く石組があり、橋の右側には枯滝があり、玉石で敷きつめられた中には水分石がある。図の右下には鉢前の石組があり、その右側から飛石が橋まで打たれている。
	植栽	松と刈込が多く、護岸の縁や築山の一部には地被類が見られる。築山背後には大きな刈込がある。
	構造物	園池には自然石の橋が2か所に架かり、左側は護岸を形成する細長い石を筋違いで配置することで橋を長くしている。図の右下には手水鉢があり、その上方には井戸がある。図の中央下部には自然石の沓脱石が描かれている。
	建造物	図の右側には建物が2棟、庭園の背後にも屋根が見える。また、図に描かれていないが、下部に軒内が描かれていることからその手前にも建物があることが分かる。
	周辺景観	庭園の背後に建物と松が描かれている。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味：
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、武士：2 人）
	行動	図には礼拝石と橋の上に立つ人物が描かれており、そこが庭園の鑑賞ポイントであることが分かる。また裃を付けていることから、徳川家にゆかりのある寺院であることを示しているのか。
動物	描写なし。	

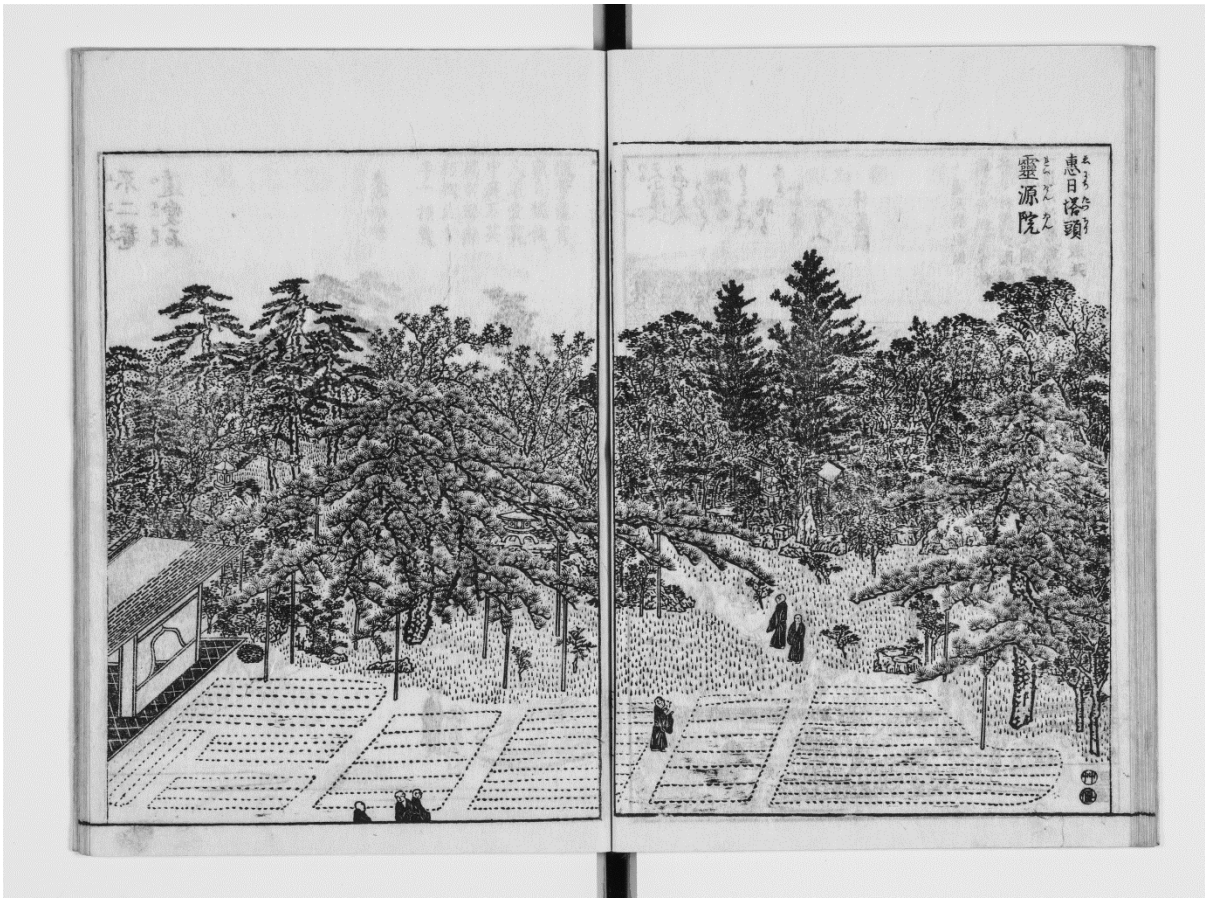
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.64



巻数	三	頁数	林三ノ十七裏	挿図番号	No.102
挿図名	養源院　其貳				
画工名	**佐久間草偃** ・ 西村中和 ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	当院の林泉は風光閑雅にして奇岩多し				
現在の状況	文化財指定状況	養源院庭園（京都市指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	小堀遠州				

庭園構成要素	地割	挿図No.101と連続する挿図であり、園池の左部の平庭を描いている。
	水系	園池の端が図の右下に描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	景石があるが、刈込の方が目立っている。
	植栽	刈込が多く、石組や刈込付近の地面には地被類も見られる。
	構造物	描写なし。
	建造物	描写なし。
	周辺景観	刈込の後ろには松が描かれている。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）** ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ 風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ **強調せず**	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 2 人（武士： 2 人）
	行動	2人の人物は景石を見ているようであり、見どころの一つであることが分かる。
動物	描写なし	

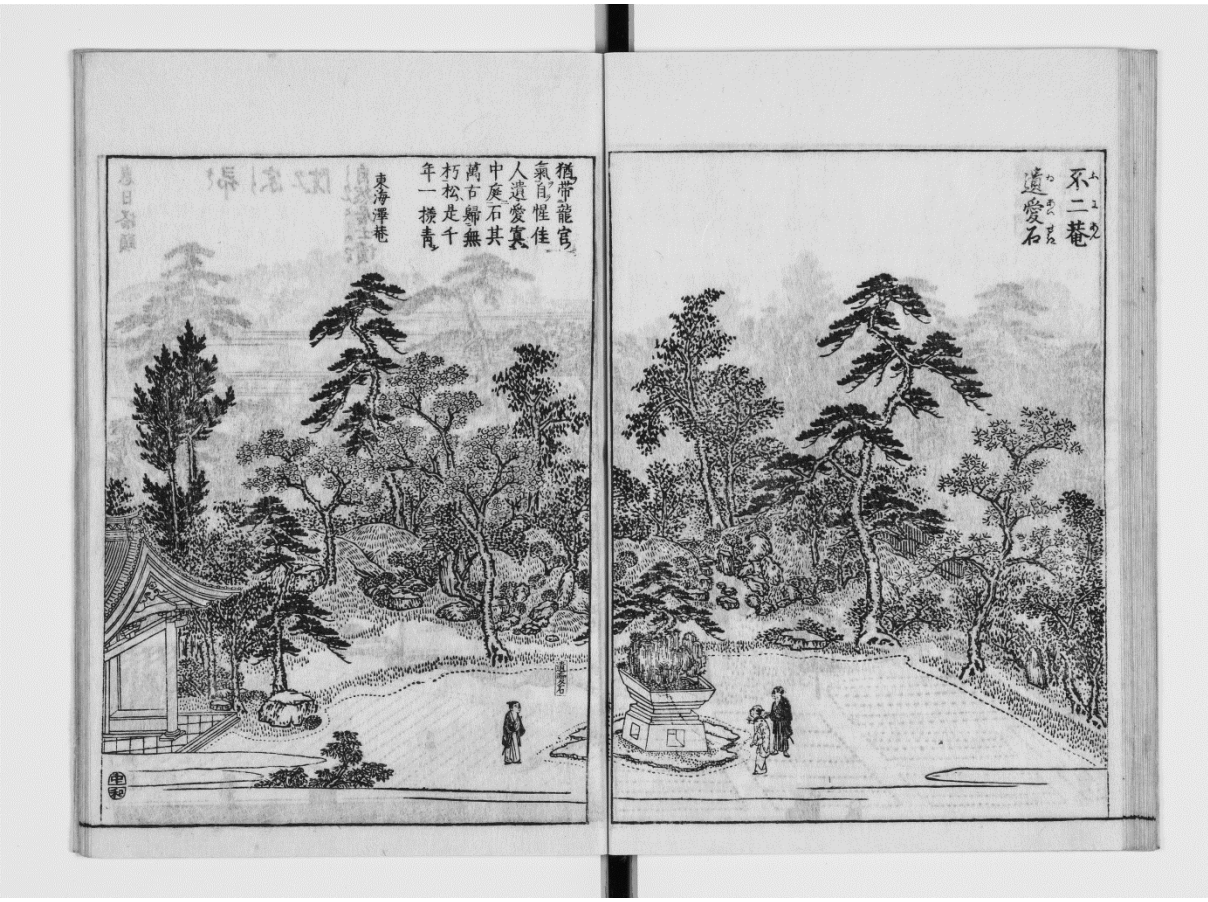
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.65



巻数	三	頁数	林三ノ二十二裏、林三ノ二十三表	挿図番号	No.105
挿図名	恵日塔頭　霊源院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	白砂敷の平庭の奥に植栽された庭が続いている。奥には社がある。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	手前には景石も植栽もない白砂敷の平庭であり、砂紋が描かれている。その奥の社の前に石組があり、そのほかは小さな景石が数か所に見られるのみである。
	植栽	白砂敷の平庭の奥に植栽があり、大きな松が手前の左右に植えられている。その背後に松や楓などの樹木が植えられている。地面には園路を除いて、地被類で覆われている。
	構造物	図の中央、松の後ろに雪見燈籠があり、さらに左には四角型石燈籠がある。社の前には鳥居と四角型石燈籠がある。左右手前にある大きな松には支柱で支えられている。
	建造物	図の左側に建物が描かれている。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：6 人（僧侶：6 人）
	行動	それぞれ園路部分を通って散策している様子が描かれている。
動物	描写なし。	

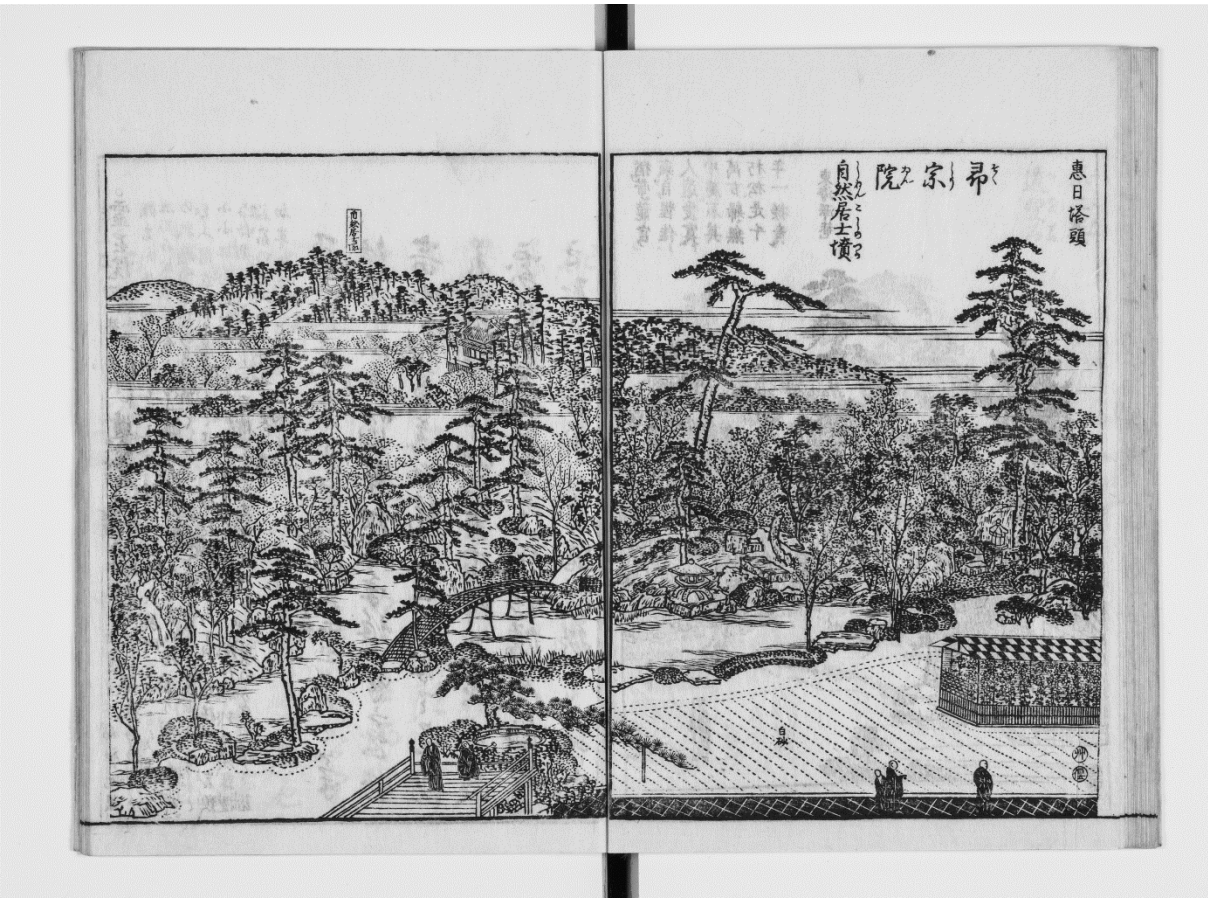
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.66



巻数	三	頁数	林三ノ二十三裏、林三ノ二十四表	挿図番号	№106
挿図名	不二菴　遺愛石				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	遺愛石（当院庭中にあり。相伝ふ、この名石初は肥後大守細川光尚侯の持物なり。かつて湘雪和尚細川家にちなみて後こゝに住す。その時大守より寺産五百石を与んと命じたまふ。湘雪拝謝して云、出家の後禄の責は参禅の邪鬼なり、願くばこれに換て庭上の奇石を賜らば寺宝とすべしと乞ふ。因レ茲銘を遺愛石と号し、こゝに贈りたまふ。高さ三尺横四尺、岩頭に小松巻柏を樹る。石肌細やかにして色青し。台に石刻の須弥壇なる物あつて、その上に石槽をすへ、その中にあり。無双の名石なり。諸名家の記文あり。軸物両巻に満る。初巻の二三をここに挙る）				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	重森三玲が昭和45年（1970年）に復元した			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	白砂敷の平庭の中央に遺愛石があり、平庭の周りは築山があり、植栽や石組がされている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	庭園の中央には「遺愛石」と書き記された名石が台座の上に置かれている。築山には石組が見られる。
	植栽	平庭部分には植栽がなく、築山の部分に松や桜、杉、楓、刈込などがある。築山は地被類で覆われ、平庭の白砂との境にも地被類が描かれている。
	構造物	築山の左部分に石塔が据えられている。図の右側には柵があり、庭園の敷地が区切られている。
	建造物	図の左側に門が描かれている。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	猶ヲ帯ニ竜宮ノ気ニヲ自ラ惺 佳人遺愛寘ニム中庭ニニ 石其万古帰ニ無朽ニ 松ハ是千年一様青シ 東海澤菴	意味：本庭の遺愛石について詠んだ詩歌であり、名勝を強調する働きがある。
季節	**春**　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（武士：2 人、男性：1 人）
	行動	人物らは遺愛石の周りに描かれ、遺愛石がこの庭園の見どころであることを示している。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.67



巻数	三	頁数	林三ノ二十四裏、林三ノ二十五表	挿図番号	No.107
挿図名	恵日塔頭　即宗院　自然居士墳				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	即宗院庭園（京都市指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

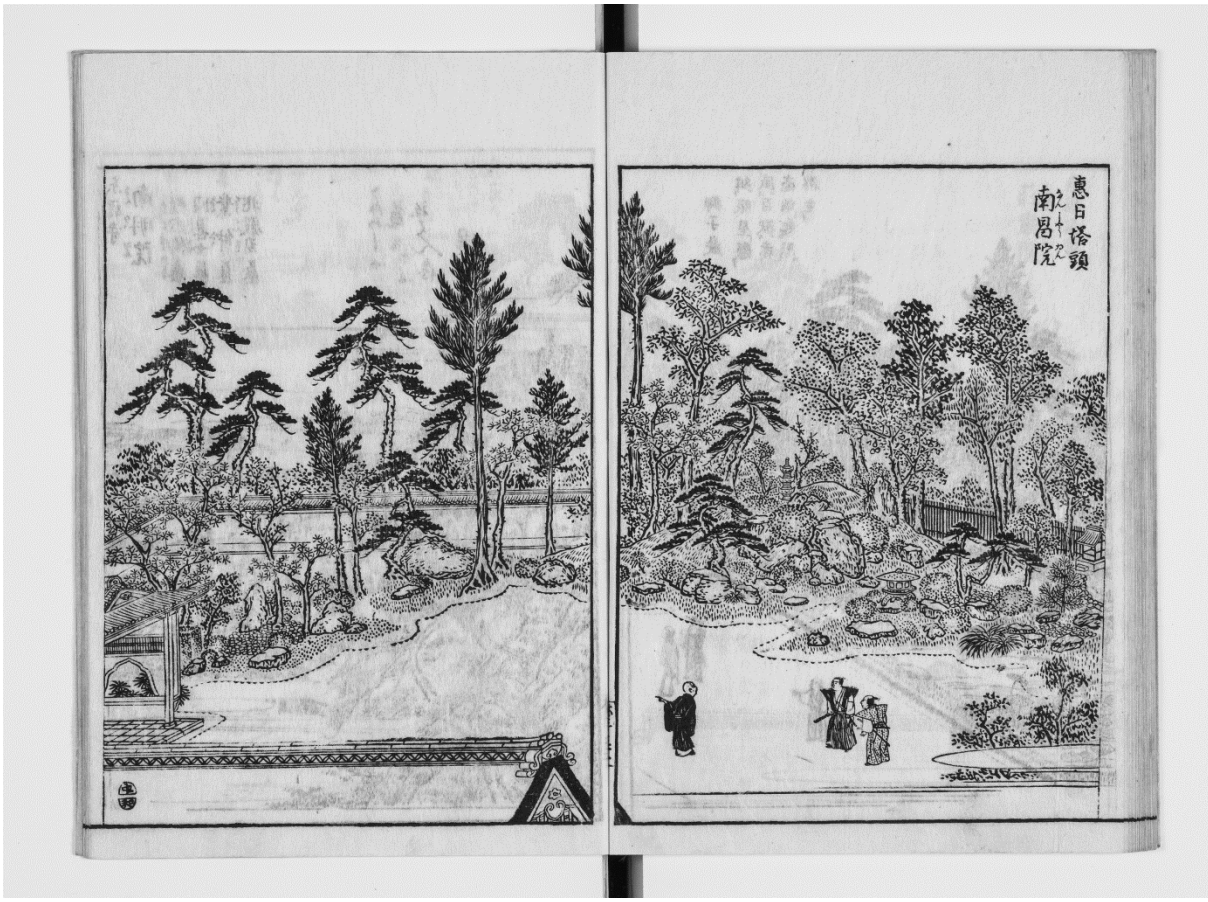
庭園構成要素	地割	園地の前には白砂敷の平庭があり、対岸は築山が築かれている。図の下部には縁が描かれており、建物があることが分かる。
	水系	園地の池幅は狭いが左右に広く、一部は庭園の奥へ広がっている。中央部には橋が架かっている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸の石組や築山上に景石が見られる。全体的に伏石が多い。平庭部分の点線は「白砂」と書き示されており、白砂で砂紋が描かれていることが分かる。
	植栽	松が多く、楓や刈込、その他の植物が描かれている。縁先手水鉢の側には地面近くまで枝を伸ばした松がある。
	構造物	園池に架かる橋は木製の反り橋であり、橋脚が3つある。その右側の池護岸に雪見燈籠がある。図の右端には六角型石燈籠が描かれている。図の下部には大きな縁先手水鉢ある。
	建造物	平庭の白砂の中に小屋が建てられており、中にはたくさんの花が置かれいる。白幡はこれを菊と指摘している。図の下部には縁や軒内が描かれていることから、建物があると分かる。
	周辺景観	庭園の背後には山並みが描かれており、その山中に五輪塔が描かれ、「自然居士塚」と書き記されている。その右下には茅葺の建築が描かれ、それらが庭園の景となっていたことが分かる。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味：
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：8 人（僧侶：5 人、男性：3 人）
	行動	軒内に人物が描かれているが庭内に人物が描かれていないことから、散策を目的とした庭園でないことが分かる。縁には手水を使う人物が描かれており、この庭園の見どころであることが分かる。また、自然居士塚の前や茅葺の建築の前に人物が描かれている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.68

巻数	三	頁数	林三ノ三十裏、林三ノ三十一表	挿図番号	No.108
挿図名	東福塔頭　莊厳院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	○莊厳院（林泉風景ありて奇岩あり、双鵝石、獅子石といふ。）				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	直線的な区割りを持つ平庭が建物の前にあり、奥には築山が見られる。平庭の左側に園池があり、奥には社が建てられている。
	水系	図の左側に園池があるが、それほど大きくないように見える。園池には松が張り出し、池中には蓮が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	築山部分に巨石が据えられており。右側の2石が「双蛾石」、園池の側にある石が「獅子岩」と書き記されている。そのほか小さな景石があるが、巨石を際立たせるためか少ない。平庭には区域に合わせて点線が描かれており、白砂が敷かれていることが分かる。
	植栽	平庭部分には松が1本あるのみであり、他は築山部分や園池付近に植栽されている。松が多く、刈込や桜、杉、柳なども見られる。築山部分や池護岸には地被類が描かれている。
	構造物	庭園の左の社前に鳥居が設置されている。
	建造物	図の右下に屋根が描かれている。その右上には門と塀が描かれ、図の左には社がある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	獅子巌 紺眼星懸テ威ニス百獣ヲ 赤毫焔起テ照ス群毛ヲ	意味：庭内の獅子岩について詠んだ詩であり、名勝の見どころを強調している。
季節	**春**　・　**夏**　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、武士：2 人）
	行動	人物らは双蛾石を見ており、本庭の見どころを示す役割を果たしている。
動物	描写なし。	

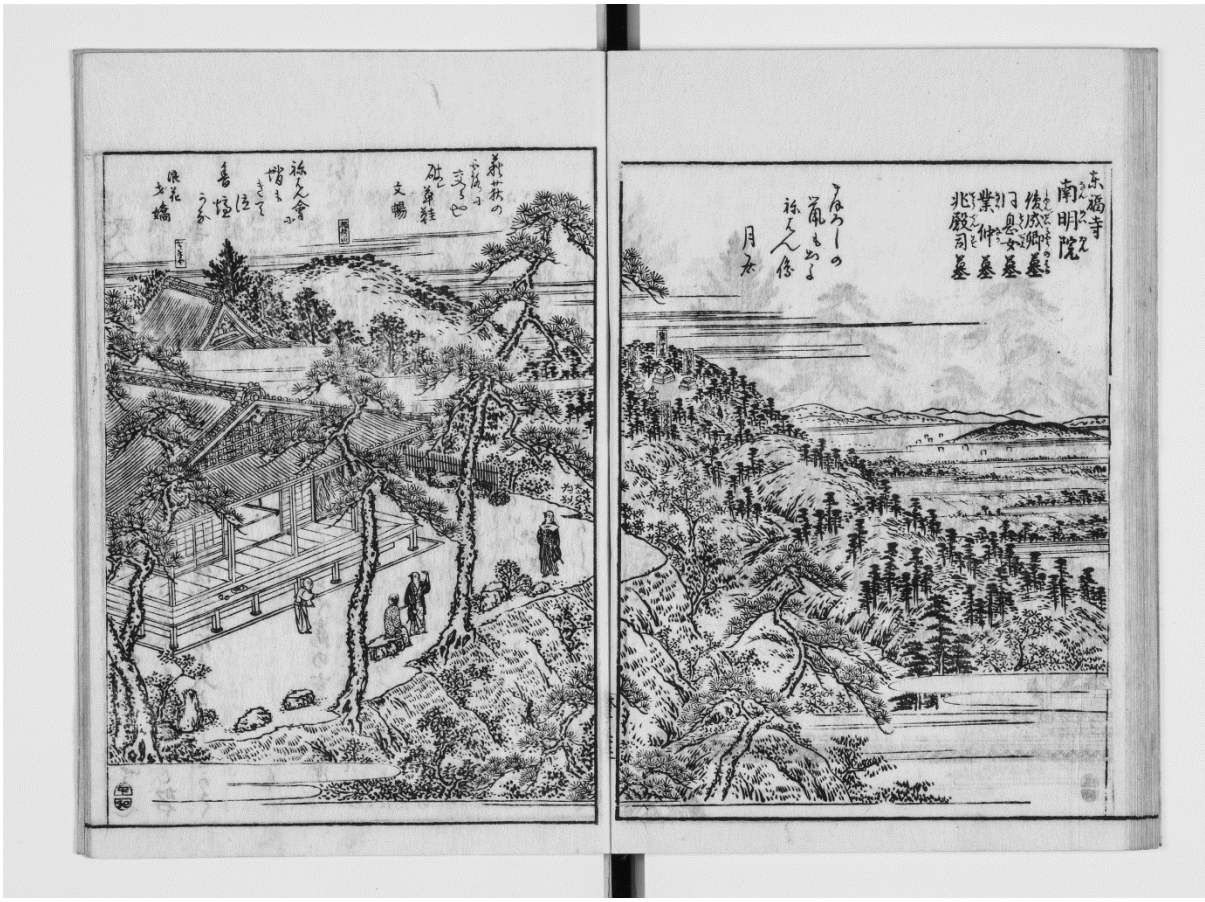
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.69



巻数	三	頁数	林三ノ三十一裏、林三ノ三十二表	挿図番号	No.109
挿図名	恵日塔頭　南昌院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	平坦な平庭であり、庭の右角に築山が築かれている。白砂敷の平庭を囲むように石組や植栽がほどこされている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	築山に石組が見られ、白砂敷の周囲に景石を配置している。図の左右の景石が据えられている箇所には玉石敷の部分も見える。地被類の生え際に合わせて点線が描かれており、白砂敷であることが分かる。
	植栽	松や楓が多く、杉や梅などの植物も見られる。築山やその裾部、庭園左右の景石部分には地被類が描かれている。
	構造物	図の右部の景石部分に雪見燈籠があり、築山の上には石塔が立っている。図の右側には柵が描かれている。
	建造物	図の左下に屋根が見え、その上方には門が描かれている。図の左から中央部にかけて、庭園の外周となる塀がある。図の右端には社がある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	**春**　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、武士：2 人）
	行動	僧に案内されている武士らが描かれている。庭内にいることから、庭内での鑑賞が可能であることが分かる。
動物	描写なし。	

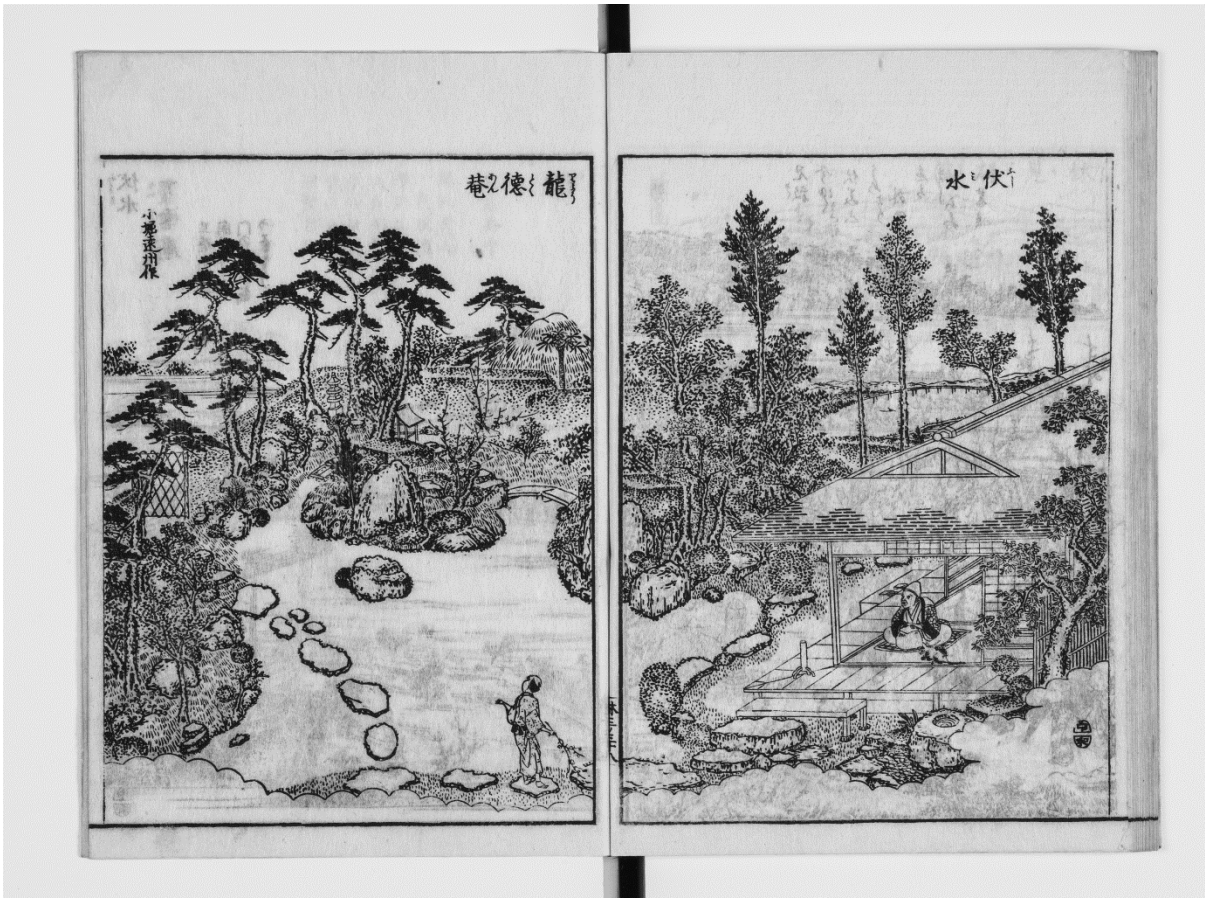
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.70



巻数	三	頁数	林三ノ三十二裏、林三ノ三十三表	挿図番号	№109
挿図名	東福寺　南明院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	俊成卿墓　同息女墓　業仲墓　兆殿司墓				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	高い土地に造られた、眺望を利用した平庭である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	崖際に数石の景石が据えられている。景石に座っている人物が描かれていることから、眺望を楽しむための腰掛としても利用されていたのかもしれない。
	植栽	以内には刈込がいくつか見られ、図の左下部分に植栽が見られるが、眺望を阻害しないように植栽はあまりしていなかったようである。
	構造物	図の中央左には柵が描かれている。
	建造物	図の左に建物があり、そのうしろには「をたまや」がある。
	周辺景観	図の左上には「稲荷山」が描かれ、図の中央上には山中に五輪塔や塚が見え「俊成卿墓」「浄如尼墓」「業仲墓」「兆殿司墓」と書き記され、景の一つとなっていたことが分かる。崖下には松や楓があることから植物の景を楽しめ、遠くには田畑や山並みが見え、船の帆が描かれていることから大きな川が見えることが分かる。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　**建物・風景（法則麁なる）**　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	まほろしの鼠も出よねはん像 月居 萩荻の露に交るや破れ草鞋 文暢 ねはん会に蛸もきて泣香炉かな 浪花才嬌	意味：涅槃を詠んだ詩歌2首は、南明院で行われた際に詠まれた詩歌と連想することができ、もう1首は秋の風景を詠んだものであり、この庭園が秋を見頃としていたことが分かる。
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：4 人（僧侶：1 人、武士：3 人）
	行動	崖際に立つ人物は景色を眺め、僧侶は景色を指して人物に説明している様子が描かれており、この庭園の見どころは景色であったことが分かる。
動物	描写なし。	

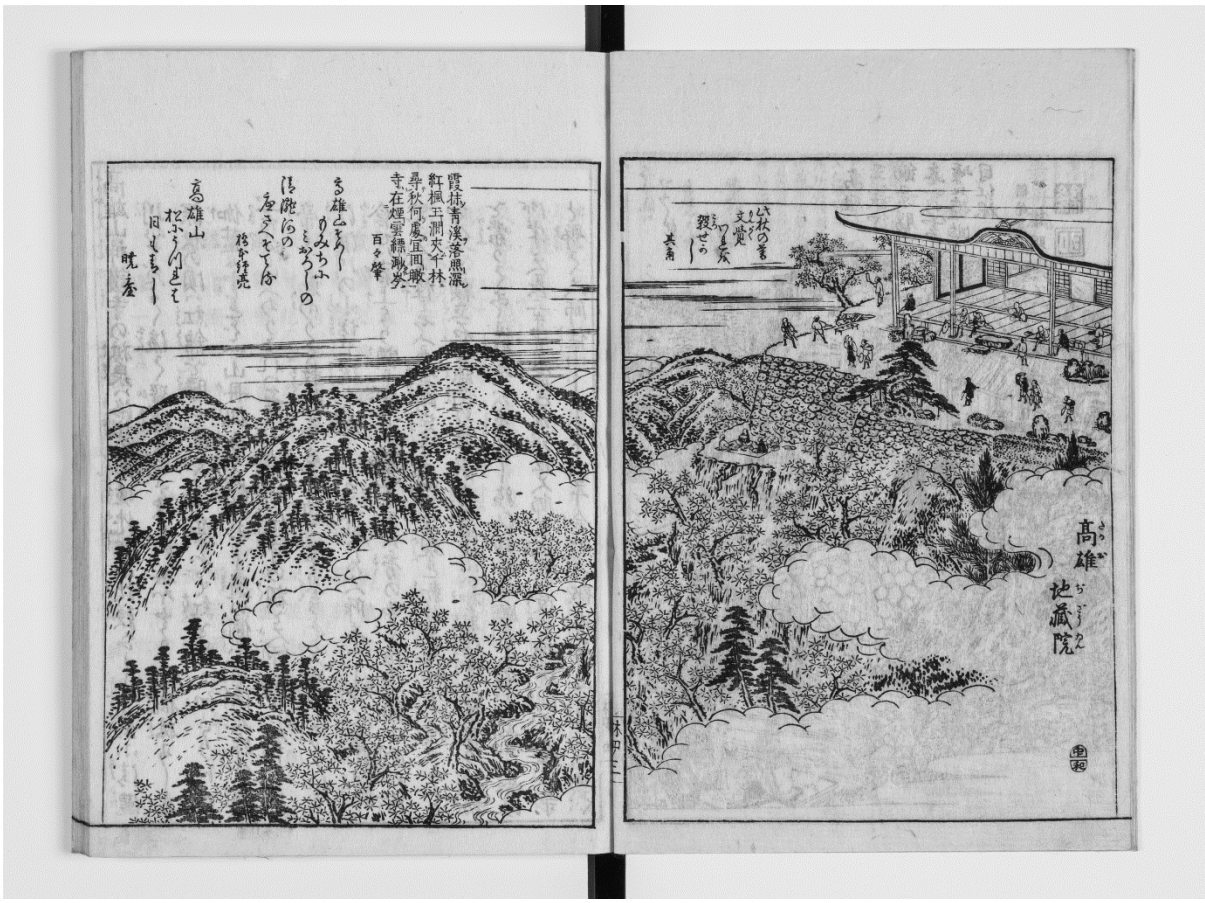
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.71



巻数	三	頁数	林三ノ三十八裏、林三ノ三十九表	挿図番号	No.114
挿図名	伏水　龍徳菴				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	小堀遠州作				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	小堀遠州				

庭園構成要素	地割	平庭に建築前と庭園隅、その左側の3箇所に築山が設けられており、庭園からは川の景色を望めた。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	建物前と隅の築山には大ぶりの景石が目立つ。建物から図の左にある門まで飛石が打たれている。
	植栽	庭園の中央を避けて植栽され、松や刈込が多く、隅の築山には梅が植えられている。築山や図の下部の飛石周りに地被類が植えられている。庭園は生垣によって囲んでいる。
	構造物	図の右下の建物前には縁先手水鉢があり、その横には踏台と沓脱石がある。建物前の築山と社へ向かう石段に橋が架けられている。社の左には石塔がある。また、図の左には庭門がある。
	建造物	図の右側に建物が描かれている。
	周辺景観	庭園の奥には茅葺の建物が描かれている。建物の後ろには大きな川が描かれており、川に架かる橋や船がこの庭園の景となっていることが分かる。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味：
季節	**春**　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：2 人（僧侶：1 人、男性：2 人）
	行動	座敷には庭を眺める僧侶が描かれ、室内から鑑賞する庭園であることが分かる。一方、庭内には飛石の上を梅の枝を持っている人物が歩いている姿が描かれている。縁においている花器に活けるために、庭の梅を手折ってきたかのような情景が描かれている。
動物	座敷の僧侶の足元に猫が描かれている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.72

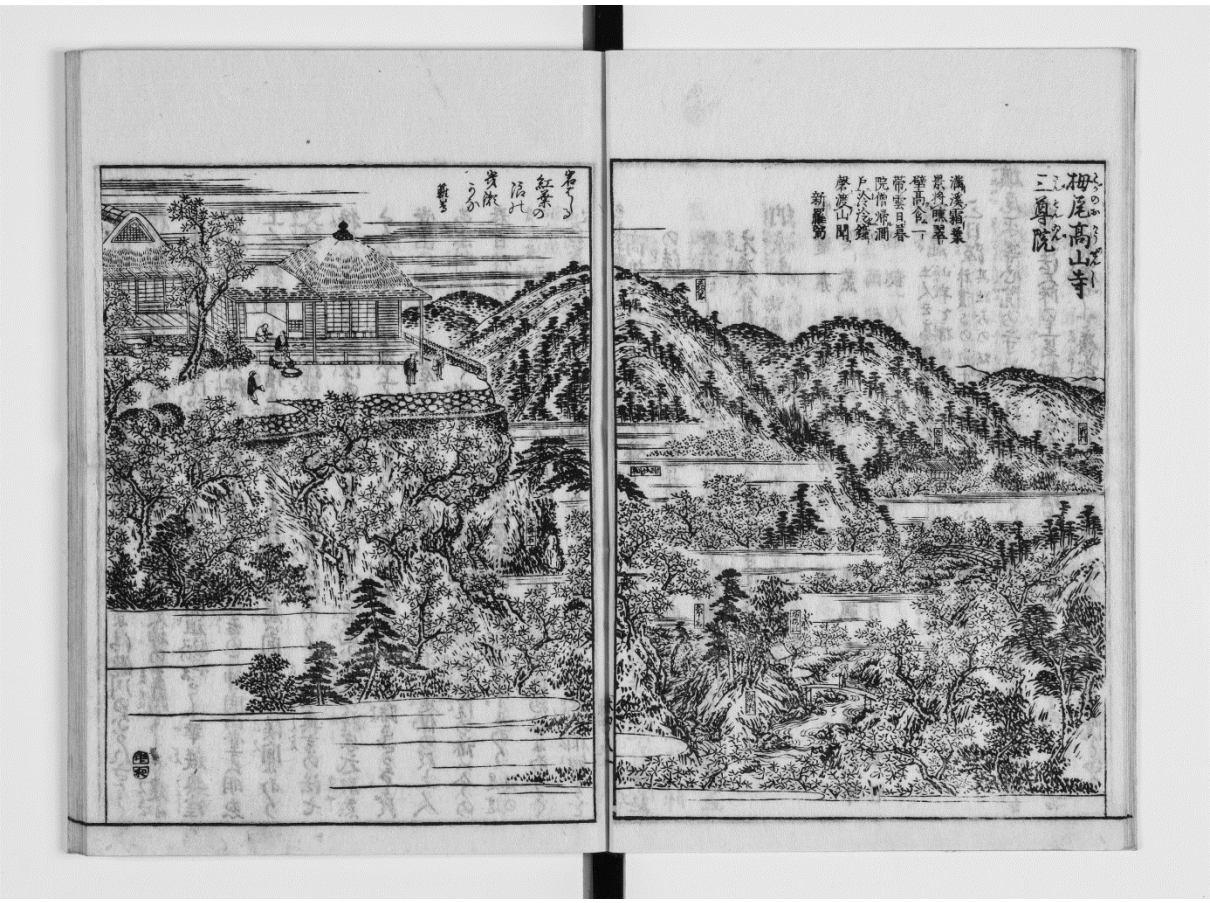


巻数	四	頁数	林四ノ三裏、林四ノ四表	挿図番号	№118
挿図名	高雄　地蔵院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	当山地蔵院の林泉は、客殿の庭中より渓間を臨ば、清滝川潺々ちながれて尾崎より谷崖まで紅葉ならぬ所なし。この折から都下の騒客こゝに来つて遊宴せずといふ事なし、洛北の佳境のその一たるべし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	石垣の上に造られた庭園は平庭であり、眼下には渓谷や山並みが広がっている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	眺望に配慮して少ないが、縁先や崖際に石組や景石を据えている。
	植栽	建物正面に松が1本とその右側に生垣が見える。崖には楓が生えている。
	構造物	縁先に沓脱石がある。松は支柱で枝が支えられている。建物の左側の崖際には床机が置かれている。
	建造物	図の右上には唐破風のある屋根を持つ建物が描かれている。
	周辺景観	庭園の下には渓谷があり、楓が多い。渓底には清滝川が流れており、自然の景が楽しめる庭園となっている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　**建物・風景（法則麁なる）**　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　**戸外活動**　・　その他（　　）	
詩歌	この秋の暮文覚われを殺せしか 其角 霞抹シテニ青渓ー落照深シ紅楓玉ゞ閒來ムニ千林ニー尋テ秋何レノ処カ宜ニ回瞰ー寺ハ在ニ煙雲縹渺タル岑ニー 百々肇	高雄山そめしもみちにみおろしの清滝河の底さへそてる 橋本経亮 高雄山桜にうつれば日も青し 暁台
意味	神護寺を再興した文覚上人を詠んだ歌は名勝と関連させており、紅葉を詠んだ詩歌は季節を強調し、名勝の見頃を示している。桜を詠んだ歌もあり、図にはないが桜の木があったのかもしれない。	
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：21 人（僧侶：2 人、男性：19 人）
	行動	人物らは縁に腰かけて休んだり、到着した様子が描かれたりしている。庭の奥には崖の前に立って景色を眺める人物らやかわらけ投げに興じている人物らがいることから、眺望やかわらけ投げをして楽しむ庭園であることが分かる。また、崖の中腹には敷物を敷いて食事をしながら景色を楽しんでいる様子が描かれている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票

調査票No.73



巻数	四	頁数	林四ノ八表、林四ノ九表	挿図番号	No.119
挿図名	栂尾高山寺　三尊院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	崖上にある平庭であり、眼下には渓谷が広がっている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	石組はなく、図の左上の建物前に段差があり、その段上に飛石が打たれている。
	植栽	庭内には建物前に楓があり、そのほかは刈込や生垣がある程度と植栽は少ない。
	構造物	建物前に沓脱石が2か所にある。
	建造物	茅葺屋根の建物が図の左上に描かれている。
	周辺景観	遠くには山並みが描かれ、その山中に「天狗岩」と書き記されているが、どれを指しているかは不明である。図の右側の山中には「石雲庵」「一瀧村」が書き記され、建築が描かれている。庭園の眼下には渓谷が広がり、楓が多くある。渓底には「深瀬」と記された川が流れ、橋が架かっている。その側には「稲荷社」がある。谷には「けさかけ松」や「文殊石」「ゑほし石」などがある。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　**建物・風景（法則麁なる）**　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	満渓ノ霜葉景将ニレ曛 翠壁高ク含ムー帯ノ雲 日暮院僧帰ルニ〻閒戸ニー 冷冷タル鐘磬渡リテレ山聞ク 新羅弼 岩はしる紅葉の浪の幾瀬かな 籬島	意味：渓の紅葉の情景や紅葉と川の情景を詠んだ詩歌であり、名勝の特徴をとらえた詩歌である。
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：6 人（僧侶：1 人、男性：5 人）
	行動	庭中には眺望を楽しむ人物らが描かれている。また渓谷には橋を渡る人物が描かれ、散策できたことが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.74

巻数	四	頁数	林四ノ十三裏、林四ノ十四表	挿図番号	No.120
挿図名	等持院				
画工名	佐久間草偃 ・ **西村中和** ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	夢窓国師作りたまふ				
本文における庭園記述	林泉に芙蓉池ありて風色優雅なり				
現在の状況	文化財指定状況	等持院の庭（京都市指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	夢窓国師				

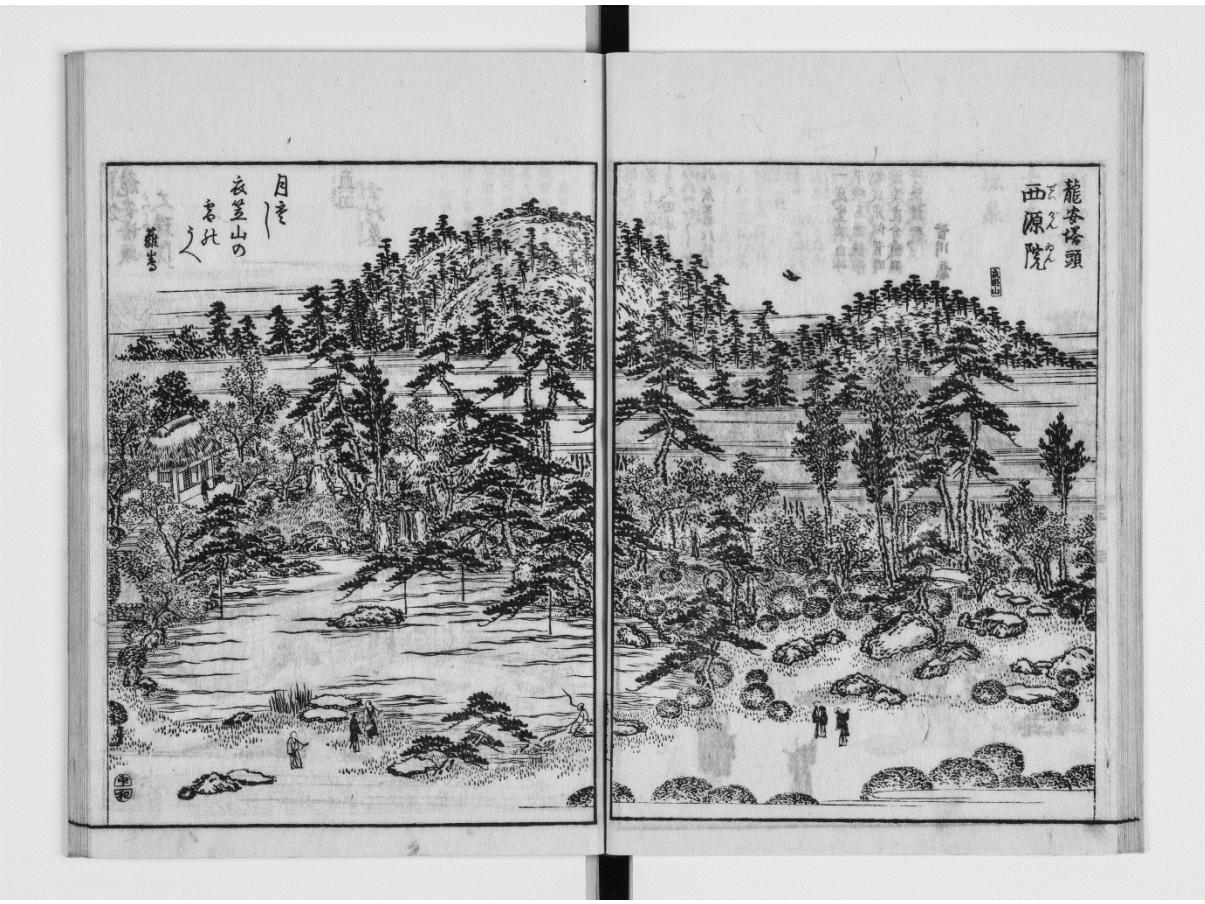
庭園構成要素	地割	建物前には大きな園池が広がり、園池には中島が設けられている。園池の背後は築山となり、図の左上には茶室が建てられている。
	水系	平庭部分を占める園池は建物前は出島となり、中央に中島がある。園池の右側は入り組んだ護岸となっている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	護岸石組や護岸の景石、図の中央右の築山に多くの石組が見られる。園池の外周には園路があり、飛石が打たれている。途中、築山に登る石段に変わり、築山上でまた飛石になり、園池の外周を一周できるようになっている。建物前は白砂敷である。
	植栽	松が多く、築山上には他の樹木も多くみられる。中島や築山上には刈込も見られる。図左の園路脇には四角く刈込がされている。園池護岸の外周や築山などには地被類が見られる。図の左、園池の護岸付近には燕子花が見られる。
	構造物	島には橋が3方から架かっており、出島から島に架かる橋と出島から築山へ架かる橋は切石の反り橋であり、図の右側の護岸から中島へ架かる橋は自然石の橋である。茶室の側には四角型石燈籠と手水鉢が描かれている。左下の建物の縁先には縁先手水鉢がある。中島の右側の松とその右にある松は支柱で支えられている。
	建造物	図の左下の建物と、図の左上に茶室がある。
	周辺景観	茶室の背後に「衣笠山」が描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある） ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ **風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞** ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	道契十余歳 歓君長北 風青松摩漢秀白水 繞巌通 嗣法為真 子罵天還 老翁即亦衣 賓那道帰西東 遊更衣山神足 孝公禅師示以 近体一篇汚顔奉謝 衣笠峰倫桂洲　拝稿	意味
季節	春 ・ **夏** ・ 秋 ・ 冬 ・ 強調せず	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 7 人（僧侶： 2 人、武士： 5 人）
	行動	室内には座敷から庭園を眺める姿が描かれ、室内から鑑賞する庭園であることが分かる。しかし庭内にも人物が描かれ、飛石の上や橋の上にいることから散策する庭園であることも示されている。また、建物前にいる人物は島を眺め、中島の右側の人物も中島に行こうとしているため、中島が見どころの一つであることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.75

巻数	四	頁数	林四ノ十六裏、林四ノ十七表	挿図番号	№122
挿図名	龍安寺　方丈　林泉				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	むかし細川勝元ここに別業をかまへ住せらるゝ時、書院より毎朝男山八幡宮を遥拝せんが為に庭中に樹を植ず。奇巌ばかりにて風光を催す。これを相阿弥の作りしなり。名づけて虎の子わたしといふ。洛北の名庭の第一なり。後年塀の外の古松高く老て昔の風景麁となる。その上近年方丈回禄しぬければむかしを情を慕われ侍る				
本文における庭園記述	所謂方丈の庭は相阿弥の作にして洛北名庭の第一とす庭中に樹木一株もなく海面の体面にして中に奇巌十種ありて島嶼に准へ真の風流にして他に比類なしこれを世に虎の子渡しといふ（中略）書院に坐にして遥に八幡神廟を毎事拝せんがために庭中に樹木を植えせずとなん				
現在の状況	文化財指定状況	龍安寺方丈庭園（国指定史跡・特別名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	相阿弥				

庭園構成要素	地割	築地塀に囲まれた長方形の平庭である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	大きな景石が15石描かれている。図内では「奇巌」ばかりと称している。
	植栽	庭内に樹木はなく、図内には書院から男山八幡宮を遥拝するために邪魔になる木を植えなかったとしている。景石の周りの地面には地被類が描かれている。
	構造物	描写なし。
	建造物	庭園を囲む築地塀が描かれ「義政公御殿頃築地」と書き示している。
	周辺景観	築地の外には松や竹が描かれている。図内に作庭後に塀の外の樹木が育ち、風景が粗末なものになっていることが記されている。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	一庭ノ空曠白砂平ナリ 頑石誰カ鋪ク形勢ノ成ルヲ 宛モ似タリ昔時渡渓ノ虎 分銜ム両子泛テレ波ニ行ク 皆川愿	意味：虎の子渡しと呼ばれた庭園にちなんだ詩歌か。また、詩歌から白砂が敷かれていたと考えられる。
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（僧侶：3 人、武士：1 人、男性：1 人）
	行動	僧侶が案内している姿が描かれている。図左の大きな景石に注目しているのか。
動物	描写なし。	

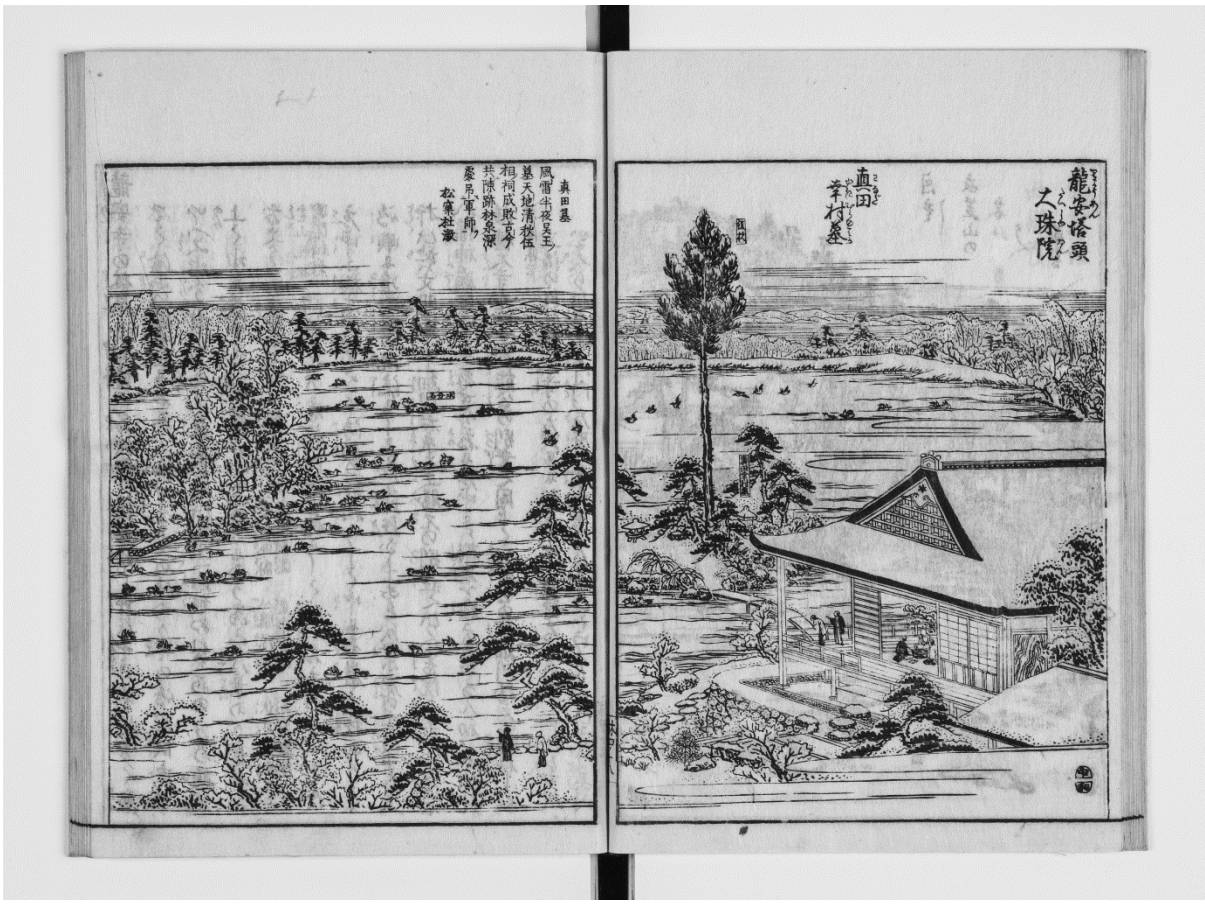
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.76



巻数	四	頁数	林四ノ十七裏、林四ノ十八表	挿図番号	№123
挿図名	龍安塔頭　西源院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	林泉また風流にして上段の地に茶室あり、額蔵六と書す、正法山桂南の筆なり。当山の後山絹笠山めぐりて雪の日の壮観なり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	図の左から中央まで園池があり、園池の中央には滝が描かれている。その背後は築山となり、左側には茅葺の茶室がある。図の右側は平坦な土地に景石が据えられている。		
	水系	なだらかな護岸の園池であり、奥には滝がある。池中の中央とその左奥には岩島がある。		
	石組・景石・敷石・敷砂利	景石は図の右側に集中して据えられ、滝石組やその左の築山上の景石、池護岸にある礼拝石などが目立つ。茶室前から滝にかけて飛石が打たれている。		
	植栽	松や杉、楓、刈込などが描かれており、護岸や園池の右側の平庭、築山に地被類が見られる。護岸付近にある松は園池に張り出している。		
	構造物	図の右側に切石橋があり。滝の奥には四角型石燈籠が見られる。茶室の裏には柵が描かれている。		
	建造物	図の左部に茅葺の建物があり、本文中で紹介された茶室であると考えられる。		
	周辺景観	庭園の背後に山が描かれ、右側の山は「衣笠山」と書き記されている。本文に雪の日は壮観であるとし、冬の景を評価しているが、ここでは雪が積もった様子は描かれていない。		
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**			
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）			
詩歌	月寒し衣笠山の雪のうへ 蘇島	意味	図では描かなかった冬の景を詩歌で表現し、冬の景も良いことを示している。	
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず			
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）			
気象	**晴**　・　雨　・　雪			
人物	人数	計：　7　人（僧侶：　1　人、武士：　1　人、男性：　5　人）		
	行動	園地の前で鑑賞する人物や、護岸の景石に座ってくつろぐ人物が描かれており、そこが鑑賞のポイントであることが分かる。また、図の右側にいる人物らは衣笠山を見上げており、図中央の園路を歩く人物も後ろを振り返り衣笠山を見ている。また、築山の奥へ進もうとしていることから、散策ができたことが分かる。		
動物	衣笠山の左側に鳥が飛んでいる。			

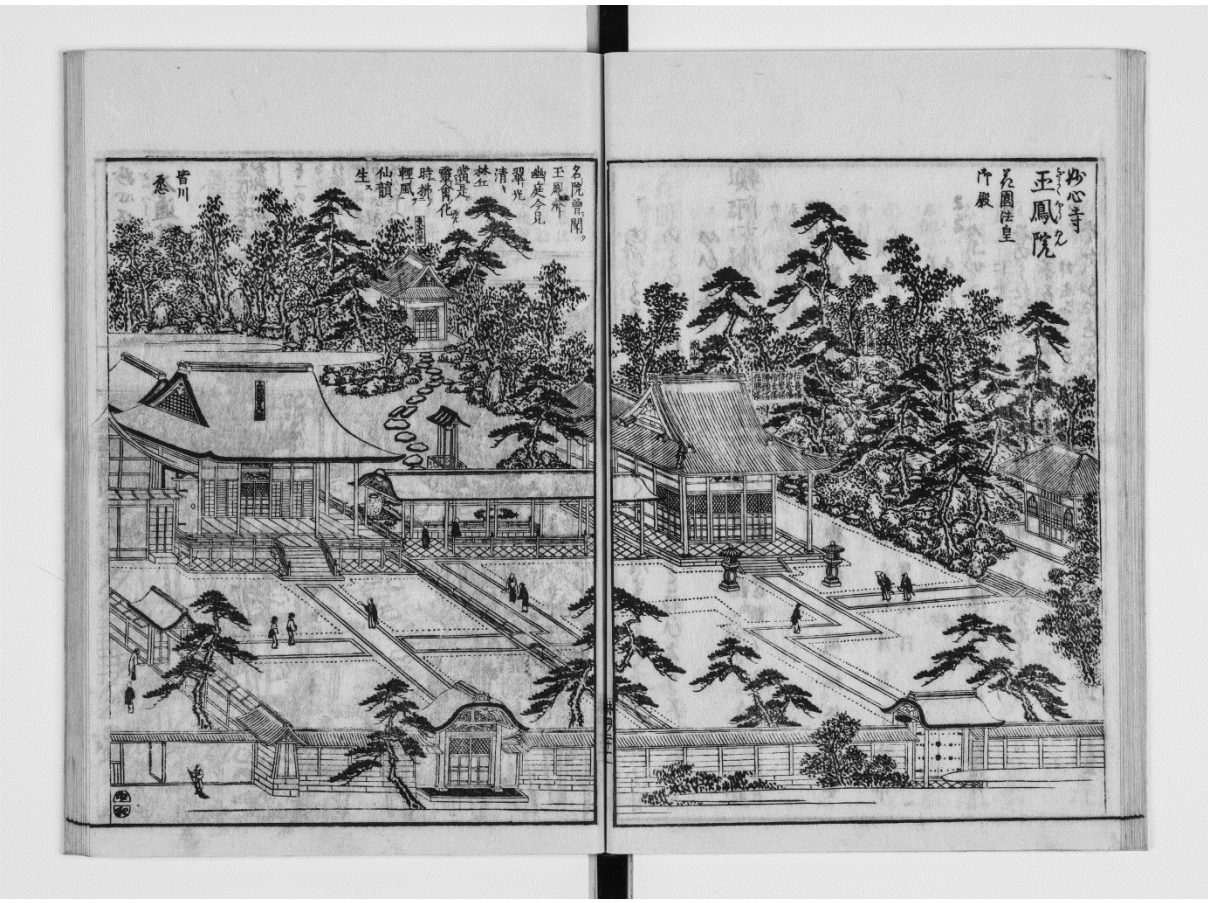
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.77



巻数	四	頁数	林四ノ十八裏、林四ノ十九表	挿図番号	№124
挿図名	龍安塔頭　大珠院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	真田幸村墓				
本文における庭園記述	大珠院の林泉は、鏡容池西の方に巡りて庭中の美となる。池中の島へ石橋をわたして、島の中に綾杉といふ名木あり。株の皮目に杢ありて綾絹に似たり。葉は常の杉に等し。高さ三丈許、京師の珍木なり。その木下に墳墓あり。中に真田左衛門尉幸村の墓あり。石塔婆を建て法号を鐫ず				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	図いっぱいに広がる園池があり、これは鏡容池の西部を利用している。池中には2島の中島がある。園池の手前には石垣があり、上に建物が建っている。
	水系	巨大な園池があり、建物前と図の左部に中島が設けられている。建物前から中島に橋が架けられている。図左部の中島には社があり、手前は桟橋状に張り出し、橋が架かっている。園池には鴛鴦が多く飛来している様子が描かれている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	目立った景石はないが、建物前の中島の護岸に景石が据えられている。園池手前の護岸には飛石が打たれている。図の中央やや左の園池の中には「水分石」がある。
	植栽	建物前の中島や護岸には松が多く、中島には柳や「綾杉」が描かれている。園池の対岸には竹が見える。
	構造物	建物の縁先には切石の沓脱石があり、建物前の中島には石橋が架けられている。中島には雪見燈籠と五輪塔「真田幸村墓」が描かれている。図左部の中島にも中央を高くした橋が架けられている。
	建造物	図の右下に建物があり、図左部の中島には社がある。
	周辺景観	園池の背後には町並みと山並みが描かれている。図の中央には塔があり、仁和寺の五重塔か。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	真田墓 風雷半夜呉王ノ墓 天地清秋伍相ノ祠 成敗古今共ニ陳跡 林泉深処弔ヌニ軍師ヲー 松窠杜澂	意味：中島にある真田幸村の墓に関する詩歌であり、この名勝の見どころを強調している。
季節	春　・　夏　・　秋　・　**冬**　・　強調せず	
時間帯	朝　・　日中　・　**夕方**　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：7 人（僧侶：1 人、男性：6 人）
	行動	建物内には座敷から庭園を眺める人物らと縁先に立って眺める人物が描かれている。どちらも中島の方を見ていることから、見どころを暗示していることが分かる。庭中の人物らは図の左部にある中島の方を眺めている。
動物	冬に飛来する鴛鴦が多く描かれている。本文の鏡容池についての記述に冬に鴛鴦が多く集まることが記されていることから、鴛鴦と判断できる。	

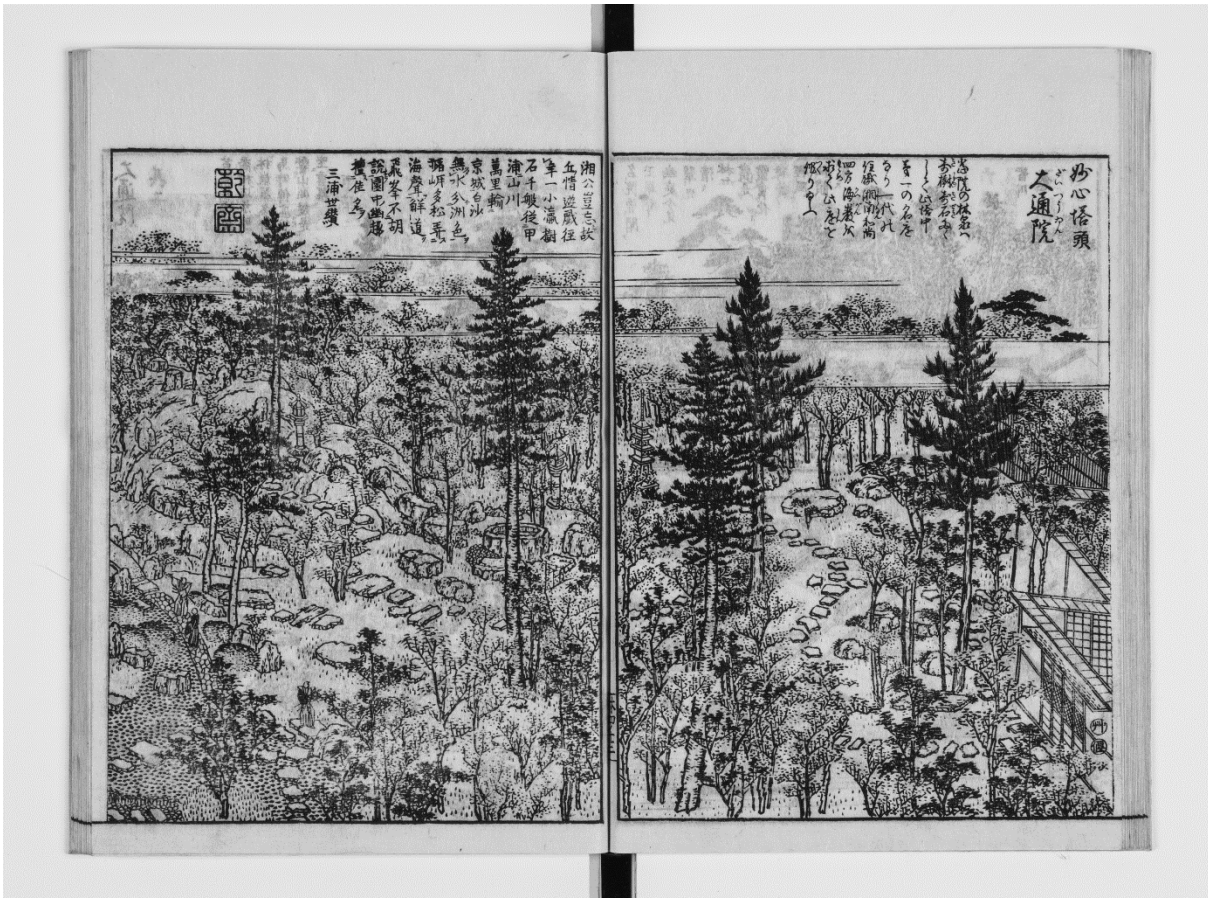
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.78



巻数	四	頁数	林四ノ二十一裏、林四ノ廿二表	挿図番号	No.125
挿図名	妙心寺　玉鳳院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	花園法皇御殿				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	玉鳳院庭園（国指定史跡・名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	建物の前面は園路を巡らせてた平庭があり、開山堂の右側には築山「鶏足嶺」が築かれている。建物の背後には枯山水があり、石組がほどこされている。
	水系	建築前の庭には御殿と渡廊下の間に水路が設けられている。渡廊下の背後に「風水泉」と書き記された井戸がある。
	石組・景石・敷石・敷砂利	建築前の庭園では園路の間は白砂敷である。鶏足嶺には裾部に石組が見られる。建築背後の庭園は渡廊下の前は飛石があり捨君堂まで続いている。捨君堂の左右には石組が多くある。
	植栽	建築前の平庭には塀に沿って松が植栽されている。鶏足嶺には松や刈込などが植えられている。建築背後の庭園には松やそのほかの樹木が植えられている。
	構造物	建築前の平庭の水路に小さな橋が架かり、開山堂前には石燈籠が2基あり、鶏足嶺には「信長塔　信忠塔　信豊塔　信玄塔　勝頼塔　信勝塔」と書き記されているが塔は描かれていない。渡廊下の背後には手水鉢と井戸が描かれている。
	建造物	図の右側には「花園法皇御殿」、その右側には渡廊下があり、その右には「開山堂」と書き記された建築がある。図の右辺には「涅槃堂」があり、図の中央上部には「棄君堂」がある。庭園の左部と図の下辺には塀があり、御殿横と正面、開山堂の正面にそれぞれ門がある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	名院曾聞ク玉鳳ノ声 幽庭今見翠光清キ 林丘当ニ是レ霊禽ノ化スルナルヒ 時ニ払フニ軽風ヲ仙韻生ス 皆川愿	意味：玉鳳院を詠んだ漢詩であり、名勝と関連付けている。
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：13 人（僧侶：2 人、武士：5 人、男性：4 人、女性：2 人）
	行動	庭中の人物らは見な園路の上を歩いており、庭園を散策するのではなく参拝客であろう。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.79



巻数	四	頁数	林四ノ廿二裏、林四ノ二十三表	挿図番号	№126
挿図名	妙心塔頭　大通院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	当院の林泉は木樹奇石多くしてこの塔中第一の名庭なり。一代の住職湘南和尚四方海巌を求めてこの庭を作りたまふ				
本文における庭園記述	○大通院（開基は湘南和尚なり、この人は初め土佐国守の息にして、山水の勝景を庭中に造る事を好みて、奇石奇木を諸邦より聚る事多し。一歳書を紀州禅林寺来山和尚に奉じ、奇樹霊石を求むる事正法誌に見えたり。庭中の風色当山第一にして二に双ぶものなし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	湘南和尚				

庭園構成要素	地割	挿図№127に連続する挿図である。大きな平庭であり、図の右部は木々の間に飛石が打たれ、左部には枯山水の一部があり、後方には築山が築かれている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	右下の門から飛石が大きく弧を描き、図中央の手水鉢の前を通って築山へ向かって打たれている。図の左下には玉石敷であり、その中にも飛石が打たれている。玉石と地被類が生える地面との境には緩いカーブを描いた延段がある。石組は図右側の塀の前や築山付近に見られる。
	植栽	杉の高木が目立ち、そのほか樹木が多くやや鬱蒼として見える。地面には地被類が飛石や景石、樹木の根本などに生えている。
	構造物	図の中央に手水鉢があり、その右奥に四角型石燈籠ががある。さらに右には石塔がある。築山の上には六角型石燈籠が描かれている。図の左辺に橋がある。図の右辺には柵がある。
	建造物	図の右側に門と塀がある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	湘公豈忘ンヤ故丘ノ情 遊戯径レ年一小瀛 樹石千般従フニ甲浦ニー 山川万里輸ニ京城ー 白沙無クレ水分チニ洲色ヲー 赭崕多レ松弄スニ海声ヲー 鮮道飛峯不ニ胡説ナラー 園中ノ幽趣檀スニ佳名ヲー 三浦世績	意味：湘南和尚が作庭した本庭を読んだ詩か。
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、武士：2 人）
	行動	図の左部に飛石や延段の上を歩く人物らが描かれ、散策する様子がうかがえる。
動物	描写なし。	

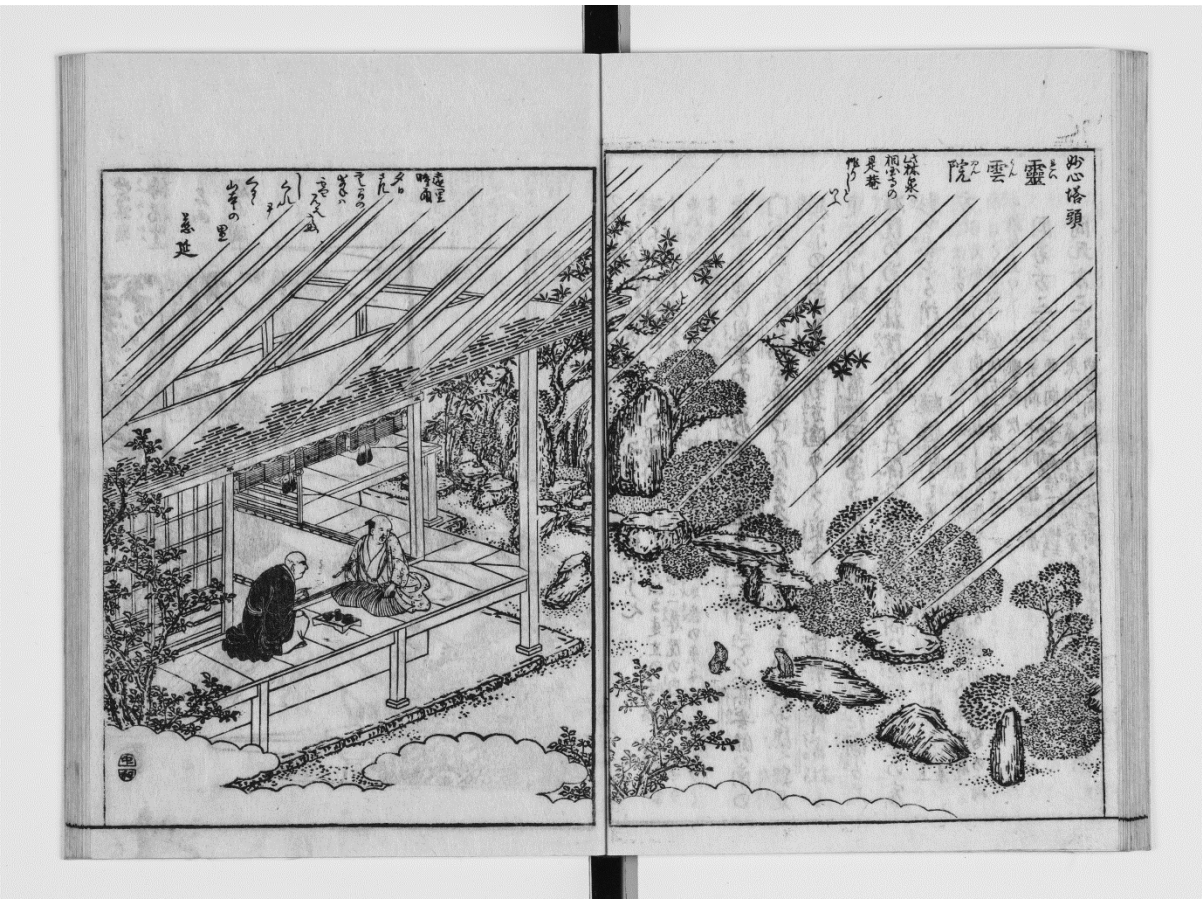
『都林泉名勝図会』林泉図調査票

調査票No.80

巻数	四	頁数	林四ノ二十三裏、林四ノ二十四表	挿図番号	No.127
挿図名	大通院　其二				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	○大通院（開基は湘南和尚なり、この人は初め土佐国守の息にして、山水の勝景を庭中に造る事を好みて、奇石奇木を諸邦より聚る事多し。一歳書を紀州禅林寺来山和尚に奉じ、奇樹霊石を求むる事正法誌に見えたり。庭中の風色当山第一にして二に双ぶものなし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	湘南和尚				

庭園構成要素	地割	挿図No.126に連続する挿図である。図の右側は枯池となっており、背後に築山が見られる。図の左奥には枯滝石組があり、段状になっている。図の左部は一段高くなっており、鳥居や社があることから神社空間となっている。
	水系	枯山水であるが、図の右中央に小さな園池がある。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の右下部に「虎石」、中央に「硯石」と記された名石があり、中島や背後の築山、枯滝部分に石組が多くある。全体に飛石や延段で園路が設けられている。枯滝や図の下部の飛石部分は玉石敷であり、枯池の中島の背後も玉石敷であるが、こちらは黒い玉石を用いている。
	植栽	枯池部分には松や刈込が多くみられる。神社空間には楓や刈込などの植物がある。
	構造物	中島に3方から切石橋が架かっている。また枯滝付近にも切石橋が架かる。園池には池中に四角型石燈籠が活け込まれている。滝前には四角型石燈籠、その右には棹が四角柱の燈籠がある。図の右辺には井戸がある。図の中央には井筒の様な石造物があり、その左下に刈込に埋もれた燈籠がある。図の左下には鳥居があり、その右には四角形の手水鉢と常夜燈の様な燈籠がある。左辺中央にも燈籠があり、その右上には欄干付きの反り橋が架けられている。その先にも四角型石燈籠見える。
	建造物	図の左部に舞殿のような建物があり、その奥には社が見える。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	苔深シテ石逕掩フニ喬柯ヲー 辺景照テレ林嵐翠大シ 野鳥時ニ伝フ虚谷ノ響キ 山庭疑ラクハ是レ坐スニ雲蘿ニー 百々肇	意味
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：4 人（僧侶：2 人、武士：2 人）
	行動	滝石組の前や橋上に人物が描かれていないことから、庭園の全景が望める位置を鑑賞のポイントとし、図の下部の飛石の上に人物らを配置したか。図の左には延段を歩く僧侶が描かれている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.81



巻数	四	頁数	林四ノ二十八裏、林四ノ二十九表	挿図番号	No.129
挿図名	妙心塔頭　靈雲院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	この林泉は相国寺の是菴作りしといふ				
本文における庭園記述	庭は相国寺の是庵の作とぞ				
現在の状況	文化財指定状況	霊雲院庭園（国指定名勝・史跡）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	是庵				

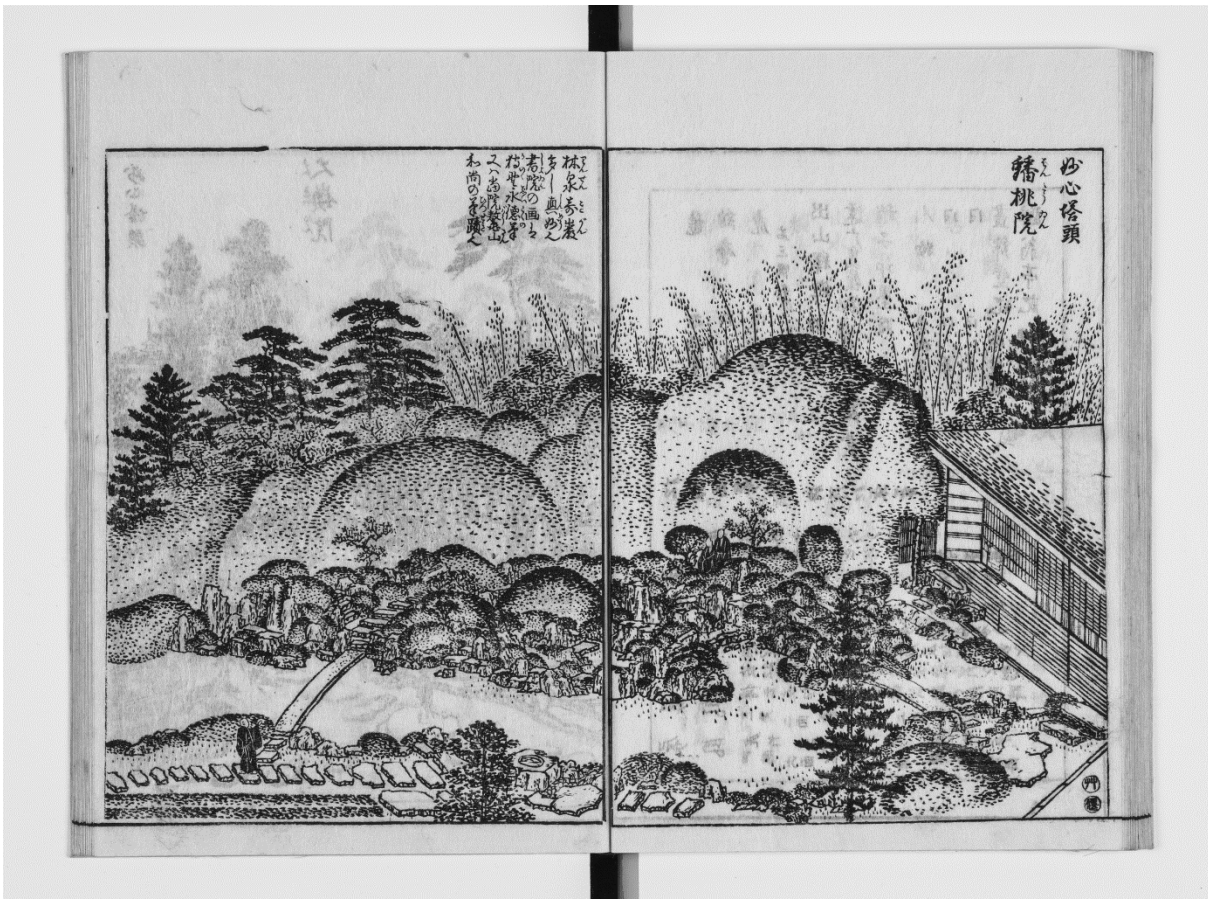
庭園構成要素	地割	建物脇の狭い敷地にかぎ型に造られた枯山水である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の奥に建物に一部隠れた枯滝石組があり、右方へ伏石を据えている。
	植栽	枯滝石組の背後に楓があり、右側の景石部分には刈込が植えられている。刈込は花が咲いており、雨が降る様子からも夏であることがうかがえ、サツキやツツジであることが分かる。枯滝石組の付近には地被類が描かれ、その他の石組の周りにも点描があり、枯滝石組箇所の地被類と別種の地被類が描かれている。
	構造物	描写なし。
	建造物	図の左側に建物が描かれている。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	遠里時雨 夕日さす雲間の峰は 雪見てしぐれに くるる山本の里 慈延	意味：挿図の情景と合わせた時雨の詩歌である。
季節	春　・　**夏**　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	晴　・　**雨**　・　雪	
人物	人数	計：2 人（僧侶：1 人、男性：1 人）
	行動	縁に座って庭園を鑑賞している。人物らの目線は庭の蛙に向いており、読者の目線を誘導し、そこに蛙がいることに気付かせる。雨が降り、サツキが咲き、蛙を描くことでこの庭園の見頃を夏としていることが分かる。
動物	庭内に蛙が2匹描かれており、季節を強調する働きを持つ。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.82

巻数	四	頁数	林四ノ三十裏、林四ノ卅一表	挿図番号	No.131
挿図名	妙心塔頭　雑華院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	この林泉は日蓮宗僧玉淵の作といふ。庭中の奇巌の像十六羅漢を表するとぞ聞こへし				
本文における庭園記述	林泉は名庭にして奇石を畳て十六羅漢に准へ釈尊大会の体相を表す日蓮宗徒玉淵の作なり				
現在の状況	文化財指定状況	雑華院庭園（京都市指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	玉淵				

庭園構成要素	地割	建物に面した平庭であり、塀沿いに石組を配置した庭園である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	景石が16個描かれており、図内ではこれらが十六羅漢を表すという。
	植栽	石組の側には刈込が植えられ、地被類も見られる。図の右側には杉らしき樹木や、左下には松などの植栽が見られる。
	構造物	描写なし。
	建造物	図の右下に2棟の建物が描かれ、庭園は塀で囲まれている。
	周辺景観	塀の外には松や楓、竹などの樹木が見える。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：4 人（武士：4 人）
	行動	庭内を散策する人物らは石組を見たり、扇子で指したりしながら鑑賞している様子が描かれている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.83



巻数	四	頁数	林四ノ三十四裏、林四ノ三十五表	挿図番号	No.132
挿図名	妙心塔頭　蟠桃院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	林泉奇巌多し真妙なり。書院の画は狩野永徳筆又は当院鼇山和尚の筆蹟なり				
本文における庭園記述	当院の林泉は奇石名岩多し				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	図の中央の築山にある枯滝があり、中央の枯池へつながっている。枯池は図の左へまだ続き、滝の右側と築山左部の2か所に橋が架かっている。築山はには園路が設けられ、回遊できるようになっている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の左下の枯池の手前には直線的に飛石が打たれている。中央には手水鉢があり、鉢前の石組が描かれている。築山の裾部に石組が多く見られ、図の中央やや右には滝石組がある。
	植栽	庭園全体に刈込が多く、特に築山は以後の大刈込が目立つ。背後には松や竹、杉が植えられている。枯滝や護岸、枯池の中には地被類が見られる。
	構造物	枯池には切石橋が2本架かっている。図の下部には蹲踞が描かれ、水が張られている。図の右側にある建物の前にも縁先手水鉢や沓脱石がある。
	建造物	図の右側に建物が描かれている。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：3 人）
	行動	築山上の枯滝の横に人物がおり、回遊できる庭園であることやそこから見る庭園の景が鑑賞のポイントであることを示している。図の左下の人物は築山上の人物らに呼び掛けているような様子が描かれている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.84

巻数	四	頁数	林四ノ三十五裏、林四ノ三十六表	挿図番号	No.133
挿図名	妙心塔頭　大嶺院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	当院の林泉は藤村牖軒の作といふ				
本文における庭園記述	林泉京師庸軒の作				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	藤村庸軒				

庭園構成要素	地割	敷地いっぱいに園池が広がり、中央には大きな築山が築かれている。築山の右側にも頂上が平坦になった築山があり、頂上から枯流が作られ、中腹には枯滝があり、枯流れが園池へ続いている。
	水系	S字に大きく曲がった園池が庭園の中央にある。
	石組・景石・敷石・敷砂利	園地の手前や築山前、土橋の右側の護岸には護岸石組や景石が多くある。右奥の築山には枯滝石組をはじめとする石が組まれている。園池の手前には飛石が打たれ、伽藍石が踏み分け石として使用されている。
	植栽	園地の脇には松や杉、楓などが植えられている。庭園の背後には生垣が2段になっている。右奥の築山の背後には楓が多く植栽されている。護岸の景石付近や飛石の周り、土橋などに地被類が見られ、中央の築山は別種の地被類で覆われている。
	構造物	図の右下には柵と門があり、その横には宮立型の様な石燈籠があり、右奥には棹の上部が膨らんだ石燈籠、築山上には石塔、中央の築山正面には雪見燈籠、園池の左側には六角石燈籠がある。園池の右側には土橋が架かり、左奥には石橋が架かっている。
	建造物	描写なし
	周辺景観	生垣の奥には山並みが見え、図の右端には塔が描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：　7　人（僧侶：　1　人、武士：　3　人、男性：　3　人）
	行動	図の手前には園池護岸に立つ人物が描かれており、魚に餌をやって遊んでいる姿が描かれている。土橋の上に立つ僧侶は散策する人物をいざない、飛石をつたう人物は伽藍石の上に立って景色を眺め、右奥の築山上には景色を楽しむ人物がおり、鑑賞ポイントであることが分かる。枯滝の右にも人物が描かれ、枯滝や枯流れが見どころの一つであることが示されている。
動物	園地に魚が描かれている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.85

巻数	四	頁数	林四ノ四十五裏、林四ノ四十六表	挿図番号	No.135
挿図名	妙心塔頭　退蔵院				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	この林泉は狩野古法眼作りしといふ				
本文における庭園記述	庭中は画聖古法眼元信の作なり、他にこの類少し				
現在の状況	文化財指定状況	退蔵院庭園（国指定史跡・名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	狩野元信				

庭園構成要素	地割	枯池が大きく広がり、背後には築山が築かれ、背後を回る園路がある。枯池には中島があり、橋が2方から架る。枯池の右奥には玉石敷の一角がある。
	水系	描写なし
	石組・景石・敷石・敷砂利	枯池の護岸や中島、築山上に石組や景石があり、特に築山上の巨大な景石が目立つ。縁先から打たれた飛石は枯池の前を通り、図の右側の中島に架かる橋に続いている。
	植栽	護岸や中島には丸い刈込が多く、枯池や築山の背後には松などの背の高い樹木が植えられている。さらにその背後には竹が背後の景を遮る。枯池の周りは地被類が描かれ、築山上には別種の地被類が描かれている。
	構造物	図の左下の縁先には縁先手水鉢がある。中島には2基の自然石の橋が架かっている。園池の左奥にも橋が架かっている。
	建造物	図の左下に縁が描かれている。
	周辺景観	描写なし
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（僧侶：1 人、武士：3 人、男性：1 人）
	行動	図の下部には飛石の上を歩いて、庭園の全景を楽しむ人物らが描かれている。中島に架かる橋にも人物が描かれ、築山の方まで散策できると分かる。
動物	描写なし	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.86

巻数	四	頁数	林四ノ四十七裏、林四ノ四十八表	挿図番号	No.137
挿図名	妙心塔頭　春浦院				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	この林泉虎渓を縮むといふ。什宝に福富といふ名画あり、世にその名高し				
本文における庭園記述	林泉は虎渓の三笑を象て妙景あり				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

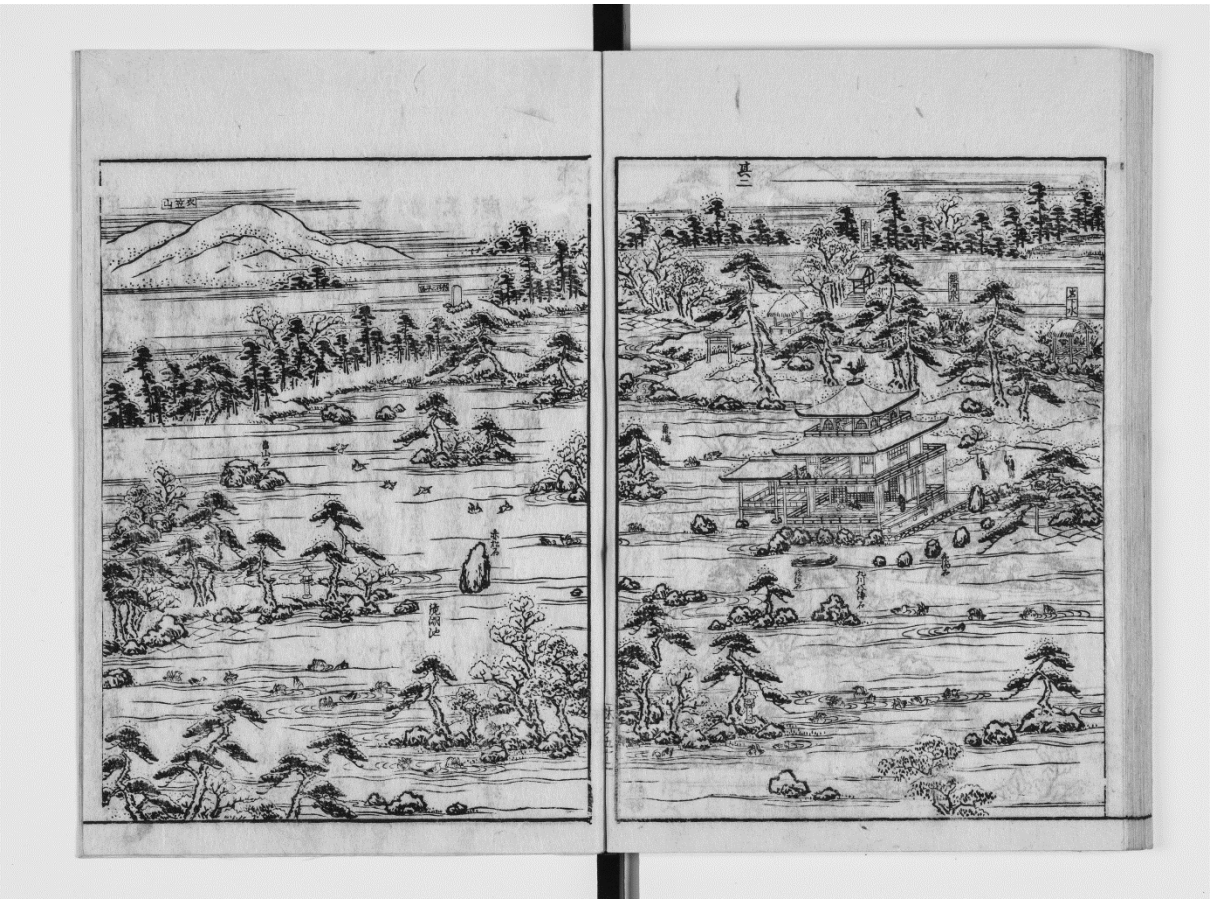
庭園構成要素	地割	平庭に造られた枯山水である。
	水系	描写なし
	石組・景石・敷石・敷砂利	庭内に3本の松があり、その周辺や背後の生垣に沿って景石が多く据えられている。図の左側の松は根元に玉石が敷かれ、その周囲を石で囲まれている。庭園の前面は白砂敷となっている。
	植栽	前方に松が3本植えられ、それを目立たせるように周囲には刈込を植えるのみである。背後には松や楓などが植えられ、生垣によって敷地が区切られている。樹木や石組のある場所には地被類で覆われている。
	構造物	図の中央に大きな切石橋が架けられている。図の右側には石燈籠が据えられている。
	建造物	図の左に平瓦葺の建物が建っている。
	周辺景観	生垣の奥には田畑が見える。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、武士：2 人）
	行動	人物らは白砂敷の部分に立って庭園を鑑賞していることから、奥まで踏み込んで散策するような庭園でないことが分かる。
動物	描写なし	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.87

巻数	四	頁数	林四ノ五十二表	挿図番号	No.138
挿図名	金閣寺				
画工名	佐久間草偃 ・ **西村中和** ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	林泉に三重金閣あり(中略)池を鏡湖といふ、九山八海石あり、御茶水を銀河泉といふ、竜門瀑に鯉魚石あり、安民沢に臥龍石あり				
現在の状況	文化財指定状況	鹿苑寺(金閣寺)庭園(国指定特別史跡・特別名勝)			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他(　　)				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他(　　)				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	挿図No.139に連続する挿図であり、園池の右部分や竜門瀑、安民沢、夕佳亭などが描かれている。図の右側に石段があり、安民沢や夕佳亭が高い位置にあることが分かる。
	水系	図の下半分には園池があり、護岸の近くの水面が所々凍っている描写がある。図の中央やや上には「龍門滝」があり、豊富な水が流れ落ちている。図の左上には「安民沢」が描かれており、中島が見える。
	石組・景石・敷石・敷砂利	園地の護岸に石組があり、池中には岩島がある。また、龍門瀑の部分にも石組があり、滝壺の中には鯉魚石が描かれている。
	植栽	園地の周りには松が多く、柳も植えられている。そのほかの場所にも松は多く、すべての木々に雪が積もっている。
	構造物	夕佳亭の前には柵があり、右側には方形の手水鉢が描かれている。安民沢の中島には層塔が建っている。
	建造物	図の右側に建物がある。上部には夕佳亭とそれに附属した茅葺の建物がある。
	周辺景観	描写なし
背景の種類	無地(庭造の法則ある) ・ 建物・風景(法則麁なる) ・ 風景(遠景をとる庭中)	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他(　　)	
詩歌	なし	意味
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ **冬** ・ 強調せず	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他(　　)	
気象	晴 ・ 雨 ・ **雪**	
人物	人数	計: 2 人(僧侶: 1 人、男性: 1 人)
	行動	図の右側の建物に僧侶が描かれているが、庭園を鑑賞しているかは不明である。園池の脇には傘を差した人物が歩いており、傘をさしていることから雪が降っていると分かる。
動物	園池には鴛鴦が描かれている。	

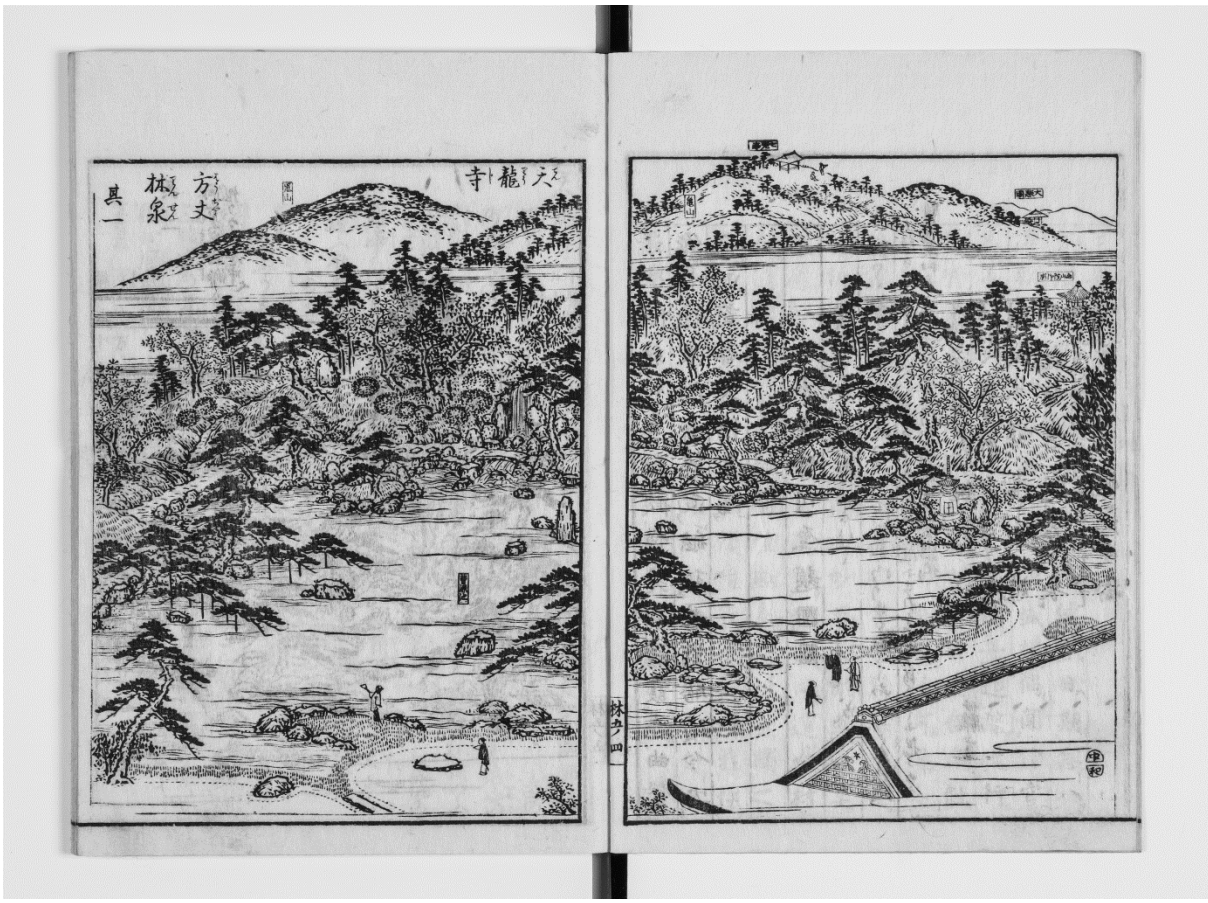
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.88



巻数	四	頁数	林四ノ五十二裏、林四ノ五十三表	挿図番号	№.139
挿図名	其二				
画工名	佐久間草偃 ・ **西村中和** ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	林泉に三重金閣あり(中略)池を鏡湖といふ、九山八海石あり、御茶水を銀河泉といふ、竜門瀑に鯉魚石あり、安民沢に臥龍石あり				
現在の状況	文化財指定状況	鹿苑寺(金閣寺)庭園(国指定特別史跡・特別名勝)			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他( )				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他( )				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	挿図№.138に連続する挿図であり、園池が図の3分の2を占めるほど大きく描かれている。図の右側には金閣があり、その前に園池が広がっている。図の上部には龍門瀑からの流れがあり、その対岸には春日社などがある。
	水系	図の右上にある龍門瀑からの流れが、図の中央上部の池に入り、そこから金閣の前に大きく広がる園池「鏡湖池」に水が流れ込んでいる。鏡湖池には中央下部に大きな中島と、その上に「亀島」が描かれている。そのほか池中には景石が多くある。園池の岸付近には氷が張っている。流れの側には「岩下水」「銀河泉」がある。
	石組・景石・敷石・敷砂利	金閣の正面の池中には金閣の右側面から正面にかけて「夜泊石」があり、その手前には「九山八海石」がある。図の左側にある岬の先には「赤松石」、岬の奥側には「畠山石」がある。
	植栽	全体的に松が多く、図の左上には松並木のように並べて植えられている。樹木の上部は白く縁どられ、雪が積もった描写がされている。
	構造物	図の下部の中島の右端には火袋が丸い石燈籠がある。岬には六角型石燈籠があり、春日社の前には鳥居が描かれている。その奥の流れには橋が架かり、奥の園池から鏡湖池への流れにも橋が架けられている。奥の園池の左岸には「橋野三平塔」と書かれた石造物がある。
	建造物	図の右には金閣があり、流れの側には岩下水を覆う茅葺の屋根がある。図の上部には春日社があり、その前方には茅葺の建物が描かれている。
	周辺景観	図の左上には雪の積もった山が描かれており、「衣笠山」と書き記されている。
背景の種類	無地(庭造の法則ある) ・ 建物・風景(法則麁なる) ・ **風景(遠景をとる庭中)**	
庭園の機能	**定点鑑賞** ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他( )	
詩歌	なし	意味
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ **冬** ・ 強調せず	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他( )	
気象	晴 ・ 雨 ・ **雪**	
人物	人数	計: 9 人(僧侶: 2 人、男性: 7 人)
	行動	金閣の側の庭内には見物に訪れた人物が2人描かれ、両者が傘をさしていることから雪が降っていることが分かる。金閣の一層目には座って鑑賞する人物が描かれ、二層目、三層目には縁に立って鑑賞している。金閣からの庭園を鑑賞することができたようである。
動物	鏡湖池には鴛鴦が多く描かれている。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.89



巻数	五	頁数	林五ノ四裏、林五ノ五表	挿図番号	№.142
挿図名	天龍寺　方丈　林泉　其一				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	記述なし				
本文における庭園記述	この方丈の林泉は開基夢窓国師の作りたまふ、亀尾山、あらし山、大堰川、戸難瀬滝を庭中の荘として、この辺の妙境なり				
現在の状況	文化財指定状況	天龍寺庭園（国指定史跡・特別名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	夢窓国師				

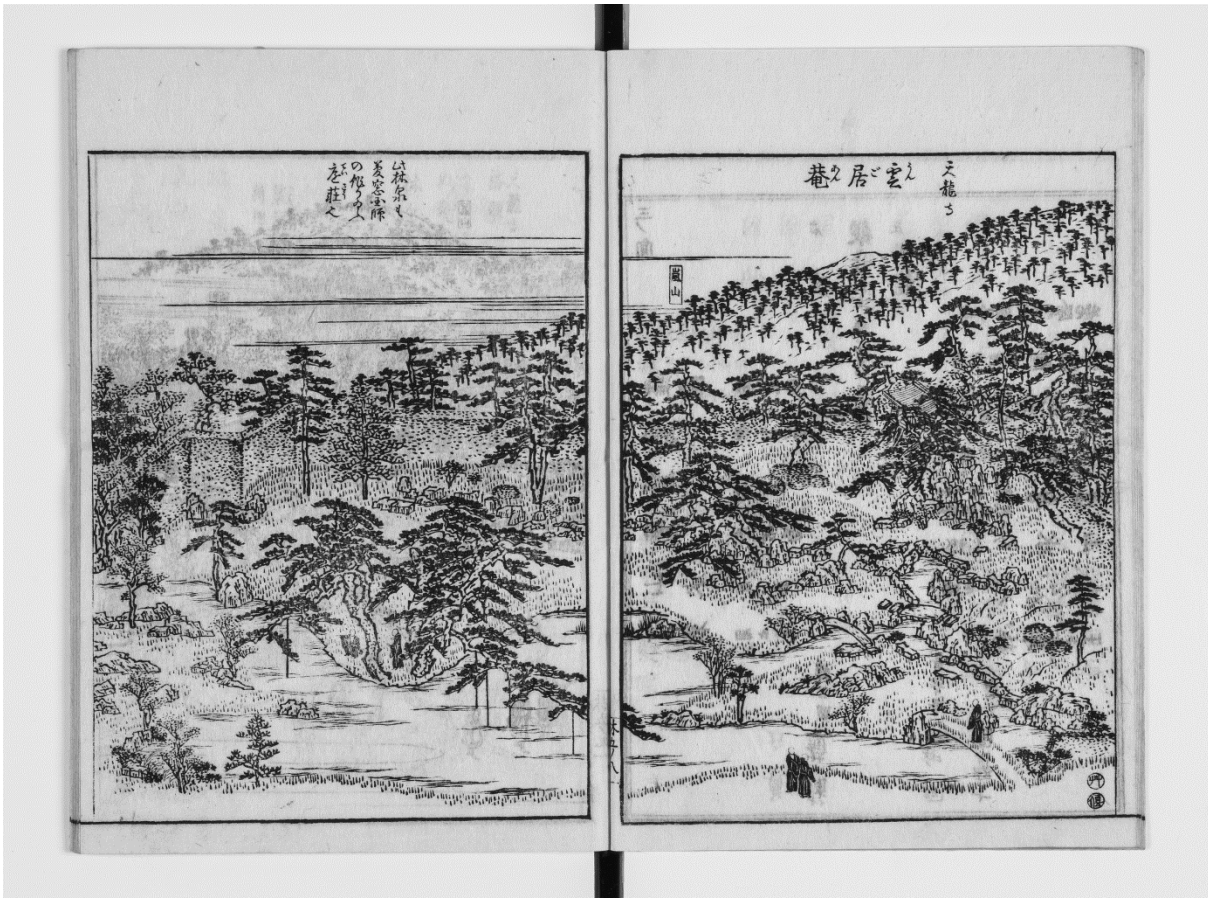
庭園構成要素	地割	挿図№.143に連続する挿図であり、図の下部の園池が描かれ右下には建物がある。園池の背後は築山になっており、中央部からは滝がある。庭園の背後には山が描かれ、庭園の景としていることが分かる。図の右側の築山には亀山院御廟に向かう園路がある。
	水系	図の下部いっぱいに描かれた園池「曹源池」は建物正面に岬があり、その左側にも小さな岬がある。図の右には中島があり、土橋が架かっている。築山の中央には滝があり、曹源池に水が流れ込んでいる。
	石組・景石・敷石・敷砂利	園地の岬部分や中島、対岸の護岸や滝部分に多く石組がある。池中にも景石があり、図の中央や園池の左部に見られる。滝には水分石がある。建物前は白砂敷である。
	植栽	松が多く、建物前の護岸や園池左部には池に張り出した松が描かれている。築山には松の他に楓や刈込が見られる。建築前の岸には地被類があり、築山にも別種の地被類が見える。
	構造物	滝の前には自然石の橋が架かり、その右側には枯流れに架かる切石橋がある。図の右の中島には土橋が架かっている。中島には多宝塔がある。
	建造物	図の右下には方丈の屋根が描かれ、図の右上には園路の先に「亀山院御廟」と書き記された建物が見える。
	周辺景観	庭園の背後には山並みが描かれ、図の中央には「亀山」が書き記されている。亀山には「七老亭」と書かれた亭があり、その側には人物が描かれている。その右の山には「大悲閣」と書かれた建物が描かれている。図の左側の山には「嵐山」と書かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：7 人（僧侶：1 人、武士：3 人、男性：3 人）
	行動	建物正面に人物が描かれており、岬や滝を見ており、見どころを暗示している。図の左側には岬に立っている人物がおり、鑑賞のポイントであることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.90

巻数	五	頁数	林五ノ五裏	挿図番号	No.143
挿図名	其二				
画工名	佐久間草偃 ・ **西村中和** ・ 奥文鳴				
挿図中における記述	開山夢窓国師作りたまふ庭中なり				
本文における庭園記述	この方丈の林泉は開基夢窓国師の作りたまふ、亀尾山、あらし山、大堰川、戸難瀬滝を庭中の荘として、この辺の妙境なり				
現在の状況	文化財指定状況	天龍寺庭園（国指定史跡・特別名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉** ・ 枯山水 ・ 露地 ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	夢窓国師				

庭園構成要素	地割	挿図No.142に連続する挿図であり、園池の左部が描かれている。
	水系	図の右下に曹源池の左部が描かれており、橋の奥に水門が見られる。
	石組・景石・敷石・敷砂利	曹源池の左部には石組が多くある。図の右下には点線があることから園池の前面は白砂敷であることが分かり、石組部分は白砂が敷かれていない。
	植栽	松が多く植えられている。築山にある大きな樹木は杉か。庭園の背後は生垣がある。築山は地被類で覆われ、石組の裾部は別種の地被類が見られる。
	構造物	水門の前に切石橋がある。
	建造物	描写なし。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）** ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ 風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ **強調せず**	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 3 人（男性： 1 人、女性： 2 人）
	行動	橋の前に人物が描かれ、園路の先に進もうとしていることが分かる。建物前からの鑑賞だけでなく、回遊も可能であることが分かる。
動物	描写なし。	

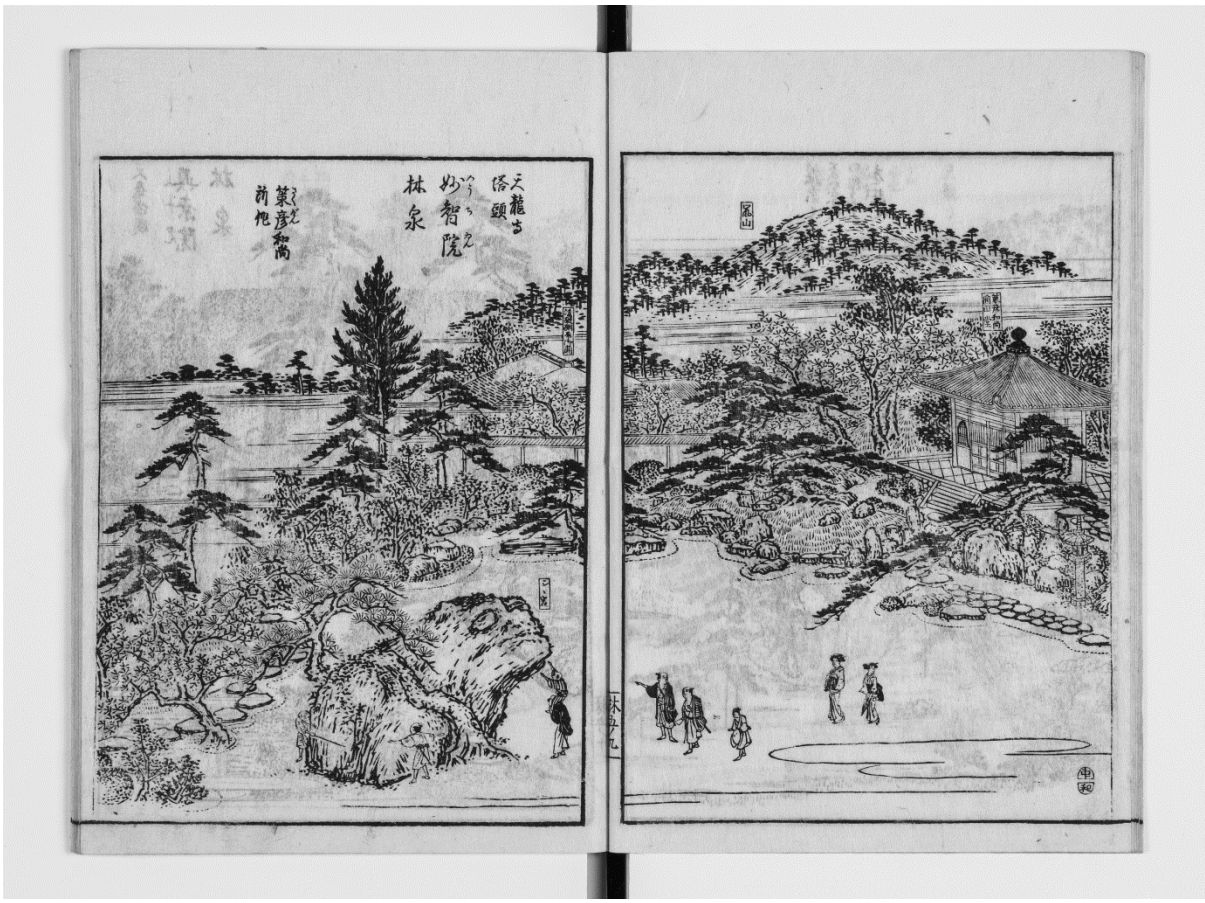
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.91



巻数	五	頁数	林五ノ八裏、林五ノ九表	挿図番号	No.144
挿図名	天龍寺　雲居菴				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	この林泉も夢窓国師の作りたまふ庭荘なり				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	現存せず			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	夢窓国師				

庭園構成要素	地割	図の下部には細長い園池があり、その右奥には築山がある。背後には嵐山を望む。
	水系	図の下部の細長い園池には中島があり、中島より左側はなだらかな曲線を描いた護岸であるが、中島の右側と、その奥の池は護岸石組により印象を変えている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	園池の右部に石組護岸が多く、その背後の築山にも石組が多くある。
	植栽	松が多く、建物前の護岸や園池左部には池に張り出した松が描かれている。築山には松が多く、図の左の池岸の松は池に張り出している。庭園の奥は生垣によって区切られている。池岸や築山には地被類が見られる。
	構造物	中島には2方から橋が架かり、手前から中島にかけては土橋が架かり、中島から対岸へは細い自然石の橋が架かっている。その奥の池部分にも自然石の橋が架かる。
	建造物	図の右奥に瓦葺の建物が見える。
	周辺景観	庭園の背後には「嵐山」と書き記された山が描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：5 人（僧侶：5 人）
	行動	図の右下に人物が描かれており、そこが鑑賞のポイントであることが分かる。また土橋の上にも人物が描かれている。図の左の池の岸の松の根元にも人物が描かれており、松に注目させるためか、そこからの景も鑑賞のポイントであったのか。
動物	描写なし。	

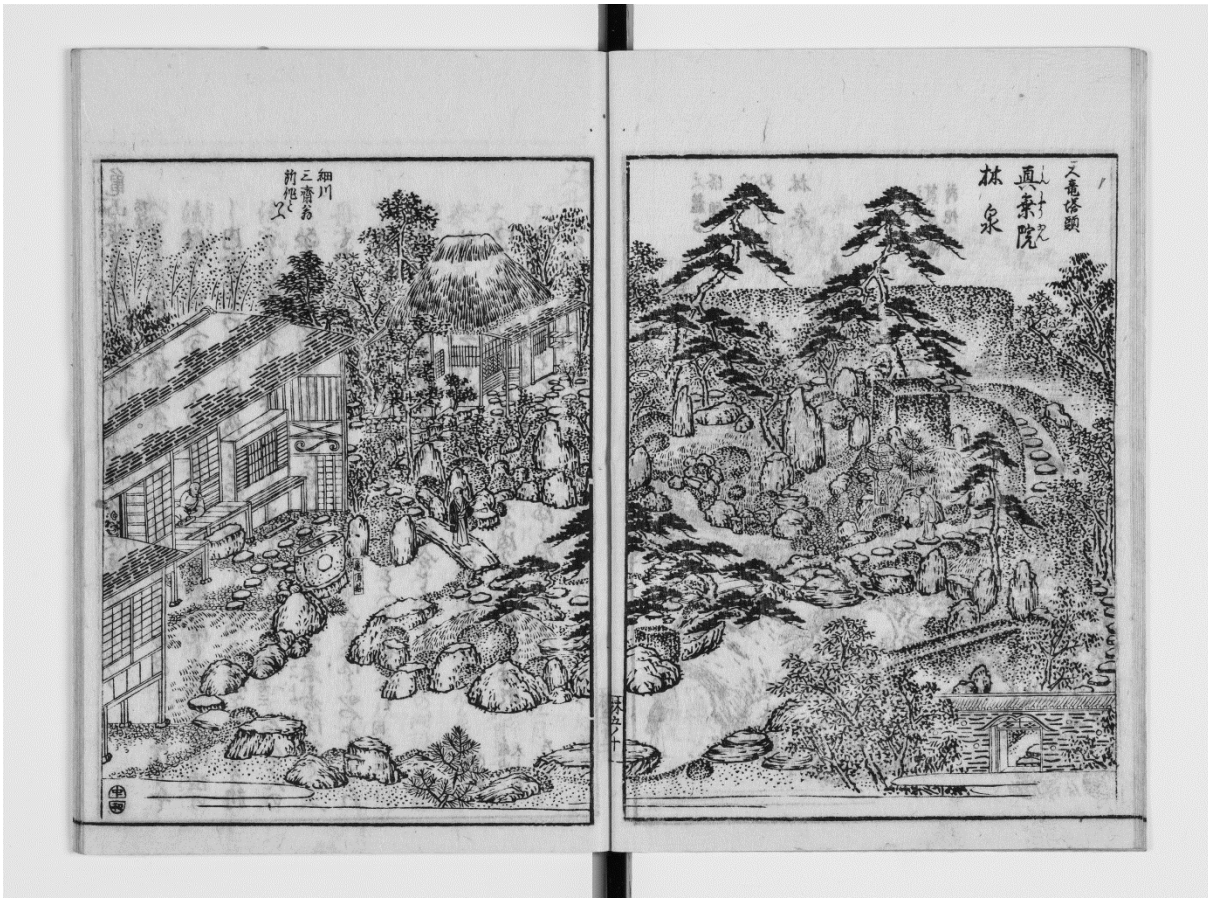
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.92



巻数	五	頁数	林五ノ九裏、林五ノ十表	挿図番号	No.145
挿図名	天龍寺塔頭　妙智院　林泉				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	策彦和尚所作				
本文における庭園記述	妙智院の庭中は僧良策彦の造れるなり				
現在の状況	文化財指定状況	庭園は大きく様変わりしているが、天竜寺塔頭宝厳院にシシ岩がある。			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他(　　)				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他(　　)				
作庭者	良策彦				

庭園構成要素	地割	白砂敷の平庭に大きなシシ岩を庭園の主役とし、石組や植栽は塀に沿って配置されている。図の右側には開山堂があり、開山堂の前には築山が築かれている。庭園の背後には山並みが描かれている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の左には「シゝ岩」と書き示された巨石がある。シシ岩の背後には飛石が打たれ、左へ曲がっている。石組は庭園奥の塀沿いや開山堂の前に多くある。図の右側には延段があり、途中から飛石に変化し、開山堂へ続いている。
	植栽	植栽は庭園の周囲にあり、松や楓、杉などがある。図の下部にはシシ岩に乗りかかるように松が生えている。
	構造物	図の右辺に宝珠ではなく相輪を乗せた石灯籠がある。
	建造物	図の右に「策彦和尚開山堂」と書かれた建物が描かれている。庭の奥には塀がある。
	周辺景観	庭園の背後には「後醍醐帝御廟」と書き記された建物の屋根がが見える。またその背後には「嵐山」が見える。
背景の種類	無地(庭造の法則ある)　・　建物・風景(法則麁なる)　・　**風景(遠景をとる庭中)**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他(　　)	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他(　　)	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計:　9　人(男性:　5　人、女性:　2　人、子供:　2　人)
	行動	人物らはシシ岩の近くに描かれ、肩車されて岩に触れたり、シシ岩に張り付いてどの程度の大きさかを確かめたりしている。シシ岩が庭園の見どころであることを知らせるとともに、どれほど大きいかを読者に知らせるための演出がされている。
動物	描写なし。	

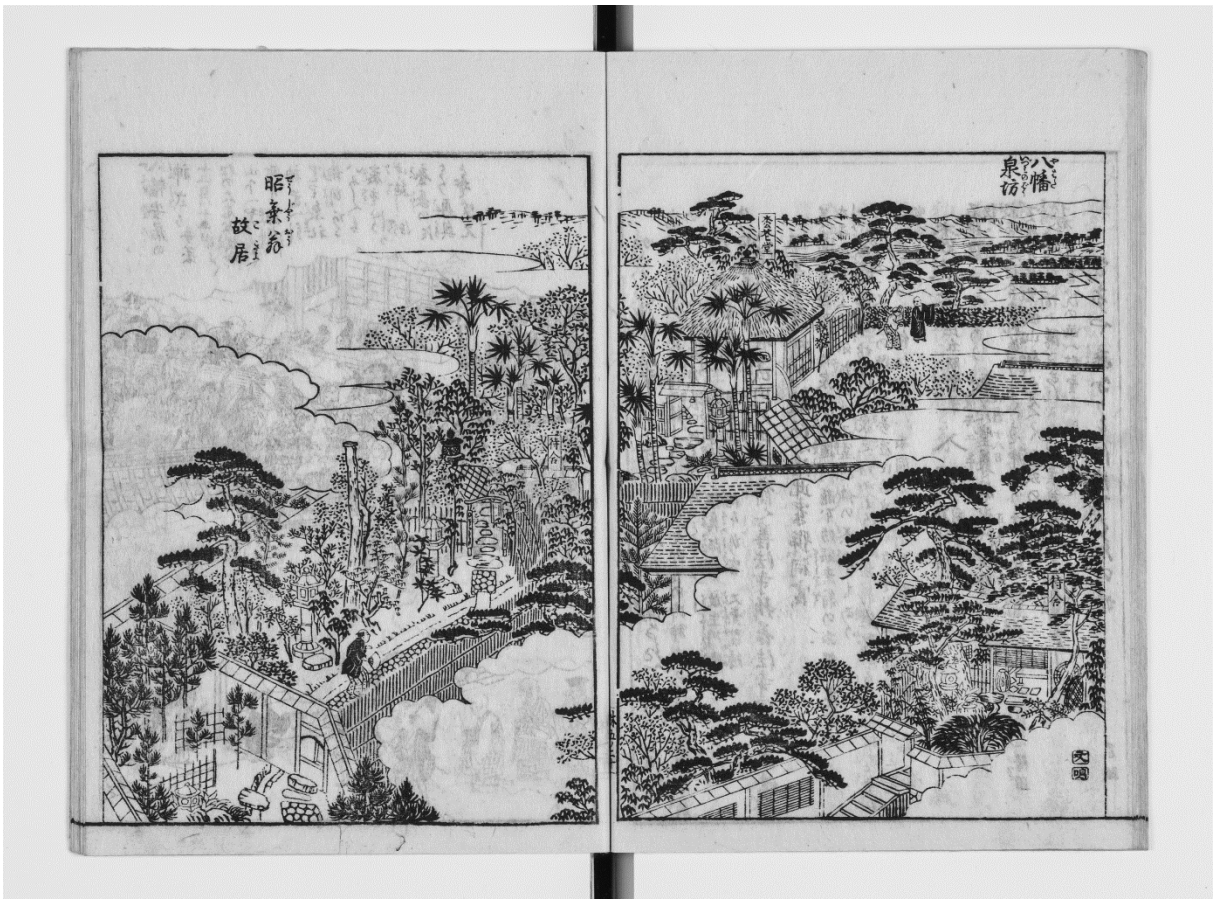
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.93



巻数	五	頁数	林五ノ十裏、林五ノ十一表	挿図番号	No.146
挿図名	天竜塔頭　真乗院　林泉				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	細川三斎翁所作といふ				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	細川三斎				

庭園構成要素	地割	中央に大きな枯池があり、中には中島もある。枯池の奥には築山が築かれ、その背後には茶室前から飛石が打たれ、回遊できるようになっている。
	水系	描写なし
	石組・景石・敷石・敷砂利	枯池や中島の護岸、築山の上に多く石組や景石が見られる。築山の右方には枯流れがあり、玉石敷になっている。図の右の建物前は玉石敷となり、飛石が打たれている。茶室前にも飛石が打たれ、築山の背後を通り、右下の門まで続いている。
	植栽	松や刈込などが植えられ、建物の背後には竹や楓が見える。築山や中島、建物の前には地被類が見られる。
	構造物	建物の前には沓脱石と「亀頂塔」と書かれた手水鉢があり、茶室前に貼蹲踞が見られる。中島には2方から橋が架かり、建物前は自然石の橋、枯流れ側には切石の反り橋が架かっている。流れの脇には織部型の石燈籠がある。
	建造物	図の左部に建物があり、その奥には茅葺の茶室がある。図の右下には瓦土塀がある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（僧侶：1 人、武士：1 人、男性：1 人）
	行動	橋の上に立っている人物を室内から案内する様子が描かれ、橋の上が鑑賞のポイントであることが分かる。また、織部燈籠の側にそれを鑑賞する人物がおり、この庭園の見どころのひとつであることが分かる。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.94

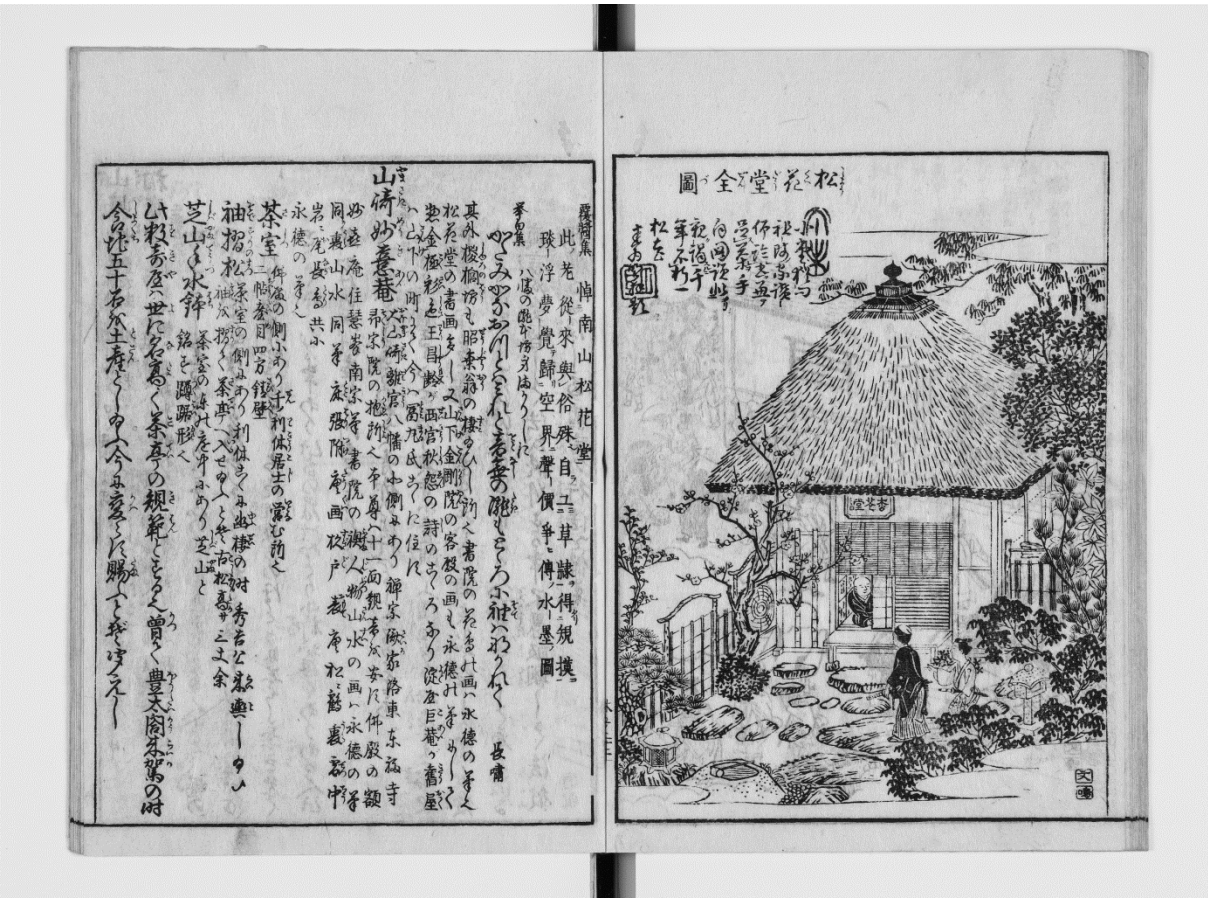


巻数	五	頁数	林五ノ二十裏、林五ノ二十一表	挿図番号	No.150
挿図名	八幡泉坊				
画工名	佐久間草偃 ・ 西村中和 ・ **奥文鳴**				
挿図中における記述	昭乗翁故居				
本文における庭園記述	石灯炉庭中にあり、銘曰、慶安二年　松花堂尊前永代夜灯　九月十八日　正良敬白 数寄屋待合等風流にして、庭中より宇治川、朝日山、小倉池、伏見沢田、黄檗、木幡里、城山、鮮かに見えて無双の妙景なり				
現在の状況	文化財指定状況	松花堂およびその跡（国指定史跡）、松花堂および書院庭園（国指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉 ・ 枯山水 ・ **露地** ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	松花堂の露地を中心に、右下には待合が描かれている。松花堂の背後は眺望の開かれた様子が描かれ、高地に立地していることが分かる。
	水系	外露地の延段の左側に水路が見える。
	石組・景石・敷石・敷砂利	景石は少ない。露地には延段があり、揚戸を抜けると飛石に変わっている。
	植栽	露地には杉や松、棕櫚など様々な樹木が植えられている。
	構造物	図の右下には石組の上に燈籠が置かれ、その脇には柵が置かれている。塀から揚戸間の露地には四角型石燈籠と六角型石燈籠があり、水路には小さな橋が架かっている。揚戸から門の間には蹲踞と六角型石燈籠がある。揚戸の側には金属製の燈籠がある。図右下の待合には蹲踞と火袋が丸い燈籠が描かれている。
	建造物	右下には待合が大きく描かれ、塀や門に囲まれている。露地の左側は塀で隔てられており露地の奥に茶室があり、「松花堂」と書き記されている。
	周辺景観	松花堂の背後には田畑が広がり、その向こうには川と山並みが描かれている。本文には庭内から宇治川、朝日山、小倉池、伏見沢田、黄檗、木幡里、城山が見えると記されていることから、川は宇治川であることが分かる。
背景の種類	無地（庭造の法則ある） ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ **風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	なし	意味
季節	春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ **強調せず**	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 3 人（僧侶： 1 人、武士： 2 人）
	行動	露地には延段の上を歩く人物が描かれている。松花堂の右側には武士を案内する僧侶が描かれ、眺望を見ているようである。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票

調査票No.95



巻数	五	頁数	林五ノ二十二裏	挿図番号	No.152
挿図名	松花堂全圖				
画工名	佐久間草偃 ・ 西村中和 ・ **奥文鳴**				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	石灯炉庭中にあり、銘曰、慶安二年　松花堂尊前永代夜灯　九月十八日　正良敬白 数寄屋待合等風流にして、庭中より宇治川、朝日山、小倉池、伏見沢田、黄檗、木幡里、城山、鮮かに見えて無双の妙景なり				
現在の状況	文化財指定状況	松花堂およびその跡（国指定史跡）、松花堂および書院庭園（国指定名勝）			
	現況				
庭園種別	**寺院** ・ 神社 ・ 別荘 ・ 町屋 ・ 武家 ・ その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉 ・ 枯山水 ・ **露地** ・ 借景 ・ 坪庭 ・ その他（　　）				
作庭者	記述なし				

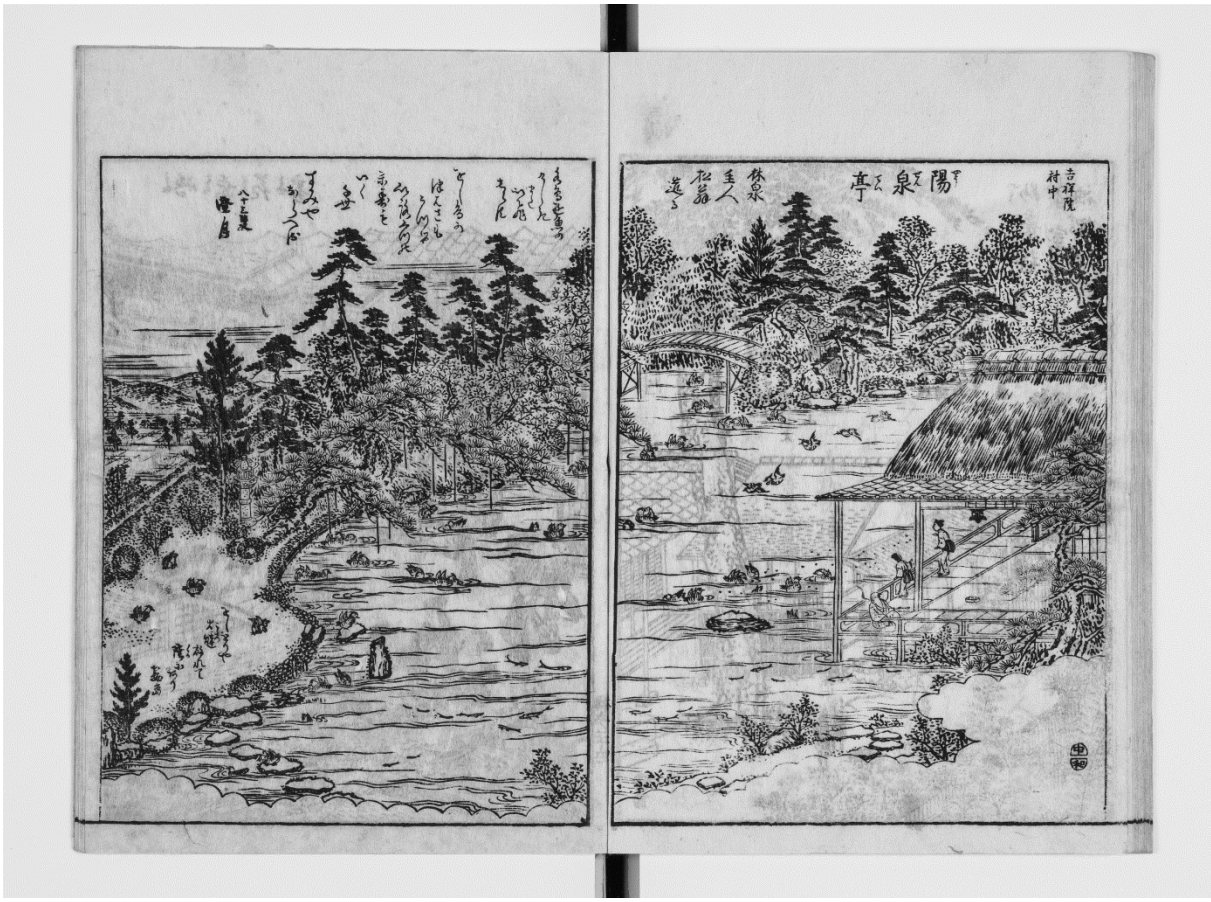
庭園構成要素	地割	挿図No.150にある松花堂の後方、眺望側を描いた挿図である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の左下に鉢前の石組が描かれている。松花堂前には飛石が打たれ、茶室と門の方へ延びている。
	植栽	松花堂の左には梅があり、蜘蛛の巣が架かっている。蹲踞の左には松が描かれている。
	構造物	図の左下には蹲踞があり、右側には勧修寺型に似た石燈籠がある。松花堂の右わきには柵があり、左側には柵と門が描かれている。
	建造物	松花堂が描かれており、屋根は茅葺で屋頂には宝珠が乗っている。本文には「数寄屋四畳半、水屋壱畳半、勝手二畳、三竈物置棚あり、古体の唐戸両開き、天井は藤にて編、屋根茅葺、額八分」と紹介されている。
	周辺景観	描写なし
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）** ・ 建物・風景（法則麁なる） ・ 風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞 ・ **回遊** ・ 茶事 ・ 宗教 ・ 戸外活動 ・ その他（　　）	
詩歌	小堂猶祖師ノ家 讃仰臨シ書兼テ品スレ茶ヲ 手自画題似タリニ親ク謁スルー 千年不シ朽一松花 半斎明拝題	意味：松花堂を詠んだ詩か。名勝に関連する詩歌を紹介している。
季節	**春** ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬 ・ 強調せず	
時間帯	朝 ・ **日中** ・ 夕方 ・ 夜 ・ その他（　　）	
気象	**晴** ・ 雨 ・ 雪	
人物	人数	計： 3 人（僧侶： 1 人、武士： 2 人）
	行動	茶室内にいる僧侶が庭中の人物らを出迎えている様子が描かれている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.96

巻数	五	頁数	林五ノ二十四表	挿図番号	No.153
挿図名	妙憙菴　茶室　袖摺松				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	袖摺松（茶室の側にあり、利休こゝに幽棲の時秀吉公来輿したまひ、袖を摺て茶亭へ入せたまふとぞ。古松高さ三丈余） 芝山手水鉢（茶室の東の庭中にあり、芝山と銘す、蹲踞形なり）				
現在の状況	文化財指定状況	妙喜庵書院及び茶室（待庵）（国宝）			
	現況				
庭園種別	**寺院**　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　その他（　　）				
庭園の形態	築山林泉　・　枯山水　・　**露地**　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	茶室とその前の露地を描いている。待庵の側には大きな松が描かれている。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	茶室の躙り口まえに飛石が打たれており、奥へ続いて右に折れている。手水鉢の奥に景石が据えられている。
	植栽	庭中には「袖摺松」と記された松の大木が目立ち、その他の植物は塀沿いに少しあるばかりである。
	構造物	茶室前には手水鉢があり、「芝山手水鉢」と記されている。図の右側の建物の前には沓脱石がある。
	建造物	図の中央には茶室があり、本文には「茶室（仏殿の側にあり、千の利休居士の営む所なり、二帖台目四方錆壁）」と記述されており、待庵という名前は出てこない。茶室の右側にある建物は仏殿か。
	周辺景観	垣の外には竹や棕櫚などの植物が描かれている。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	松老ぬ紙子の袖もすれざらめ 簫山 妙喜庵中憶フニ古禅ヲー 茶窗簷朽チ絶ユニ茶烟ヲー 唯余テニ老衲ヲー眉如レ霜 先ヅ説豊公臨至年 草廬	意味：袖摺松と茶室を詠んだ詩歌であり、名勝を強調する働きがある。
季節	春　・　夏　・　秋　・　冬　・　**強調せず**	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：4 人（男性：4 人）
	行動	旅装をした人物らが庭中を散策している。躙口から茶室内をのぞき込んでおり、見どころを示す働きを持つ。松の側にいる2人の人物らは松を見上げ、その大きさに驚いている様子である。これも見どころを強調する働きを持つ。
動物	描写なし。	

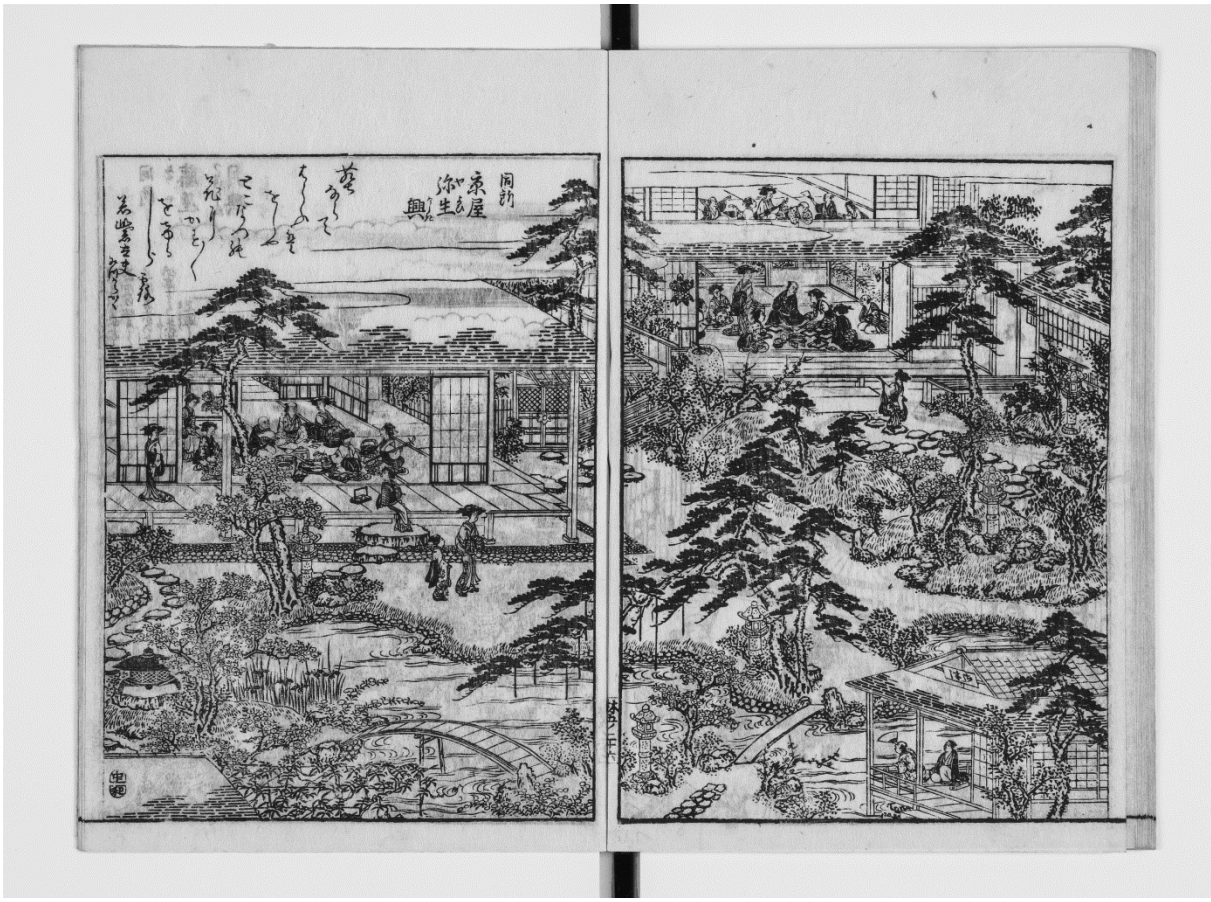
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.97



巻数	五	頁数	林五ノ二十四裏、林五ノ二十五表	挿図番号	No.154
挿図名	吉祥院村中　陽泉亭				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	不明			
庭園種別	寺院　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　**その他（　不明　）**				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	図の中央には大きな園池があり、右側には園池に張り出した建物がある。園池の奥には橋が架かり、築山には園路も見える。庭園からは眺望も望め、図の左には田畑や山並みが描かれている。
	水系	庭園を大きく占める園池には左下に沢飛石が打たれ、その右側の護岸は洲浜になっている。さらに奥はしがらみである。
	石組・景石・敷石・敷砂利	図の右下の岸に飛石があり、図左下の園池には沢飛石がある。図の左部の洲浜状の護岸には園池に下りられるようになっている。池中には沢飛石の右側や建物正面に景石がある。
	植栽	築山部分に多く、松や楓、杉、刈込などが描かれている。図の左には生垣がある。
	構造物	園池の奥に木製の反り橋が架かっている。反り橋の右側には四角柱の棹の石燈籠が描かれ、図の左の生垣の側には六角型石燈籠が見える。
	建造物	図の右に園池に張り出した茅葺屋根の建物が描かれている。
	周辺景観	図の左には田畑や山並みが描かれている。
背景の種類	無地（庭造の法則ある）　・　建物・風景（法則麁なる）　・　**風景（遠景をとる庭中）**	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	水鳥遊魚のけしきまたいひしらす をし鳥のつはさもうつるいろかつのかすも いく千世すみやかならへる 八十三叟澄月 をしとりや火燵放れて陸にあり 籬島	意味：どちらも鴛鴦について詠まれた歌であり、この名所の見どころであったことが分かる。
季節	春　・　夏　・　秋　・　**冬**　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：3 人（男性：2 人、女性：2 人）
	行動	縁に立って鴛鴦に餌をあげている様子が描かれていることから、園池に多く描かれた鴛鴦とともに、この庭園の見どころであることが分かる。また縁に座ってキセルをふかしながら庭園を眺める様子も描かれている。庭内に人物が描かれていないことから、室内からの鑑賞を示唆しているが、この図には違った様子を描いた図もある。
動物	園池に多くの鴛鴦や魚が描かれている。	

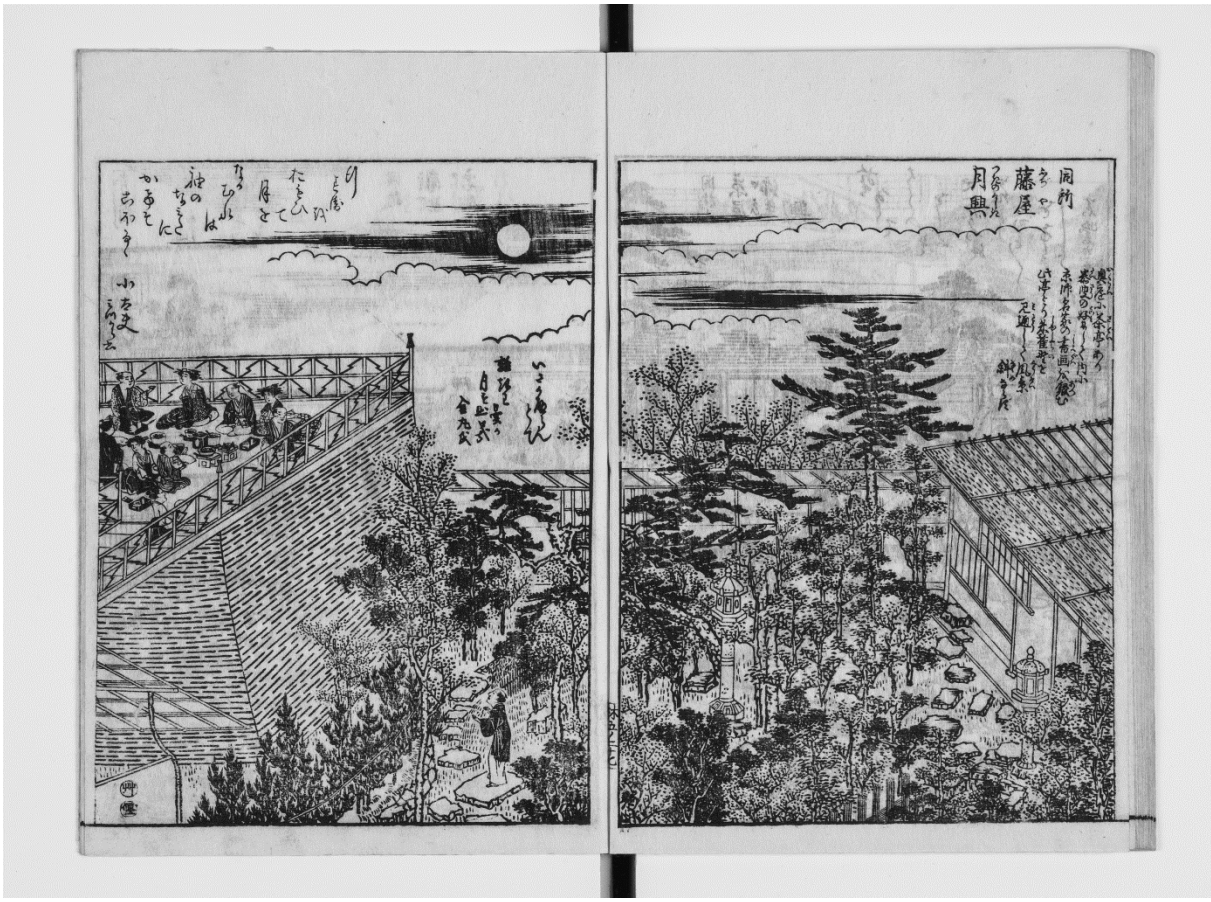
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.98



巻数	五	頁数	林五ノ二十六裏、林五ノ二十七表	挿図番号	№.156
挿図名	同所　京屋　弥生興				
画工名	佐久間草偃　・　**西村中和**　・　奥文鳴				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	寺院　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　**その他（　置屋・揚屋　）**				
庭園の形態	**築山林泉**　・　枯山水　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	図の右上には枯山水があり、飛石のある平庭を築山が囲んでいる。図の下部には園池が広がり、種々の植物でにぎわっている。図の右下には園池に張り出す建物もある。
	水系	図の下部に園池が広がっている。なだらかな護岸は護岸石組がされており、出島には橋が架けられている。
	石組・景石・敷石・敷砂利	枯山水部分は飛石があり、築山に少しの石組が見られる。園池部分では建物から延びる飛石が反り橋まで打たれている。橋の部分や燈籠の側に石組が見られる。図の左の建物の雨落ちには小さい玉石の外に大きな玉石が敷き詰められ、2重になっている。
	植栽	松と桜が多く、図の右側の建物前には梅が見られ、園池部分には藤や山吹、燕子花、梅が植栽されている。築山と護岸に地被類が見られる。
	構造物	枯山水部分の建物の右脇には縁先手水鉢があり、築山央には2基の六角型石燈籠が据えられている。園池には建物前と石橋付近に六角型石燈籠があり、図の下部中央には四角型石燈籠、図の左には金属製の雪見燈籠が据えられている。橋は木製の反り橋と石橋が架かっている。
	建造物	図の上部には建物が描かれ、右側には2階建ての建物があり、左側には大きな座敷を持つ建物が描かれている。その間には門と塀が見られる。園池を挟んだ反対側には園池に張り出した建物があり、左下にも屋根が描かれている。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	**定点鑑賞**　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	塵ならてはらふはをしやとこなつの 花にかずかずをけるしら露 若紫太夫 みつからかく	意味
季節	**春**　・　**夏**　・　秋　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　**日中**　・　夕方　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：　29　人（男性：　10　人、女性：　19　人）
	行動	枯山水部分では飛石を歩く女性が2階の男性と話しているような姿が描かれ、園池部分では庭先に出た女性を対岸の建物の中から呼んでいる様子が描かれている。庭内を通って建物を移動していることから、散策が可能な庭園であることが分かる。
動物	描写なし。	

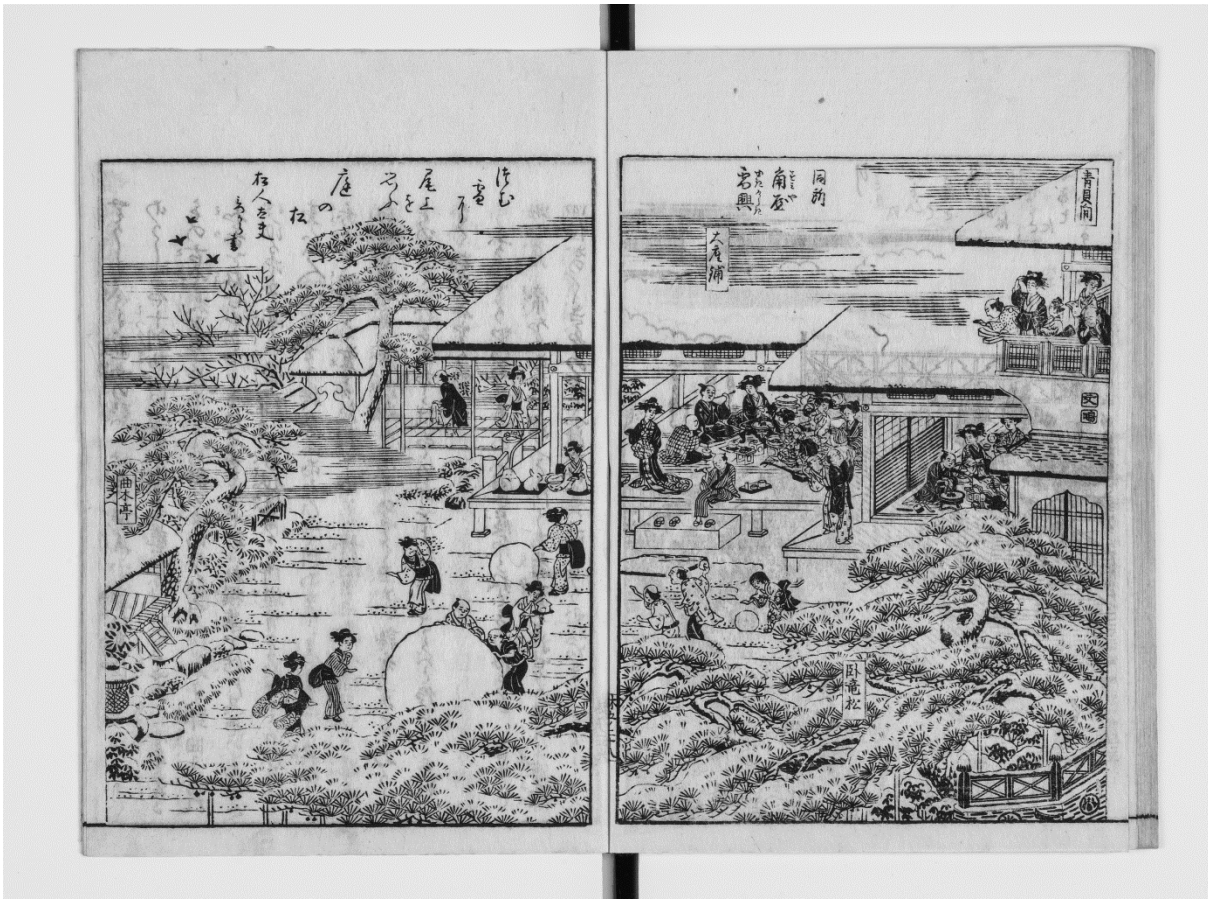
『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票No.99



巻数	五	頁数	林五ノ二十七裏、林五ノ二十八表	挿図番号	No.157
挿図名	同所　藤屋　月興				
画工名	**佐久間草偃**　・　西村中和　・　奥文鳴				
挿図中における記述	奥庭に茶亭あり 泰叟の好にして内に京師名家の書画を聚む。この亭より朱雀野を見通して風景斜ならず				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況				
	現況	現存せず			
庭園種別	寺院　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　**その他（　置屋・揚屋　）**				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	図の左右に建物があり、その間に造られた茶庭である。
	水系	描写なし。
	石組・景石・敷石・敷砂利	目立った石組はなく、図の右の茶室前には飛石があり、図の中央にある門前には延段があり、途中で飛石に変わっている。
	植栽	樹木が多く鬱蒼として見る。松が多く、図の左下には杉が並んで植えられている。
	構造物	茶室前と図の中央に六角型石燈籠が据えられている。
	建造物	図の右側には茶室があり、図内で記述された泰叟という人物の好みで造られた茶室と思われる。その対面には瓦入りの練り土で築かれた楼台がある。庭園の奥には塀と門がある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　**回遊**　・　茶事　・　宗教　・　戸外活動　・　その他（　　）	
詩歌	いさかへらんとて 離れき曇か月そ出口かな 金丸氏 行くすゑをおもひて月をなかむれは 袖のなみたにかけそこほるる 小太夫	意味：2首とも月を題材として詩歌であり、挿図の情景に合わせたものが選択されている。
季節	春　・　夏　・　**秋**　・　冬　・　強調せず	
時間帯	朝　・　日中　・　夕方　・　**夜**　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：9 人（男性：6 人、女性：3 人）
	行動	庭内には飛石上に人物が1人描かれ、楼台の上の人物と会話をしている様子が描かれている。楼台では饗宴が催されている。
動物	描写なし。	

『都林泉名勝図会』林泉図調査票	調査票№.100



巻数	五	頁数	林五ノ二十八裏、林五ノ二十九表	挿図番号	№.158
挿図名	同所　角屋　雪興				
画工名	佐久間草偃　・　西村中和　・　**奥文鳴**				
挿図中における記述	詩歌参照				
本文における庭園記述	記述なし				
現在の状況	文化財指定状況	角屋の庭（玄関庭・東坪庭・中坪庭・西坪庭・座敷庭）（京都市指定名勝）			
	現況				
庭園種別	寺院　・　神社　・　別荘　・　町屋　・　武家　・　**その他（　揚屋　）**				
庭園の形態	築山林泉　・　**枯山水**　・　露地　・　借景　・　坪庭　・　その他（　　）				
作庭者	記述なし				

庭園構成要素	地割	座敷に面した平庭であり、図の左側には茶室がある。図の右下には大きな松がある。
	水系	描写なし
	石組・景石・敷石・敷砂利	茶室前に飛石が数個打たれているのみである。
	植栽	図の右下に「臥竜松」と書かれた松の大木が描かれている。そのほか茶室周りに松などの植栽が見られる。
	構造物	座敷正面には切石の沓脱石があり、渡廊下に面した縁には橋杭型の縁先手水鉢が見られる。また、茶室前には金属製の雪見燈籠が描かれている。
	建造物	図の右に建物があり、2階部分には「青階間」、中央の座敷は「大座鋪」と書き記され、大座敷の左には渡廊下が続いている。図の左下には「曲木亭」と書かれた茶室がある。
	周辺景観	描写なし。
背景の種類	**無地（庭造の法則ある）**　・　建物・風景（法則麁なる）　・　風景（遠景をとる庭中）	
庭園の機能	定点鑑賞　・　回遊　・　茶事　・　宗教　・　**戸外活動**　・　その他（　　）	
詩歌	つむ雪に尾上を思ふ庭の松 松仁太夫 みつから書	意味：雪が積もった臥竜松を詠んだ歌か。名勝を強調する働きがある。
季節	春　・　夏　・　秋　・　**冬**　・　強調せず	
時間帯	朝　・　日中　・　**夕方**　・　夜　・　その他（　　）	
気象	**晴**　・　雨　・　雪	
人物	人数	計：33 人（男性：14 人、女性：19 人）
	行動	庭内には雪球を転がしたり、雪合戦をしたりする姿が描かれている。
動物	図の左上に鳥が飛んでいる。	